滿洲日報

發行人 山口[illegible] 編輯人 山下[illegible] 發行所 滿洲日報社 [illegible]

新年を迎ふ

未年は羊で平和を象徴し瑞祥を表現すべしなどは昔のこと、今日は午も未もあつたものではない。悲観するの必要はないが、これからは年々歳々世界の旋風に煽らるゝところの厄年であると覺悟して居らねばならぬと思ふ。正月匆々、縁喜でもないやうであるが、世界の大勢、極東の時局から察して、われわれは決して安閑たるを得ぬのである。現に歐洲大戰に出發せる世界的不景氣は幾多の對策も効なく滔々乎として世界人類を渦濶せずんば底止せざらんとしてゐる。また隣邦中華民國の安定は依然として混沌たるものといはねばならぬ。

かくの如き時に方りわれわれは昭和五年の連續として今日、昭和六年の新春を迎へる。相當、確乎たる覺悟を以て臨まねばならぬと思ふ。

一方この世界的不景氣に影響せられ一般國民の思想もまた相當動搖を示しつゝあるものとせねばならぬ。殊に失業苦、就職難に惱みつゝあるものにとりては新年、何かあらんやといふやうな感があるであらう。しかも物質文明は滔々として精神文化の牙城を破壞し去らずんば已まざらんとしてゐる。かのアメリカニズムの跳梁、無目的、無反省に挑躁するヂャズの氣分など決して昭和六年に歡迎すべきものではあるまい。われらは物質以外、歐米以上、そこに東洋人の文化を發見し向上せしむるの工夫がなくてはならぬ。勿論、東洋といふも西洋を排斥せんとするものではないが。

時刻は何らの遅疑なく連續として流れる。ただ人間が社會的に新年といひ、舊年といふのみに過ぎぬ。そこでわれわれは昭和六年に新らしい意義、新らしい精神を發見創造せねばならぬのである。いはゆる滿洲問題の如き依然として未解決のまま舊年から新年へと持ち越された。この昭和六年は只滿洲問題だけでも相當に多事多端なりといはねばならぬ。併しわれらは既在の[illegible]を以て既定の權益を擁護して行く確乎たる決心さへあらば問題はないのである。わが在滿同胞は以上の確乎たる方針に随つて日常の仕事を完全に遂行して行くべきである。ただわれらは、その日に日に新なる命を更に更に新にして行かねばならぬだけである。而して新たなる命は常に正義と人類とに合致し、そこにまた羊を象徴したる未年の平和も確得せらるゝことになるのである。

われらは今日、昭和六年の新春を迎ふるに當り東天を拜して聖上陛下の萬歳を祝賀し奉ると共に、われわれが日本國民として生を享けたことを感謝せねばならぬ。而して吾人はこの歡喜を世界の人類と共に分ち味ふことの出來るやう、この昭和六年の劈頭に臨み一年の計といはんよりも、むしろ一年の覺悟を極めねばならぬと思ふものである。

堅實なる志操を以て昭和文明建設に努力

關東長官 太田政弘

[illegible]に新春を迎ふるに方り、私は先づ以て官民一同と共に聖壽の無窮を壽ぎ奉る。

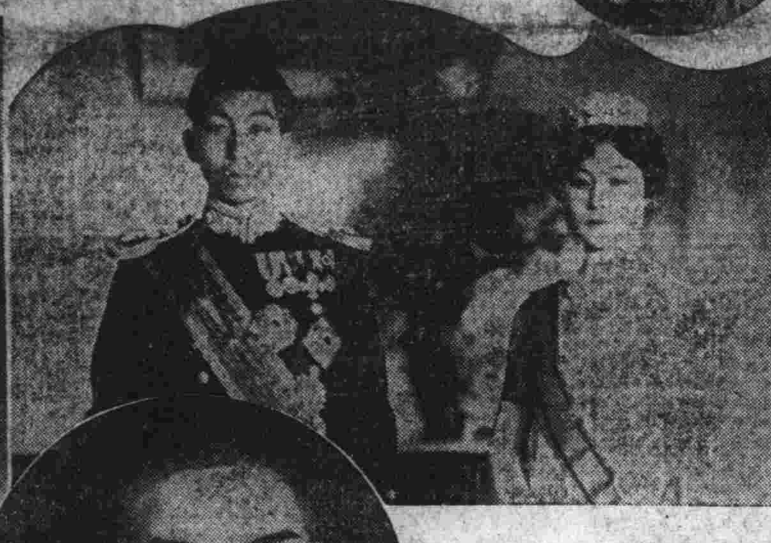
私は過ぐる昭和五年は極めて多事多難なりしに拘らず幸ひにして平穩無事に之を送り得たることに對し衷心感謝の念を禁じ得ない。殊に秩父宮殿下の御來滿に際して示されたる御歡迎の熱誠と官民一致の行動とは所謂大和魂の發露であつて私共の頗る心強さを感じた次第である、私としては十六日の御滯滿中警備上些の遺憾なく此の重責を果し得たるは固より殿下御盛德の然らしむる所であるが直接間接吾人を援助せられたる官民の協力の賜ものであつて之に對しては今尚感激しつゝある所である。又濱口首相の遭難も名醫の靈腕に依りて奇蹟的に危機を脱しその後の經過も頗る順調であると聞く、私は經濟國難の叫ばるゝ今日首相の全快の一日も速かならむことを祈つて止まない。

翻てつらつら現代の世相を觀ずるに、現代は政治界、經濟界乃至思想界等凡ゆる方面に於て變調を來して居る樣に思はるゝ社會現象の何れを見ても常に動きつゝある、變りつゝある甚だしきは病的現象さへも現はれて居る、個々のものが躍動して全體的にも非常なる速度を以て動きつゝある、故に動もすれば價値判斷の轉倒が行はれる卒如としてこの現象に直面すれば人或ひは社會全體が病的になつて居るのではないかとさへ思はるゝ然しながら大所高所に立つて靜かに之を大觀すればその間を自ら一脈底流の力強く流れつゝあるを見逃し得ない。私は要するに現代の社會は今や過渡期に在ると考ふるのである。換言すれば之を我國に付いて見ても明治大正に於て異常なる發達を遂げたる文明が更によりよき文明の檻楼に飛躍する爲めの過程として必然的に經過しなければならぬ所の苦惱を嘗めつゝあるのが現代社會の眞相なりと見るのである。時代自身を過渡期なりと見る吾々は常に個々の事象に對して機宜の措置を誤らざる樣にするは勿論であるが、此等の事象の上に反映する時代相の眞相を捕捉して將來に對する恒久的對策を樹立することを忘れてはならない。恒久的對策を建てる事あるものはたとひ輕微なるものでも萌芽の中に之を芟除するの用意がなければならぬが否らざるものは冷靜に十二分の隱忍を以て之を看過するだけの雅量を必要とする。

この見方、この態度は啻に國內に止まらない。中國乃至滿洲の現狀に就いても變つたことはあるまい。今後吾々滿洲に職を奉ずる者の責任は益々重且大なるものあるを痛感する。斯くて吾人は飽く迄公正中正にして確固たる志操を保持し過渡期を突破して昭和文明の建設に微力を致したいものである。聊か所懷を述べて新春の詞となす

既往滿蒙の發展に於て吾人の所期に遠かりしものあるは吾人の世界的使命に對する自覺の不足か熱意の缺乏か將又隣友邦が吾が正義と眞意を諒解せざりしに依るか[illegible]等は過去を省みると共に茲に改めて更に我日本の國際的環境を大觀し且つ我國內の情況を注視するを要する。然らば吾人は其所に將來に處すべき決心を一層鞏固ならしめざるを得ざる何物かを發見し得ると思ふ。

今や中華友邦は北邊の戰雲遠く散じ南方の擾亂既に治まりて新陽光を收むると共に一意建設の大業に邁進し得る氣運に際會しつゝある。吾人は一層の努力と熱意を以て眞に正を行ひ共に信を以て交はり和合親善在滿人類の福祉を增進し愈々共存共榮の理想に邁進する要ありと認むる。茲に聊か所感を述べ賀詞に代ふる次第である。



いや榮えます
竹の園生
(宮內省御貸下)

我使命を自覺せよ
在滿同胞を地下の勇士が加護

關東軍司令官 菱刈隆

新年は人生に更新の動機を與ふる深き意義を持つて居る。吾人は此機會に大觀猛省して此新なる年に處する確固不拔の決意を革めねばならぬ。

吾人同胞滿蒙に立ち日華共榮の理想を出現し華人と重暉積慶の喜びを共にすべく努力してより茲に二十有餘年其効今果して幾何ぞや。白玉の靈塔を仰ぎ東洋永遠の平和と國土防衛の犠牲となりし幾十萬先輩諸勇士を懐ふ時誠に感慨無量なるものがある。

吾人の進むべき目標は民族上下の普遍的不動の理想たる八紘一宇の眞理と六合一都の正道を恢弘すべき鴻圖である。吾人の踏むべき道は惟神王道にして屢次の聖勅に示させ給ふ所のものであり吾人同胞悉く之を奉じて勵み修め我皇國の徽として世界に誇り來りしものである。

かくの如く我等の目標と道は既に已に定まり居り而も在滿同胞の身には此の地に眠る幾多先輩諸勇士の靈佑りて加護せられあるを感ずるのである從つて活動の爲るる要素は唯同胞一致の協力と努力のみと思ふのである。

滿鐵社業の前途は洋々たり

南滿洲鐵道株式會社副總裁 大平駒槌

多事多難なりし昭和五年を送りこゝに多望なる昭和六年を迎ふることは吾人の最も欣快とするところである。歐洲大戰の反動として世界各國の生產過剩は一時に勃興し偶然にも世界的豊年と合致し遂に今日の不景氣時代を招來するに至つたのである。が併し世界各國民の努力により、殊にわが日本は不景氣時代に底を入れ一陽來復の曙光を認め得るに至つたことは吾人の意を強くするに足るものがある。

わが滿鐵會社の社業に對しても時に或は甚だしき悲觀論をなすものなきにあらざるも吾人は寧ろ前途の洋々たるものあるを信じて疑はず、而してその洋々たる前途に對し努力精進せんと欲するものである。現會計年度の所謂收入減の如き、これ滿鐵のみの現象にあらずして寧ろ世界的の一般現象なりといはねばならぬのである。隣接せる支那側鐵道の如き經營の尋常ならざる寧ろ同情に値するものが存するのである。支那側に對する鐵安の打撃は寧ろ將來にありとすべく滿鐵の所謂收入減の如きは前會計年度の露支紛爭の不時增收を控除して比較せんか世界の大勢に鑑み滿鐵の現在および將來は洋々乎として多望多幸なるものあるを認めざるを得ぬのである。よし支那側鐵道の獨立的策動ありとするも結局するところは交通機關の共存共榮を根本義とし滿蒙の經濟的、文化的開發に資するより外に方策はないといふことに歸着するのである。

吾人が共存共榮の根本義に立脚し滿蒙の經濟的、文化的開發に資せんとするの大方針に至つては現在および將來において何ら變改を認むるの必要なしと信ずるものであるが恐らく支那側にありても同感となさざるを得ぬところであらうと思ふ。東四省の今日ある、これを極言すれば南滿洲鐵道の存在に負ふものなりと斷ぜられぬこともないのである。或ひは今日、一時的の現象として利害の相背馳するが如きことなしとせぬが根本的に反省考察せんか日支の共存共榮は抜くべからざる根本義たることを諒知せざるを得ぬであらう。

かくの如く考へ來るとき吾人はわが滿鐵の前途の洋々として多望なるを感ぜざるを得ぬのである。諺に、汝を玉にすといふ、盤根錯節を打開して初めて目的は達せられるのである。昭和六年の新春を迎ふるに當り吾人は洋々たる滿鐵社業の前途に向つて勇躍邁進するの覺悟を固め四萬社員諸君と共に多幸なるべき新春を祝福せんと欲するものである。

市の伸展に微力を盡したい

大連市長 田中千吉

鳳曆の嘉辰裕かに、昭和新春の慶福を重ぬること茲に六載、此の目出度き新年の佳辰を迎へ謹みて聖壽の萬歳を祈り奉り併せて國運の隆昌を祝賀することを得るは洵に欣快に堪へないのであります。恭しく惟みるに、聖上陛下天資英邁にましまし、聖文武新進氣鋭に渡らせられ、常に躬ら範を衆庶に垂示し給ひ

聖德の洪大

無邊なる國民の等しく恐懼感激措く能はざる所でありまして、吾等國民はこの聖慮を奉體し各々其の分に從つて奉公の誠を效し以て國運の進展を期すべきであります。顧みるに昭和五年は內外共に頗る多事多難にして、對內的には我國未曾有の思想、經濟兩國難に際會し、これが匡救打開に關しては上下協戮して之に善處し、又對外的には軍縮條約を締結して世界平和に貢獻し、金輸解禁を斷行して金融政策を確立したる等國民の均しく慶賀する所であります、吾等在滿同胞二十萬は、我が帝國の萬邦に冠絶せる所以を明かにし、之が繁榮を計ると共に浮華を戒め質實を尙び、四海同胞の誼を敦くし以て國體を永遠に培ひ、國家を泰山の安きに置かねばならぬと信ずるのであります。顧へつて大連市政の現狀を觀るに、前途尙多事多端にして、不肖大連市長の重任に膺りて以來、一意至誠を以て終始し、日夜本市の發展と

市民の福祉

の增進とを思念せるが、本年は議政機關始め市民各位の絶大なる援助に依り更に市政の充實改善に向つて最善の計を樹て粉骨碎身微力を捧げて本市の伸展に盡したいと念願するものであります。茲に希望輝く昭和六年の初頭に臨み謹みて皇運の隆昌と寶祚の無窮とを壽ぎ奉り併せて市民各位の萬福を祈る次第であります。

今年拜し奉る御慶事の數々

▼…天皇陛下御踐祚以來皇室の御慶事としては昭和三年秋京都で行はせられた即位の御大禮に引つゞき秩父宮、高松宮兩御直宮殿下の御結婚、內親王殿下の御誕生など相次いでの御よろこびを拜して來たが、昭和新春第六年初頭拜察しただけで既に十指に餘る數々の御めでたき御事象を御想像申上げ得る

▼…春三月の皇后陛下の御分娩、初夏五月の高松宮殿下が歐米一年一ケ月の御巡遊を終へさせて晴れの御歸朝などは御想像出來るうちの最たるものである、殊にこの度の皇后陛下の御分娩は御四回目に渡らせられ皇男子の御誕生こそ國民ひとしく待望し奉る次第であるが皇太子殿下、內親王樣いづれのお方であらせられても天皇、皇后兩陛下の深き御思召で宮城にて御養育のことは從前通りにて宮中御內儀は新宮樣をお交へして愈々御賑やかに晴れやかに渡らせらることであらう

▼…また照宮樣にはこの春から女子學習院幼稚園に正式に御入學宮城からランドセルを背にストッキングを召された殿下の御可愛い御通學姿が毎日拜察される譯で宮中數々の御よろこび中の一つであることは申すまでもない

▼…歐洲御巡遊中の高松宮同妃兩殿下は目下イタリーに御滯在で同國ポーラ軍港に近きアドリア海上、ブリオニーの孤島の一ホテルにて御越年、故國日本を御偲び遊ばされらると承はるが殿下には來る三月御渡米同國內各地を御巡遊の上五月上旬サンフランシスコ御發航同月下旬には一年一ケ月振りに晴の御歸朝になる、秩父宮家と高松宮家に王子御誕生の御慶報を拜受出來るのもさう遠いことではないだらう

▼…御婚嫁の方には朝香宮鳩彥王殿下第一王女紀久子女王殿下がゐらせられる、御婚約の鍋島直映侯嗣子直泰氏(二二)のもとに御降嫁遊ばされるのは四五月の頃で帝大文學部に在學中の直泰氏が三月卒業をまつて華やかに御擧行相成るべく目下女子學習院選科御通學中も御準備を取り進められおよろこびの日を待たせられてゐる、同じ頃李王垠殿下の御妹君で目下女子學習院在學中の德惠姬にも昨年十二月十一天皇陛下の御內許を經て內約を結ばれた舊對馬藩主宗武志伯(二三)と三月卒業をまつて內祝儀の上に一段と御意義深く御結婚遊ばされる

▼…各宮家のうちで御結婚の御豫想申上げ得る宮樣には故北白川宮成久王殿下の王女樣である、美年子女王殿下(御年二十一)と東伏見宮家の御祭祀を嗣がせらる久邇宮邦英王殿下(御年二十二)の二方がゐらせられる、美年子女王殿下は女王のまゝ御降嫁邦英王殿下には臣籍に御降下遊ばされた上で御結婚遊ばす御豫定にて昨年秋興公家を創家された李鍵公殿下は東京において御配偶を選ばれて御結婚の御意嚮である、御繁榮の皇室並びに宮家には六年も亦數々の御慶事が拜される

年頭所感

關東廳警務局長 中谷政一

滿洲の警察は何を爲すべきか、滿洲の警察官は如何なる態度を以て警察の職責を果すべきかに就ては昨年元日に於いて述べた所を本年も更に清新の元氣を以て獨一步を進めたいと思ふ。卽ち清く、正しく、明るく、情に依つて理を曲げず、理に偏して情を無視せず、全力の限りを致したいと思つてゐる。殊に新春に當り本年は前途相當の波瀾あるにはあらざるかとの豫感がある。此の風雨を孕みたる昭和第六年の我等の行くべき道の羅針盤としては畏れ多いことではあるが、明治天皇の御製中の數種を謹誦したいと思ふ

新しき年を迎へて富士のねの高きすがたを仰ぎ見るかな

國といふくにのかゞみとなるばかりみがけますらを大和だましひ

まつりごとよこしまならぬ國にこそさかしき人も多くいでけれ

おほぞらにそびえて見ゆるたかねにも登ればのぼる道はありけり

波風をしのぎ〳〵て荒磯の松はちとせの根をかためけむ

年頭所感

ハルビン總領事 八木元八

年頭に立つて過去一ケ年を回顧すれば北滿の天地も相當に波瀾曲折があつた多忙の年である先づ第一に擧げねばならぬは露支の葛藤であるハバロウスク協定の結果東支鐵路の現狀は恢復され蘇聯幹部は戰勝の意氣を以て捲土重來したのは支那側に取り何と云ふても愉快な事ではなかつたに違ひない、ハバロウスク協定によりモスコーに乘込んだ莫全權は滯蘇七ケ月餘[illegible]未解決の[illegible]は世間の注目を集めてゐるが東支の現狀は此儘で我等外國人には別に大なる不便はないが日本が露支兩國の葛藤に關し「ハンド、オフポリシー」を執つた事は賢明であつたのが證明された、此態度は將來も北滿に於ける我政策の基調をなすものでなくてならぬ

×

[illegible]轉じて經濟的方面を見るに昭和五年は北滿同胞の受難時期であつたが吾等は能く此困難に堪へて一人の破產者も出さず居留民の數も百人內外とは云へ增加したのは驚異の地步を證するものとして慶賀すべきだ、世界を風靡せる不景氣風は北滿をも吹き荒して容易に景氣快復の兆見えず加ふるに地方的には大洋票の暴落、特產物の値下りによる購買力の減退等に悲觀材料は市場に滿ちて居るが世の中は不思議なもので悲觀極まれば樂觀生じ窮通の路は自から打開されるから餘り心配するにも當るまい

×

又眼を轉じて支那の政情を見れば全國統一の業漸く成らんとして南京政府は是迄屢々國民に與へた約束手形を決濟の時期に入つたのだが政府責任者は如何にして整理せる國內的約束と外國條約上の義務とを調節按配し其建設事業を遂行するかは最も興味ある見ものである。滿洲の特殊區域に對しても利權回收の王外交部長の還日から推すれば滿洲の急進的政策は侵入し來るものと察せらるゝが蘇聯に對しては昨年の失敗あり南滿に於ける日本の地步は動かすべからず東北政權の首腦者は此「ジレンマ」に立ちて如何なる態度を執らんとするか「ヤング、マーシャル」の腕試しとして政治劇に漸く其「クライマックス」に入らんとして居る。

×

吾輩は新なる年の劈頭に立ち未だ生きて居て此舞臺の一隅で馬の足の樣な端役でも一役勤め得る事を惡くないと思つて居る。

兩陛下の御仁慈

一木宮相謹話

昭和の大御代茲に六度歳を重ねて目出度く新春を迎へ給ひて聖上皇后兩陛下御機嫌殊に麗しく渡らせられ照宮、孝宮兩殿下にもいと御健かに御成育を重ね給へるに此の春は又更に新宮殿下御降誕遊ばさるゝ次第にて國民一同は皇室の彌榮[illegible]存じます、聖上陛下には平素特に政務御多端の折柄深く時局に鑑みさせられ昨冬新たに官私立大學長に對し或は御陪食を或は拜謁を仰せ付られ又在野の發明家に對し特に優渥の御沙汰ありたる等如何に教育の振興、發明の獎勵等に御軫念あらせらるゝかを拜察し奉るべく尚且つ御餘暇には學術の御研究にいそしみ給ひ宮中諸事質素を旨とし成るべく國產品を使用すべき旨仰出された事は誠に恐懼に堪へざる次第であります、皇后陛下には目下御懷姙の御身にて在はしながら何の御障りもなく渡らせられ聖上陛下思召に副ひまつり御心を窮民の救恤に注がせ給ひ又照宮、孝宮兩殿下御教養の暇には一般に御學事に御精進遊ばさせらるゝを拜しまつりては只々恐れ入る外なき次第であります、皇太后陛下には昨年中大宮御所に御移御遊ばされて御健康殊に勝れさせ給ひ新年を迎へ給へる事は誠に御目出度き事に存じ上げます、陛下には御所に[illegible]又陛下にはこの上なく御心を慰め給ふべく[illegible]申上げるの外言葉なく時に聖上皇后兩陛下の御訪問を仰はせらるゝ[illegible]には常に御心を社會救濟の事業に寄せ給ひ昨冬癩患者救濟に對し御手許金御下賜を仰出されたるが右は過去多年に亙り日々の御節約を以て御貯へ遊ばされたるものにて御仁慈の程誠に感激の至りに堪へぬ次第であります

わが拓務行政の根本的方針

昭和五年の實績を顧みて

拓務大臣 松田源治

庚午の歳を送つて茲に辛未の新春を迎へるに當り一言所感を述べて年頭の辭に代へる事とする

回顧すれば昨昭和五年は甚だ多事多難の歳であつた、年の初めに政府は維新以來天下に聲明し來つた金解禁を斷行して大正九年以來の宿題を解決し我經濟界を常道に復歸せしめた、然るに不幸にも財界更生の第一歩を踏出すと共に未曾有の世界的不景氣の襲來を受けたこの不景氣は世界的に生産と消費との平準を失つたゝめに起つたのであつて即ち一方において世界各國を通じて主要なる食糧品及原料品の非常なる生産過剩に對して他方において世界各國が緊急財政の整理を行ひ通貨の收縮を斷り相應で金本位制に復歸した爲めに著るしき購買力の減少となつたのがその根本的原因である而してこの不景氣は地球上國と云ふ國を悉く風靡して例外なくその渦中に投ぜしめてしまつた

我國は輸出品の大宗たる生糸の大暴落によつて少からざる影響を蒙つた處へ印度及中華民國における政情不安、並に銀價有史以來の暴落等で東洋方面の輸出を阻止され物價は暴落に次ぐに暴落を以てし株式市場といはず證券市場といはず悉く慘澹たる慘状を呈したこの趨勢に怯えて國民の一部には金輸出再禁止論を提唱する者さへ現はれた、しかしながら國民全般は能く大勢を明察して政府を信頼し敢然正道を踏んで惑はずこの難局に善處し來つたのである、消极の消息は國民が冷靜沈着能く難局を正視して健全なる判斷を誤たざる理智と不屈不撓の意志とを有する事を如實に物語るものであつて我國の信用は爲に海外に益々高まるであらうと思ふ、世界的不景氣はまだ決して轉換の曙光を示してをらぬ從つて輕率なる樂觀を許す事は出來ないが少くともこの上更に甚だしきを加へる事はあるまいと思はれる願くば一日も早く一陽來復の春が訪れてさしもに堅く閉ざした氷が解いて呉る事を切望して止まぬ次第である

×

金解禁直後一ケ年の經濟的試練と共に庚午の歳を長く國民の腦裡に印象せしめたものは蓋しロンドン海軍協定の成立であらうと思ふ日英米三國が能く共存共榮の大義に立脚して世界平和人類福祉の大局に達觀し斷然互讓妥協に……を成立せしめた事は確に文明史上の偉業として後世の稱贊を博するに足るものたる事を疑はない

次に所管事務に付いて昨昭和五年を回顧するに之亦多事多難な歳であつた、朝鮮、臺灣、樺太における暴風雨被害並に朝鮮、臺灣に於ける慘事及臺灣における最近の霧社事件等擧げ來れば天災並に事變と稱すべきものが少くなかつた殊に此等に關して幾多の人命を失つた事は返す返すも殘念である不慮の災厄に遭遇して一命を墜さした人々の靈に對して深甚なる弔意を表する次第である、尙去る十月二十七日臺灣において一部蕃人騷擾の結果多數の犧牲者を生じ且これが鎭定に當つた警察官及軍隊中にも相當の死傷者を生ずるに至つたことは眞に遺憾に堪へない、現在においては騷擾殆ど鎭定し平靜に歸したが今後理蕃上特に深甚なる考慮を拂ひ萬遺算なきを期するつもりである

……る樺太……鐵價暴落による……の收入減の如き何れもその顯著なる事例である、かゝる事情の下に一方中央財政と歩調を一つにして財政の整理緊縮に努むると共に他方出來得る範圍に於て着々爲すべき施設を實行し來つたのである更に轉じて移植民海外拓殖事業の方面を見るに之亦時に利あらずの感なきを得ない即ち先づ移植民關係については邦人にとつて主要なる入移民國たる南米殊に「ブラジル」「ペルー」及南洋殊に「ヒリツピン」の「ダバオ」等における財界の不況と南米諸國における政變の勃發等のため移民渡航數の減退を示したること又拓殖事業の方面に於ては南米「ブラジル」における珈琲事業が生産過剩及世界的不景氣による消費量の減退加ふるに調節策の行詰り等のため珈琲……「ゴム」事業が……邦人と淺からざる……更に世界的不景氣の影響による消費減退とその生産制限策の行詰りとのため之亦悲境に陷りたること其他麻の栽培業も亦同運命を逃れる能はざる等到る處芳しからぬ話許りであらう、要するに我國は內外に於て嚴しき試練に直面せるものといふべきであらう、さりながら悲觀は無用である此際吾々は更に緊褌一番して禍を轉じて福とさせねばならぬ例へば移植民關係に於ては大に質を選擇して一騎當千の士を海外に送ることに努め拓殖事業關係に於ては事業內容を整理し金融疏通の途を研究して將來の雄飛活躍に備ふる所あらねばならぬ斯くて受難試練の時代に於て能く之に耐へ忍び得る勇者のみが榮光の彼岸に達することを許されるのである、思ふに三千年の榮ある大和民族の歷史は困難に際して屈せず之を打開し國運の限りなき進展を圖り來つた處に其意義を求むべきである

×

顧みて昨年中に所管地域に於て爲されたる主要なる施設を數ふれば朝鮮に於ける地方自治制度の改正、臺灣に於ける阿片政策の改善及同じく臺灣に於ける日月潭工事再興方針の決定等を擧ぐべきであらう、朝鮮における地方自治制度は大正九年に從來府、指定面のみに置かれて居た諮問機關を各地方團體に置き府指定面等に於ては選擧制度を布いたのであつたが爾來十年を經過することゝ十年實施の成績頗る良好であつて今や之を改正して民意の暢達に一歩を進むる時期に到達したので去る十二月一日附を以て公布せられた制令で左の如き改正を斷行したのである、即ち府指定面に於ては諮問機關を議決機關に改め指定面以外の面に選擧制を設け又道會を議決機關とする等根本的に改正を加へられた此程度の改正は今日の朝鮮において最も適當なるものと考へる尙將來朝鮮における文化の向上に伴ひ完全なる地方制度を施行し得る時期の來らむ事を希望してゐる

×

臺灣における阿片政策は從來島民の阿片吸食の實情に鑑みて漸禁政策を採つて來たのであるがその目的とする所は勿論嚴禁であつた事は明瞭なる次第である而して明治四十年以來癮者を新に認めぬ方針を採用し來たつたのであるが島民の阿片吸食の習俗は根底深く從て阿片の密輸入及密吸食に對しては嚴重に取締つてゐるにも拘らず犯則者がなほ相當多數に存在することは遺憾ながら認めざるを得ない狀態にあつたので改正阿片令の精神に基いて嚴禁主義の完成を促進するために大體左の如き方法を採る事とした即ち密吸食者に對しては醫學的鑑定の結果治療可能なる者は全部矯正治療を行ひ只例外として癮重く治療困難なる者に對してのみ特許する事とし次に將來密吸食の原因を根絶せしむるため密吸食者に對し一層取締の徹底を期した尙新特許に因る收入は治療及取締の費用に充つることゝ又現、舊阿片令に依つて特許を受けてゐる者に對しも癮者の調査を行ふと共に治療可能なる者に對しては漸次矯正治療を行ひ更に又新たに特許する者に對しても成るべく速かに矯正治療を試むる事としたのである實施の結果は幸ひ順當な成績を擧げてゐる

×

臺灣電力會社の日月潭水力電氣工事再興に就ては貴族院における希望條件、次第もあり石塚臺灣總督は就任後社長を更迭し鋭意必要なる調査を遂げ過般再調査計畫案を作成し拓務者の承認を申請して來た此の再調計畫によれば從來問題となつてゐた諸點中工事の設計は權威ある專門家の意見を參酌して充分に安全な設計工事費にも思ひ切つた節約を加へ更に電力消化の問題も確實なる見込が立ち計畫の內容には大なる改善の跡を認むる事が出來るのである拓務省に於ては慎重審議の結果臺灣總督府の意を容れて再興の意嚮を以て必要なる手順を進めたいと思つて居る

×

昭和五年の拓務行政回顧を終るに際し一言申添へて置く自分が初代の專任拓務大臣を拜命して以來既に一年有半の歳月を閱した自分は拓務行政の根本方針は可成各地の特殊の歷史を尊重し其實狀に卽したる行政を行ふにありと信ずる即ち各地における住民構成の狀態各種産業上の條件文化發達の程度を充分考慮して統治上の根本方針を樹つべきものであると考へる之がために昭和四年の秋には滿鮮地方を昨五年の夏には樺太を視察した又拓務に關する重要問題を拓務審議會に諮問して其道の權威者の意見を徵した今後諸般施設の實施を期し以て國運の進展に寄與したいと願つてゐる。

牧場の羊　【千葉縣三里塚御料牧場】

好轉を豫想される本年の我對外貿易

重要品の價額は大戰前と同じ　大藏省當局の觀測

【東京卅一日發電通】昭和五年における對外貿易は輸出入共極端に委縮不振を極めたが、貿易尻は案外に好調を示し貿易外收入その他を差引結局國際貸借上の支拂超過は五千萬圓位であつて前年に比し幾分悪いが金解禁の第一年として斯くの如き不況の內に在つてこの結果を見たことは非常な好成績と見られてゐる、而してこの後を受けた昭和六年の國際貸借については大藏當局の見るところは大體左の如くである

一、對外貿易を全體として見る時は五年下半期の豫想外の好調は生糸、綿織物等の輸出が案外良かつたこともあるが、我財界が極度の不況に洗滌して輸入を多からしむる程の底力がなかつたことに因るものでこの情勢は寧ろより著しい程度において六年に現はれ貿易尻は消極的ながら好轉して行くであらう

一、輸出の大宗たる生糸について見るに五年上半期は糸價補償法のためアメリカの買控へとなり悲況であつたが下半期において前年通り三十一、二萬俵を出したことから見て米財界が急に惡化せざる限り六年は例年通り上半期二十四、五萬俵を出すであらう從つて本年の生糸輸出は相當に伸長して價格低落を悠々補ふて餘りあるであらう

一、その他の重要輸出品も過去一ケ年を通じての價格低落によつて殆んど大戰前に下つてゐるから輸出に好都合である

一、問題となるは銀塊安であつて對支對印輸出を阻害し生糸の輸出にまで打撃を與へる虞れあるから注目を要する、しかし今日以上暴落することはあるまい

一、輸入の中心たる棉花は例年ならば十一月より三、四月にかけ買ひつけられるのであるが、相場の落調がなほ止まらぬこと、綿糸布の輸出が銀安等のため阻害される虞れあること等の諸點から紡績會社は買附を控へ且つストックを避ける方針を執つてゐるから目先急増することはあるまい

一、その他小麥、羊毛、砂糖の輸入も價格の半減と內地購買力の不振、製品輸出の延び悩み等に因つて半額前後に減退するであらう

斯くて六年の貿易は輸出入共に委縮は免れまいが輸入額の減少は輸出減少より多くして貿易尻は更に好轉するであらうと豫想してゐる

政府對貴族院の關係益々複雜化

副議長銓衡に絡んで

【東京三十一日發電通】財界問題等を中心とし休會明け議會の貴族院は頗る硬化を豫想され現內閣の對貴族院策は各方面より注目されてゐる折柄貴族院副議長問題により政府は火曜會と研究會との間の板挾みに立その成行は今や貴族院各派間に重視されてゐる、即ち現副議長蜂須賀正昭侯は明年一月十一日を以て任期滿了となるので研究會首腦部間では寄々協議の末後任副議長として松平賴壽伯を推薦することに決し首相の諒解を得てゐたが、徳川議長歸朝後議長は徳川一門より正副議長を出すことを嫌ひ松平伯を喜ばなかつたので政府は新に近衞文麿公を後任に任命することにし議長の內諾を得たがこれに對し研究會首腦部は憤慨し殊に伯爵團では松平伯を犧牲にするかとて具體的運動を起し幣原首相代理、宇垣陸相等に抗議をなすに至つたので政府はまたも研究會の申込により徳川議長に對しては近衞公推擧の撤回につき極力諒解を求むることゝなつた、然るに一方火曜會、公正會の一部では政府のかゝる態度を研究會の脅威に屈するものとして不滿の色を現はしてゐるといふ狀態に至つたので目下のところ後任副議長は依然松平伯に落着きさうな形勢にはあるが現內閣の對貴族院策には中心となる關係なく、殊に對研究會策には適任者を缺く結果として今後休會明けの議會において痛烈なる論戰展開されるに及んで益々對貴族院關係を複雜化し重大化するであらうといはれてゐる

政友の幹部會

【東京卅一日發電通】政友會は三十日午後一時より納めの幹部會を本部に開き森幹事長より激勵演說あり午後三時半散會した

電信交渉は假調印

佐世保、青島＝長崎、上海間二線　細目の打合せを終了

【南京三十日發電通】日支電信交渉は昨日に引續き本日も吉野委員、莊智煥氏の間に進められたが佐世保、青島間、長崎、上海間の二線の細目に關する打合せ略終了し三十一日中に假調印することになつた、なほ佐世保、青島線の新契約は本文九條、附屬文書三通より成つてゐると傳へられてゐる

濠洲政府移民禁止　不況打開のため

【キャンベラ三十日發電通】オーストラリア聯邦政府は三十日當地駐在各國領事に對し近來の不況の深刻化によりオーストラリアには外國からの移民に對し職を與へる餘地皆無につき移民送り込みは差控へられたき旨通牒して來た、一般の解釋によれば右通牒は事實上移民禁止令と同樣の效果を有するものとされてゐる

莫全權動靜

【ハルビン特電卅一日發】滿洲里では樓門を造つて歡迎を受けた莫氏は張學良氏その他から約四十通の祝電を受け、既報の如く直行して二十九日夜八時半着、ハルビン滯在は張氏との會見地を打ち合せ東支來年度の豫算その他を決定するためである

在滿同胞不振の二大原因を觀よ

大連民政署長 辛島知己

昭和六年の新春に際し私は先づ東方に向つて遙かに天皇陛下の聖壽萬歲を祝します、次に大連民政署管內三十五萬人の住民諸君と共に新年の慶福を壽ち得ることを非常の光榮と存じます、荀くも明治時代に人と成つた日本男子にして滿洲問題の爲に血を沸かさゞるものはありますまい、私も少年時代より今日に至る迄常に支那問題を念頭に置いて居つた一人でありますが昨年計らずも當地に來つて滿洲の一角に此の新春を迎ふる事になつたのは何となく一種の感慨に堪へないのであります

×

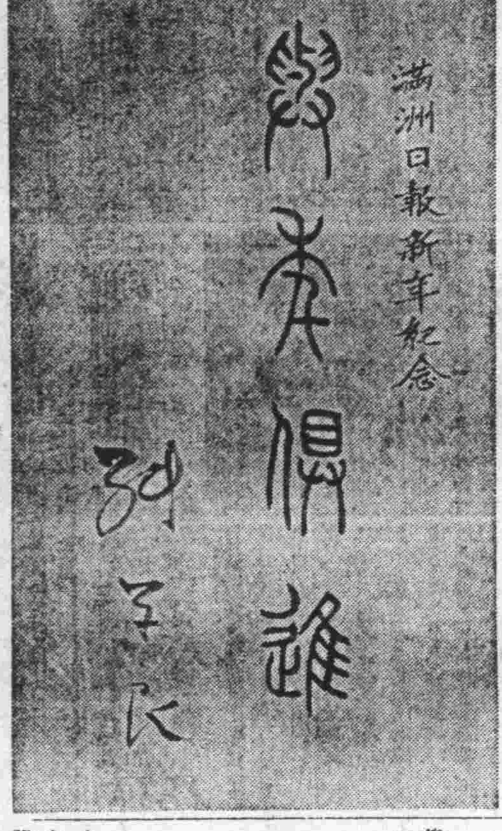
支那即ち今日の中華民國は實に歷史に富んだ國であります、四千年前已に燦然たる文化を有し印度文明、西歐文明と共に世界文明の大宗を成すものであることは云ふまでもありません、我が日本文明進歩の跡を尋ねても此の支那の文明に負ふ處多大なるは申す迄もありません、現今に於てもその領土の大、民衆の多は將來大に刮目する必要があるのであります、然るに日本は明治維新以來西歐の文明を取入れて急速なる進步發展を遂げ日本固有の國粹に加ふるに東西文明の粹を以てし殆ど世界人類の目標たるべき理想的文明を實現せんとして努力して居ります、同時に此の理想的文明の攜充普及を希求してゐるのであります、斯樣なる前提の下に日本人の多數が一衣帶水の南北支那に渡り來りて民國人と接近し協同し倶に共に地方の開發と人類文化の向上とに努むるのは極めて自然の出來事であります特に日支親善と云ふに及ばず共存共榮と云ふに及ばず地理的に見て歷史的に見て又人類の本性から見て恰も水の低きに流るゝが如きものであり誠に當然の現象であります若し之に反して日華兩國民互に風馬牛で別々の道をたどる樣な事があつたらそれこそ最も不自然な出來事であるといはねばならぬと思ひます、是に於て私は日華兩國民が人道の本義に基き今一層協力一致して進むべきものと思ひます

×

滿洲における日本人の事業及勢力が近時次第に委靡不振の狀態に陷りつゝあることは此頃最も多く耳にする處でありますが之には二つの原因があらうと思ひます、其の一つは近頃覺醒期にある民國官民が或は國家的自負心の爲めに或は日本人に對する誤解の爲めに妄りに排外的態度に出づることであつて之に對して是非民國官民の反省を促すと共に帝國政府に適宜の措置を求むるの外はないと思ふ、其の二は從來滿洲に於ける日本人の事業の經營や勢力の振張の方法が常道でなかつた合理的でなかつた今一つ言葉を代へて言へば必ずしも實力の結果でなかつたといふことに歸着すると思ひます、乃ち或は特殊の權利に基いて事業を經營し或は政府の保護援助に依賴すること多く或は時運の廻り合せに依り外來的に一攫巨萬の利益を得ることが少くなかつたと思ひます、之も時勢の結果であつて敢て悪いとは申しません、併し泰平無事の際にありて繁榮を擴張し事業を經營するには今少しく自己の實力に依り努力により合理的經營によつて進むといふことが必要だと思ひます、斯くの如くして築き上げたる事業及努力であつたならば將來決して動搖することはなからうと思ひます

×

昭和四年五年は日本國民に取つて實に試練の時であつた、經濟界立直しの爲めに金解禁の準備並に善後策の爲めに又世界的不景氣のドン底に落ちた併し國民はよく此の經濟國難に堪へ得た、此の不景氣がいつ恢復するか經濟學者も其道の實際家も明白に之を言ひ得ぬ、併し大體に於て昭和六年中に於ては景氣挽回の曙光を見ることを得るだらうと思ふ、此の景氣挽回に向つた時に於て國民は是非此一兩年間の辛抱と緊張とを忘れず活動したならば國運隆々として起り却て禍を轉じて福となし得る事であらう、此の時に當り我が滿洲の天地に於ても日華兩國民益々協力一致の實を示し日本人の事業經營方針も一層合理的經濟的に進み之に加ふるに緊縮時代の覺悟と努力とを以て進んだならば民人の幸福、地方の開發期して待つべきものがあらうと信ずる、聊か所感を述べて新年の祝辭に代へ昭和六年の前途を祝福する次第であります



拓務次官に堀切氏

きのふ任命發表

【東京卅一日發電通】前東京市長堀切善次郎氏は三十日政府より拓務次官後任就任の交渉を受けこれを受諾したので卅一日持廻り閣議で決定即日左の如く發令した

正二位勳三等 堀切善次郎
任拓務次官

張學良氏天津で越年

【天津特電卅一日發】張學良氏は年末歸奉の豫定であつたが中央から山西西北部の編遣費で回について訓電が遲れたため當地で越年することに決定し東北各省長官に年末の治安に注意するやう命令すると共に重要事項は電報すべしと訓令した

けふ公布する南京政府の大赦

政治犯のみに適用

【南京特電卅一日發】南京政府の政治犯大赦條例は元日に公布さるゝがその要點は次の如し

第一條　民國十九年十二月三十一日以前の政治犯は均しく之を赦免す、但し黨國に背叛したる元惡、悔悟せざる共產黨、及び賣國行爲ありし者は此限に在らず

第二條　政治犯は、內亂罪、反革命罪及之れと性質同じき罪を指す、政治嫌疑で逮捕せられたる者も政治犯となす

第三條　黨國に背反したる元惡は左の如き各犯を指す
(甲)民國十一年六月十六日廣州叛變の元惡(註、陳烱明、葉擧氏ら)
(乙)民國十九年九月九日北平に在りて僞政府を組織せんとしたる元惡(註、閻錫山、馮玉祥、汪精衞氏ら)

第四條　悔悟せざる共產黨とは共產黨自首法に依りて自首せざる共產黨を指す

第五條　賣國行爲は外患罪或は暫行反革命治罪法を犯したる者及之れと性質同じき罪を犯したる者を指す

第六條　政治犯にして其他の罪を兼犯したる者は其他の罪を赦免せず

第七條　本條例に依りて赦免さるべき政治犯は未だ發覺せず或は逮捕せられざる者と雖も一律に赦免し逮捕せられたる者は起訴未起訴、判決、未判決に論なく高等法院長首席檢察官及判事二人、檢察官一人には委員會を組織し釋放を定める

關東廳豫算內容

今議會に提出する

今期議會の協贊を求むる事になつた昭和六年度の各植民地特別會計豫算の內、關東廳豫算は既報の通り歲入出共に二千二百十七萬一千圓を示しこれを昭和五年度の實行豫算に對比すれば七十七萬八千圓の減少であるがその內譯を詳記すれば左の通りである(單位千圓)

歲入

	六年度豫算	五年度實行豫算對比
經常部	一四、五七一	減 二、三六五
臨時部	七、五九九	增 一、六〇六
公債金	六〇〇	增 一〇〇
補充金	五、〇〇〇	增 一、三四六
剩餘金	一、五四四	—
其他	四五五	增 一三四
合計	二二、一七一	減 七七八

歲出

	六年度豫算	五年度實行豫算對比
經常部	一七、六六七	減 九七
臨時部	四、五〇四	減 六八〇
合計	二二、一七一	減 七七八

租稅其他の三大收入

なほ右明年度關東廳歲入豫算の中(イ)租稅收入(ロ)官業及び官有財產收入(ハ)雜收入等所謂三大收入の內譯を五年度實行豫算と對比して示せば左の如し(單位圓)

	六年度豫算	五年度實行豫算對比
一、租稅	三、五五五、一七三	減 三三〇、五三三
地租	二二六、六八一	減 一二六
鑛稅	二五二、〇〇〇	增 九〇、九〇四
所得稅	一、八六八、九六六	減 三一〇、五五〇
取引所稅	九一、七〇九	增 二一、〇九五
酒稅	三六六、五五五	減 一〇、〇六六
煙草	六九九、三〇二	增 一〇、五三二
二、官業及官有財產收入		
郵便電信收入	九、八〇一、一〇七	減 一、二六八、六六七
專賣收入	六、一四〇、一三八	減 六六七、一三八
土地家屋貸下料	二、二三〇、四〇〇	減 七三六、三〇〇
刑務所收入	一、〇九〇、三三二	增 一二四、五六九
醫院收入	一、三〇七、〇七〇	增 三一、一三九
印紙收入	六二一、八九六	減 一六、八〇七
三、雜收入	五三〇、五二三	增 一〇一、四四四
臨時部		
一、官有物拂下げ金	四三四、五三三	增 二六、五〇四

朝陽赤峰間鐵道敷設

解氷を待ち着工

東北交通委員會は北寧鐵道錦朝支線の終點朝陽より熱河省赤峰間の鐵道敷設を實現すべく既に測量を終了したので本春解氷を待つて着工することに決定した、全線七百五十餘支里、建設費大洋三百萬元の豫定である【奉天電話】

邊境の開墾に囚人使役

國民政府司法院は元日に大赦令を出すことになつてゐるがこれは政治犯に限られてゐるので一般普通犯にも恩典を與へる意味と犯罪者の激增に依る監獄收容力不足を緩和し且邊地開拓の利益を得るために中央各省の在監者の內より比較的素質よき强壯なる者を選んで東北の邊境に送り墾殖に從事せしむる案を立て既に東北各省政府に之が準備調査を命令した【奉天電話】

開原醫院長更迭

開原滿鐵醫院長三田泰三氏は今回內科學研究の爲め二ケ年間東京へ留學を命ぜられ來る十日頃出發の筈後任は前醫院長大橋光彥博士が本溪湖より就任の筈

張作相氏歸省期

張學良氏不在中留守代理を引受けてゐた張作相氏は元日鄕里錦州に歸省する筈であるが氏の吉林歸任は張學良氏歸奉後となならう【奉天電話】

遼寧省新年休暇

遼寧省政府は國民政府の訓令に從ひ新年休暇を各行政機關は五日、學校は三日、商店は元旦一日だけ休業すべしと通令した【奉天電話】

佐野經理部長着任

陸軍經理學校長から關東軍主計總監に轉じた佐野會輔氏は藤田前總監と入違ひに三十一日午前十時入港のばいかる丸で來任した船中に訪へば語る

滿洲には二度ばかり來たことがありますが在住するのは始めてどうぞよろしく

人事

▲佐野會輔氏(關東軍經理部長)三十一日午前十時入港のばいかる丸にて來連
▲藤田順氏(前關東軍經理部長)三十一日午前十時出帆の香港丸にてなを夫人同伴離連
▲服部省三氏(前滿鐵顧問)同上
▲鷲尾磯一氏(正金大連店長)同上
▲中西敏憲氏(滿鐵人事課長)家族同伴同上
▲村田懿麿氏(中日文化協會理事)

謹賀新年　藥品賣藥處方調劑　溝上藥局　大連市伊勢町三六　電話七〇八〇番

謹賀新年　小崗子華商公議會　正會長 羅睦堂　副會長 關子知　同 周子昇　電話四五八八番

謹賀新年　品質の正確と價格の低廉は弊店の誇り　三宅時計店　大連市浪速町伊勢町角　電話五四〇四番

謹賀新年　中央食堂　大連トキワ橋中央ビル　電話八四七三番

謹賀新年　大連市伊勢町九四　山本運動具店　電話五九七九番

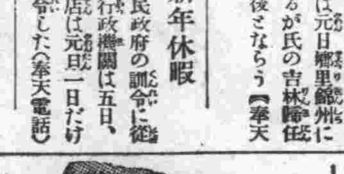
謹賀新年　三越大連支店長　長谷川吉次

謹賀新年　大連市會議員　今村貫一　大內成美　岡本英敏　小野實雄　岡原勇　笠博　高橋猪喜　熊谷直治　矢野靜哉　有馬直邊　佐多彥美　木原鐵之助　宮崎恩一　品田直知

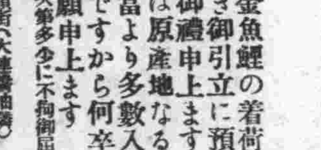
謹賀新年　大連市山縣通　徽章メタル賞金工業　金華號　電話七九四六番

謹賀新年　濱崎商店　大連市山縣通　電話五五一八　七二一七六番

謹賀新年　歌舞伎座　大連市敷島町六二　電話(四五三八)(六七四六)番



賀正　昨年金魚鯉の着荷以來引續き御引立に預り有難く御禮申上ます　本年は原產地なる愛知縣彌富より多數入荷致す筈ですから何卒御引立御願申上ます　御電話次第多少に不拘御屆申上ます　大連市連鎖街(大連醫院前)　彌富金魚鯉飼料、分栽、花卉球根其他海陸運送取扱　內藤洋行　電話二二〇八番



旅行中に付き新年參賀の禮を缺く　杉原游鶴

喪中に付歲末年始欠禮仕候　上海　會田常夫

旅行中に付年末年始の禮を缺く　滿鐵本社經理部會計課　長山七治

新職業　靈感透熱療法　難病

財界の前途と國民の覺悟

東京株式取引所理事長　岡崎國臣氏談

多事多難 を極めた我財界も漸く安定の域に一歩を進めつゝ一陽來復新年を迎ふるに至つた、昨年金解禁以來の我經濟界の惡化は誠に豫想外の苦痛を各方面に齎したが、一面幾多の教訓を與へ最近は稍小康を見るに至つたことは國家の爲め喜ばねばならぬ。勿論當面尚難關が少くなく一層の緊張努力を要するものがあるが最早最惡期を越えたが或は將に越えんとし前途に一道の曙光を認めた今日徒らに悲觀に囚はれることなく大いに奮勵して其の捨收に努めねばならぬ。

思ふに我 國の經濟界も日一日と複雜となり常に世界的事情に支配されることの益々頻繁を加へつゝある大勢から觀て海外經濟事情を無視して我國のそれを考へ……

……經濟界の再活動に貢獻するに止まらず國際經濟上重要な使命を有つものと謂ひ得やう。ドイツに轉ずると景氣の狀態は他國に比して一層惡いやうである。失業者は三百八十萬人に達し、産業界は何れも生産過剩に惱んでゐるし農業政策上の諸對策も實效なく、國家財政亦困窮の狀態にある昨年九月總選擧の齎した政治上の惡影響は對外的對內的に相當大きかつた、唯貿易の比較的良好なことのみに希望を繋ぐことが出來る、隣邦中華民國は兎も角兵亂收まり南京政府を中心として國力更生に努力してゐるが銀塊相場が一四片臺を示してゐることは障害である。之を要するに世界經濟界の大勢は共通的に非常なる不況の狀態に置かれてゐる

翻つて我 邦經濟界の前途……

次に正貨 の減少と金の關係が問題となつてゐるやうであるが日銀の正貨減少三億八圓に對しては支那其他よりの輸入、內地産金を合して一億三圓程度あり而も殘りの內六、萬圓は邦人の海外投資であつ……

農村の振興と農民の自覺

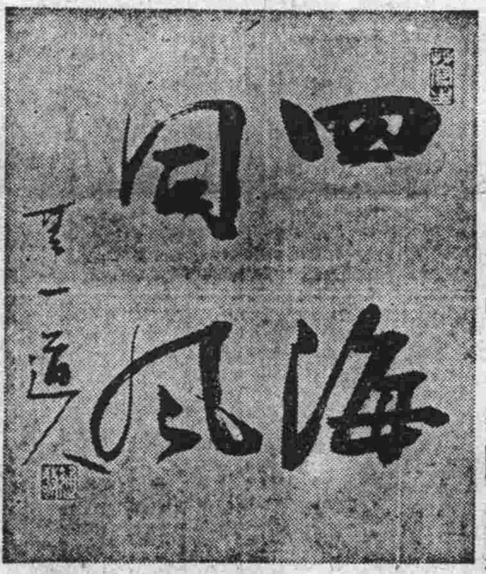
帝國農會々長　矢作榮藏氏談

我が國 全農産物價格の下落は本邦農業の特殊事情に因るものなしとはしないがその深興に瀕む原因は國際經濟關係に外ならず從つてその對策は實に至難である、が徹底的なる農民の自覺に配すると、適切なる政策を以てせば事の必ずしも不可能に非ざるを信じて疑はない。昨年十月第一回米收穫豫想發表と同時に崩落せる米價が系統會必死の賣止め運動、政府の低利資金融通、新穀二百萬石買上げ等に依り穩勢を挽回し、……

恐慌は の生々しき適例ではないか。經濟的諸關係の均衡の破壞である。從つて均衡の恢復が喫緊の必要事とされるが小生産者としての農家にありては、經營と家計とを一括しての所謂農家經濟の收支の權衡の恢復を必要とする。而して此の權衡恢復の要諦が農産物價格の維持と農家の對外的諸支出の可及的減少にあるは言を要しない。然らば先づ農産物價格の維持は如何にして可能であるか。……

今日工 業生産の全分野に於て全世界を通じて驚くべき統制が行され、販賣の統制……

東拓總裁　高原通敬氏書



財界私觀

川崎第百銀行頭取　星埜章氏談

過去一年の財界を顧みれば不況深刻の一語に盡きるが仔細に其の經過の實狀を稽ふれば一部は經濟事實の實際的惡化に基き他の一部……

樂觀を許さぬわが經濟界

前途に幾多の障碍横はる

大阪商工會議所頭　稻畑勝太郎

吾人の見る所では本年上半期は遺憾ながら未だ景氣恢復の時期ではない。昨年來の米國の不況は本年上半期も繼續するものと見なければならぬし、歐洲各國中失業者の極めて少く、經濟界の狀態の良い佛國に於てさへ、最近銀行の破産、取付け騷ぎ等があり、タルヂュ內閣の崩壞をも見た。英國産業の衰頽は世界周知の事實である。ドイツも極度の不況に直面して、失業者三百萬を越え、政府は鋭意國民生活必需品の値下に努力しつゝある有樣である。ドイツのこの狀態が改善されない限り、背に腹は代へられず、或は賠償金の仕拂を延期するの手段に出づるかも知れない。萬一これが事實となつて……

刻下の歐米各國民は、勤儉力行、營々として國力の恢復に努力してゐる。殊にドイツ國民の奮鬪の如きは眞に敬服に値するものがあり又米國に於ても着々として生産の調節が行はれて、不況は既に底をつき、來春は景氣の恢復を見るだらうといふことは、識者の齊しく認むる所である。この時こそ、歐米……

ひつじ歳

大連の財界人

豆信專務	田村羊三氏四十九歳
特産商	爪谷辰造氏四十九歳
ヤマトホテル支配人	横山正男氏四十九歳

賀正

大連火曜會々員

(イロハ順)

池田龍雄　石川鐵雄　石本鏆太郎　石田光三郎　服部省三　堀謙　十河信二　富次素平　小川逸郎　岡本誠　大平駒槌　小田信治　奧田千三　大藏公望　大森吉五郎　和田敬三　鷲尾磯一　神成季吉　貝瀨謹吾　横田多喜助　高柳保太郎　高見三吉　田中千吉　田村羊三　武部治右衛門　竹中政一　武安福男　土屋信民　津久井誠一郎　中村謙介　向坊盛一郎　村井啓太郎　村井啓次郎　村上義一　瓜谷長造　山西恒郎　山口啓三　藤田臣直　藤根壽吉　神鞭常孝　伍堂卓雄　寺田虎次郎　佐藤至誠　佐藤俊介　櫻井學　木村通　木村鋭市　白濱多次郎　平田驥一郎　杉野耕三郎　鈴木二郎

井上輝夫　石井金三郎　堀江憲治　加藤眞利　高岡又一郎　田中知平　武田正吉　前川郁夫

三浦貞三

藤田德藏

遞信局(いろは順)　大津義雄　若竹又男　中尾國次郎　中村富士太郎　日下部鉦次郎　藤川洋　三木卓

一大連民政署高等官同一

大連實業藥劑師會

いろは本店　大連市監部通　電話二七九六・二八五五番

遼東百貨店　大連市浪速町大山通角

牛鳥料理　おきな　大連市吉野町八五　電話八二四八番

電氣器具販賣並工事請負　佐藤電氣商會　電話七六七・三六九七番

謹賀新年

旅順

自轉車附屬品修理販賣 富永商店 乃木町電話四〇一番

自轉車附屬品其他 田村商會支店 乃木町電話五一〇番

新古自轉車販賣修理諸種メッキ 佐野商會 乃木町三ノ八三電話五九〇番

大脇洗布所 鎭江町五四電話五〇四番

各種銘茶茶器類一式 丸山茶舖 乃木町二丁目電話一六八番

柏木鐵工所 柏木常三郎 朝日町電話一八三番

山下鐵工所 山下好太郎 西町三九電話五〇九番

野間式ストーブ製造元 野間鐵工所 野間靈一 乃木町電話一九七番

酒王富久娘販賣元 入江商會 鎭江町五十番地電話一九〇番

銘酒櫻正宗菊正宗 金水商會 乃木町電話一〇六番

銘酒霞鶴釀造販賣 北川酒店 北川鶴之助 明治町五七ノ四電話四四七番

塚澤齒科醫院 敦賀町電話三四二番

文房具、運動具、日用雜貨 華信洋行 新市街大迫町電話三〇四番

玩具一式小間物一式 永田商店 乃木町(迎橋東詰)

書畫骨董、貴金屬寶石類、毛皮家具類 後藤勇太郎 末廣町一二電話四三九番

クレオン、ナイフ、文具運動具 旭洋行 中村町電話六七九番

慶弔進物各種記念品 大洋商會 乃木町電話五六五番

成松寫眞館 新市街松村町二一電話二五九番

寫眞機械材料販賣 ヒグチスタヂオ 樋口寫眞館 大連連鎖街常盤町電話二二三〇番 青葉町四二電話四一七番

迅速叮嚀 齋藤寫眞館 中村町八番地電話六六三番

和洋雜貨 藤井洋品店 新市街松村町電話五七番

圓橋商會 西田泰助 乃木町二ノ一九電話一四〇番

陸海軍各官衙御用達、船具、金物機械、綿糸布、タオル其他諸納入品一式 岳南公司 大川忠晉 乃木町三ノ六六電話三八二番

金物、諸建築材料 柴山商會 敦賀町八電話三〇九番

諸官衙御用達 久野商店 久野儀一 敦賀町電話一四九番

日米商會蓄音器部 新市街中村町電話六六四番

サクラ印サイダー、シトロン製造所 旅順櫻泉社 那須梅吉 電話二一八番

諸官衙御用達食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番

ゑびす屋呉服店 乃木町三丁目電話一三〇番

製靴革類 阪本洋行 敦賀町電話六三七番

表具商 原榮年堂 敦賀町電話五三三番

井町商店 朝日町魚市場電話三三二番

寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影 南滿公司 旅順寫眞館 乃木町三丁目交番横電話四七二番 振替大連一八二九番

滿電驛前タクシー 電話五二三番

滿洲タクシー 旅順敦賀町(婦人醫院前)電話二六二番

旅順タクシー 鮫島町電話五六〇番

食料雜貨 山口屋 山口清輔 市場內電話五四一番

深川齒科醫院 青葉町電話四七六番

近江屋呉服店 乃木町三丁目電話七九番

旅順質屋組合

宮澤疊店 宮澤猛雄 旅順市大津町一八電話四九二番

土木建築請負 和田武吉 旅順市乃木町二丁目電話五八八番

陸運 宅島商店 宅島猛雄 旅順市嚴島町電話一〇三番

船具鐵材金物 村上信二商店 旅順市乃木町電話一〇二番

中國料理 德興樓 旅順市敦賀町電話四三七番

宏記 洋服店 旅順市忠海町(電話三一八番) 精米工廠 旅順市柳町(電話六六一番)

食料品雜貨 安永商店 旅順朝日町市場內電話三九三番

野中事 ミラー美粧院 旅順市中村町電話六六九番

旅順飲食店組合

旅順菓子信用組合

昭和園演藝部 內田佐助 旅順市朝日町電話二四番

最新流行履物一式 栗田商店 栗田五三郎 旅順市乃木町(派出所前)電話三四一番

電氣販賣修理釣具 金澤屋 涌波初三郎 旅順市乃木町(郵便局前)電話五〇八番

極東寫眞館 竹中作平 旅順市名古屋町五電話三八一番

日本官煙賣販 佐藤組出張所 甲斐和太郎 旅順市敦賀町五六電話三一五番

疊 竹川支店 宮地梅治郎 旅順市乃木町三ノ六電話一九四番

土木建築請負 築島組 築島米藏 旅順市乃木町二丁目電話三九七番

豆腐製造 福島屋 赤坂惣太郎 旅順市鮫島町三三電話一五八番

左官 大谷守 旅順市名古屋町電話七五二番

和洋雜貨 ふたば屋 旅順市乃木町電話六一一番

土木建築請負業 森谷吉五郎 乃木町三ノ二八電話四八三番

土木建築請負 銘酒神代釀造元 神田酒店 神田小太郎 乃木町二丁目電話三二三番

土木建築請負業 川谷竹次郎 伊知地町三三電話四七三番

歐米諸雜貨 內地各新聞取次 外山洋行 旅順青葉町 電話二四一番

土木建築請負 山村組 大津町電話五八九番

旅順㋛運送合資會社 旅順乃木町電話五五番

土木建築請負業 久野順一 鮫島町一ノ七電話一五三番

土木建築請負業 前西熊市 大津町四一電話三四三番

山北式專賣石版塗黑版 山北製作所 敦賀町電話三一三番

疊製造 興石商店 興石久作 大津町一六電話三六〇番

洋裝附屬品、袋物並ニ化粧品、各種理髮器具 內外各雜貨、樂器、樂譜並ニ附屬品一式 丸宮商店 洋品部 樂器部 乃木町三丁目三七番地電話六六六番

裝飾煉瓦及煉瓦土管製造 小林治作 桃園町八電話五二五番

西洋家具、室內裝飾品漆塗及黑板、諸雜貨商 諸官衙御用達 清水洋行 敦賀町五二電話六七五番

和洋家具、書畫骨董 二宮商店 忠海町二四電話四五三番

材木、建築材料 西野商行 乃木町電話六八番

諸官衙御用 山田活版所 山田杢次 乃木町電話五四番

諸官衙御用達、毛糸類小間物 木本商店 木本鶴三郎 乃木町電話四七五番

土木建築請負業 清住泰一 鎭江町一二電話五三四番

土木建築請負 木下豊一 大津町三六ノ一電話二二五番

土木建築請負 廣垣治助 忠海町電話三〇七番

土木建築請負業 石井組 石井本一 旅順市名古屋町一九電一一三番

陸海軍諸官衙御用達 大西商會 旅順市乃木町二丁目三番地(電話二五三番) 和洋酒白米各國名產商食料品雜貨 大西商會食糧部 旅順市場第一三號(電話六三一番) 振替口座大連一五六三番

旅大定期貨物自動車 引越荷造重量物運搬 ㊅大六運送 本店 旅順市乃木町三丁目電話四六七番 支店 大連市惠比須町停留所前電話七四六二番

滿鐵本溪湖煤鐵公司石炭特約販賣 千代田生命保險相互會社代理店 朝鮮火災海上保險株式會社代理店 日本麥酒鑛泉株式會社特約店 陸軍糧秣食品御用達 一般倉庫業 旅順倉庫經營 倉庫所在地朝日町壹丁目 石炭商 矢幡商會 旅順市八島町(電三一一番) 出張所 滿鐵貯炭場構內電話三〇六番

和洋酒、味淋、醬油、味噌、雜穀、海產物、漬物、乾物類、酢、罐詰、瓶詰、米麥、和洋食料品、生野菜類 陸海軍御用達 食料品卸問屋 ㊅大島商會 旅順市乃木町三丁目四番地 電話一一三八番

旅順新市街旭川町一 鎌倉保育園旅順支部 佐竹昇 電話五五四番

醬油味噌釀造販賣 吉村商店 旅順市乃木町電話一三二番

(いろは順)
鮫島町 稻富藥店 電話五八七番
乃木町 田中藥舖 電話三三六番
青葉町 萬代號藥房 電話四二八番
青葉町 宮竹藥店 電話一七〇番

旅順市名古屋町 仲野齒科醫院 電話一二九番

旅順市 關東州水產會 電話六五番

機械金物船具電氣 旅順市乃木町 喜野商會 本田治三郎 電話二七七番

旅順市八島町 竹森病院 院長 竹森哲三郎 電話一四二番

トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 旅順市金比羅町 石井榮一 電話三七番

旅順新市街松村町二ノ三 オカノ齒科醫院 院長 岡野忠藏 電話五一三番

旅順市富士町 滿洲蠶絲株式會社 電話五六七番

石炭商 滿昌洋行 旅順市八島町電話一六六番 貯炭場電話一四七番

滿洲寫眞帖出版元 記念品卸商 東京堂 旅順乃木町三丁目電話六一番 大連連鎖商店街電話三一九五番

製鹽業 矢原商會 矢原重吉 旅順市嚴島町電話八一・四四六番

藤井金細工店 藤井英太郎 旅順市敦賀町五一電話六九三番

旅順金融俱樂部
朝鮮銀行旅順支店
正隆銀行旅順支店
旅順無盡會社
旅順輸入組合
キンユウクミアイ

滿洲乃華 高粱しるこ 加藤東金堂 出張所 旅順白玉山麓 電話五三二番 大連市常徳街三丁目 電話九八三六番

土木建築業 本田組 本田與市 乃木町三丁目 電話四一一番

旅順市外方家屯 林農園 山林羊牧場 林源一郎

謹んで新春の御祝詞申上候
客年中は格別の御愛顧を蒙り難有御禮申上候
過去の業績に鑑み今後一層の努力を傾注可仕
候間陪舊の御引立御愛顧の程御願ひ申上候
食堂キムラ 浮田寅二郎拜 旅順市敦賀町角 電話三〇五番

御旅館 實來館 乃木町電話五六番
御旅館 防長館 青葉町電話二八二番
御旅館 旅順ホテル 青葉町電話三六七番
御旅館 福壽館 驛前電話四六〇番 一二三番
(いろは順)

(いろは順)
岩崎洋服店 乃木町電話三六四番
井本洋服店 乃木町電話一五七番
高田洋服店 新市街大迫町電話二二七番
中山洋服店 乃木町電話二二九番
島村洋服店 敦賀町電話一六九番

敦賀町共榮會 (いろは順)
井上玩具店 電話一三六番
カフエー松金
玉屋モスン店 電話九二番
ヤマ一履物店 電話五〇二番
小森運動具店 電話五〇一番
木村牛肉店 電話六一二番
久富商店 電話四二九番
森菓子店 電話三四八番

旅順檢番 名古屋町電七一・五九番
彌生 乃木町電三三七番
壽 鮫島町電一六九番
青葉 青葉町電一二一番
君乃家 青葉町電四二六番
新月 敦賀町電二四二番
瓢 乃木町電四九番

青葉町街燈維持會 (イロハ順)
池田洋行 電話七四番
御菓司泉屋
原田時計店 電話六六七番
新見時計店 電話四八〇番
岡女 電話五〇三番
大阪屋號書店 電話三五一番
吉野洋品店 電話一八六番
谷畳店 電話五八四番
高治洋行 電話八七番
山口商店 電話二九番
やまと軒 電話四九三番
山本商店
中野日界堂
松崎紙店 電話一二八番
文英堂書店 電話二〇三番
コンパル(食堂)
瑞章堂印房 電話六三番
喫茶店スヾラン 電六八一

旅順料理屋組合 (いろは順)
西町 一力 電話一二〇番
同 蛤亭 電話二四七番
柳町 濱屋館 電話六九番
西町 東洋軒 電話一〇八番
川端町 吉田屋 電話三一七番
同 旅島屋 電話一六三番
十年町 松葉 電話四三〇番
川端町 滿月樓 朝鮮料理
同 京城 朝鮮料理
西町 榮福樓 電話三七〇番
同 吾妻樓 電話三八〇番
朝顔町 堺樓 朝鮮料理
西町 明月館 朝鮮料理
同 新萬歲 電話三二一番
川端町 笑福樓 電話二四三番
東町 春海館 朝鮮料理
川端町 昭和樓 朝鮮料理

賀正

旅順

關東長官 太田政弘

關東軍司令官 陸軍大將 菱刈隆

旅順要塞司令官 陸軍中將 厚東篤太郎

關東廳高等官食堂員一同

關東軍司令部高等官一同

關東廳內務局長 三浦碌郎

關東軍參謀長 陸軍少將 三宅光治

旅順工科大學高等官一同

關東廳財務部長 西山左內

關東廳警務局長 中谷政一

醫學博士 關東廳旅順醫院 渡邊信吉

千歳倶樂部

[illegible]

步兵第九聯隊長 中村半之助

陸軍砲兵大佐 旅順重砲兵大隊長 渡邊友松

關東州海軍駐在武官 佐世保鎮守府附參謀 海軍中佐 [illegible]

關東廳博物館長 津田元德

關東廳旅順醫院醫師一同

旅順高等女學校長 佐藤馬太
旅順第二中學校長 横佩章吾
旅順師範學堂長 石川義次
旅順第一中學校長 平田芳亮

陸軍憲兵大尉 旅順憲兵分隊長 坂[illegible]光太郎

旅順驛長 小[illegible]誠

旅順衛戍病院長 陸軍一等軍醫正 藤懸廣

旅順郵便局長 草野友次郎
新旅順郵便局長 片桐壽八

旅順市長 永山泰一

旅順市會議員倶樂部員一同

旅順刑務所長 典獄 永田正之助

旅順海務支局長 金行祐八 電話六六番

旅順警察署長 關東廳警視 加藤芳香

旅順民政署長 關東廳事務官 米內山震作 外署員一同

旅順市役所 助役 蔭山榮太郎

鞍山

滿洲興業株式會社 電四二五番

鞍山輸入組合 電六一番

南滿洲電氣株式會社 鞍山支店 電五一、一三五番

鞍山笑和會員一同

製鐵部部員一同

鞍山不動產信託株式會社 電二〇一番

滿洲土木建築協會 鞍山支部 電四番

滿洲銀行鞍山支店 電六七番

正隆銀行鞍山支店 電一三四番

山崎英武 電三三番

三浦源七 電一八番

鞍山金融組合 理事 藤竿義雄 電二二五番

叶井貫一 電六五番

やまき呉服店 電一六・二三三番

大惠商店 電一二六番

演藝館

鞍山滿鐵醫院 從事員一同

鞍山石炭共同販賣所 電四七番

鞍山市場株式會社 電二七九番

鞍山銑鐵共同販賣所 電三七〇番

滿洲購買組合 電五四番

金城商會 電二九番

永井自轉車商會 電四三八番

鞍山タクシー 電一一八番

池田タクシー

加藤政人

鞍山滿洲日報支局

御料理 橘家 電三一五二五五番

小原洋行 電三〇九番

相谷商店 電二三五番

〇國洋行

菊水堂

八雲堂

大正軒

近江洋行

盛海洋行

北川金光堂

瀧口洋行

開江福

明月

扇屋旅館

近江屋旅館

住吉長平

吉川俊雄 電一七番

神田藤兵衛 電五〇番

御料理 一樂 電三一六七二〇五七番

大連

山崎運送店 山崎清吉 大連市濱町一丁目 電話四七五四・四六四九番

寫眞機械及材料直輸入商 樫村洋行 大連市伊勢町五四 電話三七七・四七三八番

図案 眞坂櫻三 電六九〇二

社團法人 滿洲土木建築業協會 在大連有志（イロハ順）

市川工務所	市川金太郎	大連市若狹町 電話六四四四
伊賀原組	伊賀原岩吉	大連市神明町 電話四〇八七
合資會社池內組	池內新八郎	同但馬町 電話五二七四
今井組	今井行平	同霧島町 電話六八八七
合資會社原組	原半次郎	同八幡町 電話六二三三
合資會社長谷川組	長谷川甚雄	同神明町 電話四五二〇
林工務所	林七藏	同東公園町 電話六六〇二
合資會社星野組	星野侊司	同若狹町 電話六六七九
東洋コンプレツソル株式會社	右近熊吉	同若狹町 電話五七三〇
岡組	岡常次郎	同彌生町 電話三九九二
合資會社大庭組	大庭仙三郎	同紀伊町 電話五三〇五
大倉土木株式會社	加藤眞利	同山縣通 電話四二三二
大桑洋行	大桑辰雄	同西公園町 電話五〇三二
大連工材株式會社	福井米次郎	同入船町 電話四五六九
合資會社大同組	河村統治	
	佐伯貫一	同山縣通 電話三三七〇
高岡久留工務所	高岡又一郎	同紀伊町 電話四八〇七
株式會社多田工務所	多田耕一	同淡路町 電話四七八九
蔦井組	蔦井新助	同但馬町 電話四四二八
辻組	辻吉太郎	同能登町 電話六〇六七
草場工務所	草場又一	同北大山通 電話六二五〇
矢野組	西津春治	同播磨町 電話四二三五
合資會社間瀬組	間瀬増吉	同惠比須町 電話三二五一
株式會社福昌公司	相生由太郎	同山縣通 電話七一七一
福井高梁組	福井猪和太	同東公園町 電話三五四九
荒井工務店	荒井敏郎	同若狹町 電話七四二六
榊谷組	榊谷仙次郎	同能登町 電話六七九一
合資會社三田組	三田芳之助	同播磨町 電話四八五〇
白川洋行	山內基信	同櫻町 電話七〇五三
志岐土木組	高石清彦	同信濃町 電話七〇七二
清水組出張所	渡邊俊藏	同鳥羽町 電話五三九〇
鈴木組	鈴木玄吉	同聖德街 電話九二二六
吉川組大連出張所	吉川康	同西公園町 電話六三九三
石井組	石井本一	旅順市名古屋町 電話一一三

社團法人 滿洲土木建築業協會 大連市山縣通一五八 電話四六二三

古本の話
―東京夜店めぐり―
青木實

十一月のある日のことである、會社の歸りに歩いて神田まで行き三省堂、東京堂へ寄って最近の諸々の雜誌をひと通りみてきた、新築の東京堂の階上では、大橋圖書館主催の昭和婦人俗版畫展をやってゐた。日の短いこの頃のことさて、丁度神保町の夜店も店を出し始めたので、久し振りに夜店の本をみることにした。

最近、春秋社が倉庫の掃除をしたらしく、夜店の本屋にはどこにも春秋社の本が並んでゐる。春秋社の本はほかより幾分高價である。それが平均三〇錢位で夜店へ出てゐるのだから定價で買ったものはバカらしくなる。が斯うして棚卸しされたものは比較的賣れないものが多いらしく、トルストイの「人生讀本」とか、尾崎放哉句集「大空」とかは、さすが一冊もない。

それにしても、普及版トルストイ全集が、一冊よりどりみどり一〇錢「ヘンリイライクロフトの手記」が二〇錢、荻原井泉水著「芭蕉を尋ねて」が五〇錢、一茶のものなどが何れも五〇錢でどこの本屋にも轉がってゐる。神保町の夜店に、本屋が二十軒出てゐるかしら……その十七軒位が、みんな新本の特價ものを賣ってゐる。從って品物はみんな似たりよったり、さうしてみんな賣れないとこぼして困った不景氣のせいにしてゐる。不景氣のせいも勿論大有りだらうが、僕などはそれ許りではないと思ってゐる。みんなが同じものを商ってゐるのだから賣れないのは當り前だと思ふ。

神保町の夜店を一軒のこらず見て、上野廣小路まで歩いた。途中に失業者救濟を目的として起した夜店街が二つほどあったが、何れも寂寞、店番をしてゐる人々のせいがきこへるかりであった。上野廣小路の夜店を歩いてみて、村孜郎、後藤朝太郎、長野朗、澁川玄耳、井上紅梅、村松梢風、米田祐太郎などといふ人々の中國關係の書物が目についた。大へんに安いがみんな賣れ行がよくないといふ話である。萬里閣書店で出した、大支那大系の既刊分が一具六十五錢で揃って出てゐる。

新本を、割引して夜店に出す本屋は大體きまってゐるやうである。その大關格が萬里閣、世界の動き社、文藝春秋社出版部、平凡社、中西書房、日本評論社、鐵塔書房その他こまかい出版店である。破產して全部を投げ出す本屋は別として日本評論社などは、賣れない本を棚卸しするらしい。一時春陽堂がそれをやって、夜店の本屋を賑はしたものである。不可解なのは萬里閣書房である。この十月に出版して、新刊書店で賣ってゐる久保天隨著「出門一笑」を四〇錢で澤山夜店に出してゐる。立派に營業は續けてゐるらしいが、その殆ど全部を夜店に卸す。相當うれた著の十一谷義三郎著「唐人お吉」さへ五〇錢でいくらも夜店に出てゐた。大部分がきれいなアラ本で著者檢印も立派にある。

上野廣小路には、十四軒毎夜必ず出るが、その中五軒ほどが三〇錢均一販賣をやってゐる。その中から林[illegible]子著「火鉢を繞る」と尾佐竹猛氏の「夷狄の國へ」を見つけ、二冊五〇錢に負けさせた「火鉢を繞る」は發禁本である。ならんで改訂版本があった。改訂版で〇〇になってゐるところを原本でみるとタアイもないことが書いてある。いづれその比較をしてみて、なぜこんなところを〇〇にする必要があるのか、考へてみようと思った、でとり敢ず手に入りにくい禁止本の方を買った譯なのである。この二書はどちらも萬里閣の本であるが「夷狄の國へ」は幕末の遣外使節物語りで仲々面白さうである。

窪田空穂氏の散文集「消燈前」が同じく新本で三〇錢、尤も四〇錢でうってゐる店が多かったが。これは裝幀が竹の皮であるのが目新らしい。手ざわりも氣持よいが印刷が惡いので折角の趣向も臺なしである。發行所は不二書房とある。

この夏出た佐々木俊郎著「都會地圖の膨脹」が二〇錢で山に積まれてある。これは世界の動き社版、同社版では「その時皇帝は何をなしてゐたか」から「咲ろ支那」に至るまで全部新本投出しである「夷狄の國へ」「火鉢を繞る」「消燈前」「都會地圖の膨脹」四冊で合計一圓也「都會地圖の膨脹」一冊の定價である。

室伏高信氏の著の田舍社版は、何れも二〇錢位でどこにもあり、最近田舍社がその紙型を忠誠堂に賣ったらしく、忠誠堂が七〇錢均一だかで新聞廣告をしてゐた。先月上野の夜店で、欲しいと思ってゐた「尾崎放哉書簡集」を佐藤惣之助著「酒はまだある」と同じく三〇錢づゝといふのを二冊五〇錢にまけさせて買った。この春頃「酒はまだある」一冊で、五〇錢などといってゐたのである。

日本評論社の三〇錢叢書に追加した鐵塔書房版、プロレタリヤ前衛小說戯曲選集の中、前田河「捨てられた男」高田保「宣傳」栗山「仁丹を追っかける」などが一〇錢均一である。

萬葉關係のものでは、神田で森田東繁著「萬葉全釋」が一圓、森本金三郎著「萬葉人の戀愛自然及宗教觀」が八〇錢、一〇錢均一の中に、辰巳利文氏の「大和萬葉地理」が一冊あった。夜店ではいゝ歌集はさすがに少く、新本の古本屋に、晶子、白秋、牧水、關口文子、熊谷政雄、尾崎敬義（近頃日本評論社から、良書「秋花譜」を出した元東拓理事）氏らのものと、プロ歌集二、三があったにすぎない。その他、春秋社版、相馬氏の「御風歌集」が二〇錢、楠田敏郎氏の近業「身邊雜唱」が新本で三〇錢などである「短歌雜誌」の五年一月から、六月號まで合本したのが三〇錢、これを知ると毎月、五〇錢を投じて買ってゐる人は馬鹿らしくならう。しかしこれも奈良の林書店邊に注文すると、賣って倍額取られる。

神田の夜店で異彩を放ってゐたのは、山岸光宣監修「新ドイツ語講座」を、店一ぱいにひろげて一冊一〇錢づゝで賣ってゐた。出版元の金融の都合ださうだが、さすがに賣れる。中央美術社から藤澤衞彦氏が出した「妖怪畫談全集」まだ全部刊行しきらないのだが、出版を中止することになったさうである。これが一冊うり五〇錢で出てゐたが、近頃は三〇錢に値下げしてゐる。これは挿繪の選定が少しく杜撰である。

この頃出た本では、青木純二著「山の傳說」が八〇錢、師尾源藏著「新朝鮮風土記」が五〇錢、中川一政著「美術の眺め」か一圓八〇錢「ツュベイクの冒險」が六〇錢……一人の紳士が「新朝鮮風土記」を四〇錢に値切ってゐた。ぜひ讀まなくてはならない本ではなし、退屈しのぎによむのだから、負けさけと言ってゐた。本屋さんは負けてしまった。さうして、ハトロン紙に包みながら、一〇錢しか儲からないんですよ、と言ってゐた。中川一政氏の隨筆がさてもよみたかったが、一冊の本に一圓八〇錢出すのは、今の僕には惜い氣がした。定價は二圓八〇錢であるのだが……。

いつも思ふことだが、岩波などの本は、古くとも相當いい値をしてゐる。西田幾多郎氏の「善の研究」が七〇錢、紀平正美氏の「認識論」が六〇錢、これらも神田の電車通りの古本店へゆけば、三、四割は高いのである。同じ夜店でも銀座はとても高い。神田と上野では春秋社版の「東京繁昌記」上、下二册が、神田で八〇錢、上野で一圓であった。然し一體に一冊づゝに賣價をつけた店で本を買ふよりも、多少骨は折れるが均一本の中から探す方がおもはぬ拾ひ物をすることがある。

阿部次郎氏の「北郊雜記」を上野で三〇錢均一の中でみつけた。買ふと思ってよして、その後神田で五錢均一の店を一寸覗いたら、その中に「北郊雜記」があった。しかも上野の三〇錢のよりは汚れてもゐないのだった。けれど五錢均一の店はさう長くは店を出してゐなかつ。

傑作名畫を集めた 二つの作品選集
大谷武男

アトリエ社は、今年、幾冊かの美しい原色版畫集を出した。その畫かれた花束は、原畫に接し得ない私達、繪の愛好者の眼を、どんなに樂ませた事だらう「現代作家滯歐作品選集」を始めとして「風景畫選集」「人物畫選集」「靜物畫選集」そして「泰西名家傑作集」など

「現代作家滯歐作品選集」はその名の示すやうに、現代日本畫家の滯歐中の作品を選んだものである。日本洋畫壇の元老黑田清輝氏が、一八九一年、フランスで田舍娘をモデルに描いた「讀書」を始め、東郷青兒の「花を持った姉妹」や、今年帝展で特選首席の榮冠を得た伊原宇三郎の「トリコの女」等に至るまで、多くフランスに遊學した作家のものが集められてゐる。此の二十八枚の繪を見てゐると、日本洋畫壇の推移までが手に取るやうに分るのである。風景と人物が半々だが、私には風景よりも幾層倍、人物の方に惹きつけられる。風景も、コローやモザンスの風景は、段々魅力が減って來た。寧ろシュル・リアリズムの作家の描く妙な風景畫に不思議な快感を覺える位だ。丁度私達が月の光よりネオンサインに心惹かれるやうに。

モオリス・ドニの嚴しさを取入れた小柴錦侍の風景畫「シャレカロリ」も良い。ピカソの肉體描寫をうまくこなした伊原宇三郎の「トリコの女」も良い。しかし私の一番好きなのは東郷青兒の「花を持った姉妹」である。何と言ふ美しい繪だらう「優れた繪は結晶した音樂」だとゲーテが言った。が、東郷青兒の繪は何と言って批評したら良いか。立體派か超現實主義か、いやそんな平凡な名はつけ度くない。美の結晶だ。美の纖だ、雜音の無い音樂だ、優れた詩が畫の形に結晶したのだ。美しさそのものだ。

私は東郷の「ギター」「手術室」「窓」の原色繪葉書を愛藏してゐるが、それ等の繪葉書を、他の畫家の原畫よりも寧ろ喜ぶ。一枚の原畫、それはブルジョアが自分の書齋にかけて眺めるだらう。しかし、東郷は美しい繪葉書を何千枚何萬枚と振まいて多くの人を喜ばすのだ。日本畫の綫の細かい色彩の非常に多い繪は、繪葉書にすると死んでしまふ。が、東郷の繪は單純だ。色も實に簡單だ。だから繪葉書にしても少しも色が褪せない。それは氷柱に入れた花のやうに、かへって小さく縮まって美しく生きてゐる。

東郷を少々ほめ過ぎたが、阿部金剛は東郷程磨かれてゐない。遥かに未成品だ。古賀春江も「海」「意外の化粧」等で人を驚かしてゐるが、未だ〳〵こなれてゐない。東郷の持つ不思議な美には距離が遠い。

東郷青兒と並んで、私は小出樽重の裸體畫が大好きだ。線と色彩が單純で力強く、そしてポーズの美しさ。肉體の厚味と柔かさが同時に感じられてへんに生々しく實感が出て居て、それで少しも美しさを失はない、上乘の裸體畫である。此の二人は日本が誇って良い畫家だと私は確信してゐる。

「泰西名家傑作選集」は、又、良い畫集だ。グレコからセザンヌやゴーガンを經て最近の作家のものまで二十八枚の好もしい原色版畫集である。シヤヴンヌもゴーガンも良い。アンリ・ルッソオの「小兒の像」ドガの「少女像」も[illegible]筈がない。しかし、私はドンゲンに惹きつけられる。ロオトやピッシエールの未完成ながら、その荒っぽさの中に潜む素朴な美に心をうたれるのだ。

ドンゲンの「扇を持てる女」をドガの「踊子」に比べるが良い。「女と犬」の美しさ、殊に「十字路」の持つ單純な美はどうだ。私は日佛展で、ドンゲンの「フォッシュ街」の原畫を見た。美しい繪だった。しかし、その繪葉畫を買ふ時、原畫に無い「室內」と言ふのも一枚買った。私は「フォッシュ街」よりも「室內」が數等好きである。その單純な色、荒っぽい線、それでゐて、汲んでも盡きない美しさと可愛らしさの溢れてゐることはどうだ。

東郷にしても、小出にしても、ドンゲンにしても、單純な線が皆美だ。美の單一化だ。美の統一だ。大きさ廣さは無いが柘榴石のやうに、小さく美しく縮まって結晶してゐる。

シヤガールの「ヴィタペスクの猶太人の墓地」は詩のやうな繪である。表現派風の繪だ。空想が離り躍ってゐる。が、古賀の繪より古い。ピッシエールの裸體畫「コンポジション」も良い繪だ。しかし私は小出の方がもっと鋭いと思ふ。ロオトの「裸體習作」も素朴な美しい繪だ。

私達にはもう、シヤヴンヌの「海に面して立てる女」のやうなポーズは飽き足らなくなった。その轉寫的な姿態、柔かい線、それはどんなにか永く、私達の眼を樂しませて呉れた事だらう。しかし、小出達の「裸體畫」はそれよりも數歩前進してゐるのだ。

廢娼運動と世界の暗黒街（三）
在東京　波瀬川生

惡周旋人の跋扈 無情極まる親達

婦女が墮落するのは、大抵惡周旋人の手を經てゐる。支那ではこれらの婦女誘拐者に對して重い刑罰を課してゐる。長沙の如く、右の犯罪者を銃殺に處するところもある。

◇

彼等周旋人は、汽船の乘組員、旅館料理やの番頭、行商人等であって、品性劣等の者多く、賣笑婦の周旋をなし、或は良家の子女を誘拐して、巨利を博してゐる者も少くない。また彼等周旋人は、誘拐した婦女を妓館に周旋するに際して、前借金百圓に付二十元位の周旋料をむさぼってゐる。

◇

人身賣買の盛んな支那では、妓女は多く、父母、夫若しくは情夫らから抱主に賣り渡される者が多い。その相場は、年齢、標緻さするもので、例へば、十歳位ならば百元、十五歳位ならば百五十元と云ふ風に評價されてゐる。上海及び蘇州方面から、廣東地方に輸出せられる。所謂蘇州妹と稱する支那人藝妓は、幼兒人身賣買によって、同地方に流れ渡った者で、その數は約七百人にも達してゐる。彼等は現在約百八十戸の妓館に抱へられてゐるが、かれらのうちには他の地方に輸出せられる者も少くない。またかれらに對する保護の途は、何ら講ぜられるところなく、抱主の意のまゝに酷使せられてゐる。

◇

成都地方では、貧民の子女が、十二三歳に達すると、都會に出て小間使に奉公する習慣がある。奉公と云っても、毎月給料を貰っての奉公ではなく、悉く住込みの三十弗乃至七八十弗の小金をその親達に渡すだけである。その子女が年頃になると、主人は本人を結婚させるか、或は稀には本人の希望により若干の勞働金を與へて兩親の許に歸らしめるものもある。妓館の主人らは、この習慣を濫用し同樣の手段を用ゐて子女を分取り、かれらが相當の年齡に達するを待って、藝娼妓として營業せしめるものが多い。

◇

勿論これらの惡手段は、表面上禁止されてゐるが、一見子女を解放した親達は、家畜でも賣り放ったるが如く、その子女の行先を顧念することもない。湖南地方では三四歳から七八歳までの女兒が最も多く需要せられ、十弗以上四五十弗內外で賣買せられてゐる。この種の幼兒を買ひ受けた者は、これを養育し、その十四五歳に達するを待って、妓女として妓館に賣り渡すのである。（つゞく）

「合萠」十二月 例會詠草（下）
滿洲短歌會

かりそめの旅も終りぬ驛待の馬車の灯影の眼にはしたしく　西島貞子

いぶせくも暖爐の煙りたちのぼる家路を急ぐ勤め人の影　高尾雄峰

なれぬこの石くれ道をいそぎつゝ人の後を見つゝゆくかな　森田ふみゑ

友送りて門に出づれば目にしるく夕べの街の風にながるゝ　宮士ふさへ

之とても世を渡らいのおきてかや我には慣れぬ世辭の一言　松山みそぎ

山峽の冬枯木立霧たちて風はた寒く寒く夕づきにけり　若林鮮州

いくさせか流離の旅に泣く人といくばくの差のありやおのれと　嵯峨京子

電車まつと並木によれば午後の日が疲れし影を薄く地におく　寺本初音

構內に引き入れられし貨車の上に小雨にぬれつゝ旅ふれる人　鈴木澄歌

おく霜のしろく眼に立つ板ばしに蔬菜を積みてゆく車見ゆ　荒川不倫花

賀正

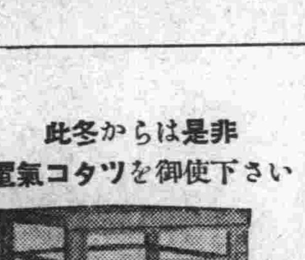
◎新年の御祝酒
◎新年社交の必需品
◎新年の御進物用品
大連大山通
宅の店
電話代表五一九九
勅題 生乾 菓子
新年宴會用御引菓子

歐、邦、華文タイプライター各種
活字母型、鑄造機、其他製造販賣
日本タイプライター株式会社
大連支店
大連市山縣通
電話八四七一番

轉ばぬ先きの杖、不慮の災難にこの保險
大連火災海上保險株式会社
大連市常盤橋中央ビルデング
電話 長三五四一二 三五六一一番

健康増進と難病治療に
バイタライトランプ（紫外光線）を御使用下さい、其効果は實に偉大であります。
太陽の主動力たる「紫外光線」を發生する故「人工太陽」であります
紫外光線を受くれば新陳代謝機能を旺盛ならしめ、諸疾患の治療を早からしめ、腺病質の人は家庭に於て是に浴し日光の少ないビルデング、炭坑內、劇場、浴室等に設備すれば日光浴と同樣に健康增進上の効果を收むるのみならず衞生をん重した文化的設備であります近來病院は勿論、學校、集會場、各家庭に於ける需要が增加して參りました

バイタライトランプ 紫外光線
定價 五〇〇ワット用 貳拾五圓五拾錢 三〇〇ワット用 貳拾四圓（何れも五ケ月々賦）

衞生上絶對無害です
常に適當な温度を保ちます
取扱は手數を要せず安全です
使用電力料金は非常に安價です
此冬からは是非 電氣コタツを御使下さい

十時間連續使用料金 200ワットにて三錢三厘
定價 九圓（三圓にて三ケ月々賦）
南滿洲電氣株式會社
大連市常盤橋

大連連鎖商店街
東亞煙草株式會社
大連販賣所
電話四二七三番

營業品目 一、銅鐵材、建築材料 一、諸工業機械、雜穀肥料
株式會社 大信洋行
大連市監部通四九
大阪支店 大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店 奉天小西關大街
銅鐵工場 大連市香取町六番地
製油工場 大連市千代田町十一番地
倉庫部 大連市東郷町二五番地

東旅館
大連市信濃町日本橋際
電話四六四六番

富士屋旅館
電話五二八六番

建築材料、石炭販賣
德和公司
大連市近江町二 電話代表六一八一番
同 入船町區外 電話 四八四七番
同聖德街二丁目 電話 九二三〇番

大倉商事株式會社
大連出張所
大連市山縣通大倉ビル
電話代表八一六一番

ビクター蓄音機滿洲代理店
山葉洋行
大連市信濃町
電話代表四一四八番

株式會社 永順洋行
大連市大山通
電話 四三三九 四八六八番

內外板硝子輸出入貿易
衞生防水煖房材料工事
松島商店
大連市山縣通一四九
電話代表五一八六番
同 建材部 電話五七七六番

昭和聖代の第六春
けふお迎への宮中御儀
神祇、山陵を御遙拜　蒼生の幸をお祈り
賢所三殿の歳旦祭

【東京卅一日發電通】昭和聖代第六春を迎へて、宮中では嚴かな〔ほ〕の暗き中より賢所神嘉殿南庭において天皇陛下、神祇山陵を御遙拜國民の多幸を祈らせられ、引き續き賢所三殿における歳旦祭御親拜あり、年頭に當り敬神崇祖のまことをつくさせた神嚴なる御儀終るや陛下には鳳凰の間における古儀床しき晴れの御儀に臨ませ給ひ、続つて御内儀にては皇后陛下および照宮樣、孝宮樣も御揃ひのうちに御屠蘇の御祝膳につかせられ、午前十時からは更に正殿にて皇族殿下以下内外使臣の拜賀をうけさせられるなど元旦の宮中は神嚴なるうちに陽氣みち充ち新春を壽ぐ歡喜にどよめくのである

四方拜の御儀
若水に玉體を淨めさせ
黄櫨染御袍にて神嘉殿に出御

この朝、天皇陛下には畏くも午前四時半さいふに御離床、若水にて御淨身相成り同五時半には綾綺殿に渡御遊ばされ、御宿直の侍從等御介添にて至重の御儀服黄櫨染御袍に御召替へあり御劍、御璽、御草鞋、御笏を捧ずる、侍從供奉九條掌典長の御先導にて賢所神域なる神嘉殿に出御こゝにて御劍の侍從御屏風外に控へ申す、陛下には御笏を正させ給うて伊勢神宮をはじめ四方の神祇、畝傍山陵、多摩御陵、特に御崇敬の熱田神宮以下の數社を遙ろに御遙拜遊ばされ國家安穩萬民多幸を御祈念御默禱を凝らし給ふ

庭燎ゆらぐ神域に
歳旦祭の御儀

庭燎のほのぐらさもゆる賢所の神域では森、嚴の神さびた神樂歌そゞろく響きわたり掌典の手による賢所の御開扉の音微にきしり神饌の供御終るさ太古の如きしゞまを破つて九條掌典長の祝詞の聲傳はり、四方拜の儀御終了の天皇陛下は御鈴打ち振ふ中を神前に御親拜遊ばされ皇靈殿神殿に及ばせ御儀は天明ほのぐらく同六時御終了の豫定である、皇后、皇太后兩陛下にはこの間それぐ御内儀にて御遙拜遊ばされる

輝く鳳凰の間に
新年拜賀の御儀
秩父宮殿下御はじめ
内外臣より年初の御慶言上

天皇陛下が皇族各殿下、内外臣僚より年の初めの御慶言上をうけさせらる、新年拜賀の儀は一日午前十時より輝く鳳凰の間に於て行はせられる、朝來、數々の御儀を終らせられた天皇陛下には（皇后陛下は御懷姙のため出御なし）龍顔一二の間に御參集の秩父宮、同妃兩殿下ほか在京各皇族殿下から順次拜賀をうけさせられ年頭の御慶言上を御嘉納遊ばされる、この日天皇陛下の

御姿は　畏くもかしこき陸軍式大元帥の御正裝にて大勳位菊花章その他數多の勳章を御佩用遊ばされ御服裝御嚴然さ拜される、一木宮相、林式部長官御前行し奈良武官長、鈴木侍從長供奉、秩父宮殿下以下各皇族殿下扈從申しマント・ド・クールの長きトレーンを若き公達に捧持せしめられた御淨裝楚々たる各宮妃殿下順次御行列に續かせ給ひ陛下には同十時正殿に出御遊ばされ給ふ、正殿玉座の下には西園寺、山本兩大勳位、幣原總理大臣臨時代理、以下國務大臣、倉富、平沼樞府正副議長、清浦、高橋、若槻、内田等前官禮遇、陸海軍大將、樞府顧問官以下親任官、貴衆兩院議長、勳一等功一級、同待遇、公爵從一位等有資格者は美々しく飾つた

大禮服　または正裝にて佳麗或は洋裝の夫人同伴それぐ順次陛下の御前に伺候し拜賀申し上げ　天皇陛下は同十時四十分入御遊ばされる、かくて同十一時からは更に正殿には臚列の宮中席次第二階以上の諸員、同十一時五分からは宮內奏任官、同待遇に拜賀があり、また午後一時半からは本邦駐箚の各國大公使、同夫人等の拜賀があるさ洩れ承はる

大晦日の
諸御儀

あはたゞしくも暮れ行く昭和五年大晦日、宮中に於かせられては卅一日午後より左の如き數々の御儀が嚴かに行はせられた

節折の儀
御儀は宮中鳳凰の間において行はせられ、式部職員は正午ころから御式場を鋪設し、皇后陛下の御贖物を供し奉り、かくて午後一時關係諸員參候すれば、天皇陛下には雪白の御小直衣を召されて出御

大祓
侍從より荒世の御服を供し奉る、荒世の御服は白絹で作られたるものでこれを返し給へば次に御竹を供し、次いで竹を以て玉體を五度量り奉り、これを返し給うて茲に竹を除く荒世の儀を終り、續いて和世の儀を行はせられるが、その御次第は荒世の通りで、和世の御服は紅絹でつくられたものである、和世の儀を御終了さ共に陛下には入御、節折の儀を終へさせ給ふた

二重橋正門内に祓所を設け、午後二時本多掌典次長及び各廳の勅任官總代各一名、列席上の御幣に祓の稻を挿み掌典大祓の詞を奏讀し終れば掌典は大麻を以て諸員を祓ひこの儀を終つた

除夜祭
宮中賢所、皇靈殿、神殿に於て午後五時半から九條掌典長以下各掌典部員參列、神饌を供し祝詞を奏し嚴かに除夜の御祭典を執行、六時過ぎ終へさせられた

御懷姙の皇后樣
御順調に拜す
【本多侍從の謹話】

皇后陛下　には昭和第六春を迎へさせられ御年二十九、一月は御懷姙八箇月にわたらせられいよく二月は日出度き戌の吉日をトし天皇陛下の御前にて晴れの御着帶式を御擧行、かくて陽春三月には新宮樣を御分娩のことゝ拜察してゐます、陛下昨今の御日常は照宮、孝宮兩内親王樣を御膝元に御養育遊ばすこととて殊のほか御多忙に拜されますが、陛下はそのうちから御寸暇を割かせ給ひて毎週火、金曜の兩日宮内省御用掛加藤内藏助氏を召され

御胎教に　關する御講話を遊ばされその母性愛の御こまやかなことには側近奉仕者齊しく感激するところであります、陛下は散歩を非常に好ませられ晴天の場合は大概吹上御苑に出御ましになるが毎日曜、天皇陛下、兩内親王樣さ御さもぐさきに全國官吏から獻上した同御苑の花蔭亭に出御前後に天皇陛下、兩内親王樣さ葉山に御避寒遊ばされ御歸京後は駐泊の御豫定と拜します

新宮樣の　御召物等を御手ずから御縫しみさ遊ばされてゐるのを御樂しみと遊ばされて御讀書のほか兩内親王樣の御召物を御縫く仕立になつたり毛糸編物、編物等の手藝の御手すさみも遊ばされ、最近では御分娩の御準備さして

皇后陛下もこれに御答へ遊ばすなど種々御心盡し遊ばしてゐられます、從つて皇后陛下御懷姙以來の御經過は極めて御順調に拜され目下侍醫に代つて御産御用掛が一週一回づゝ拜診申上げてゐます、新春の宮中御儀式は右のやうな御都合で出御遊ばされぬが來る十日前後に天皇陛下、兩内親王樣さ葉山に御避寒遊ばされ御歸京後は

淨めの雪に明けた
大連のお正月
――關東廳觀測所三ケ日のお天氣――
曇・雪模樣・後晴れ

勅題「社頭雪」にふさわしい雪がお正月が旅大一帶の州内に訪れた昭和五年十二月卅日の夜中から降り初めた雪は小さい粉さなつて卅一日も降りつゞけ、觀測所の話では昭和六年一月元旦もお晝ころまでは雲がうかさいふ

空模樣　卅一日大晦日は除け人々にとつては最もふさわしい元旦であらう、家庭の雪を眺めて一家團欒の屠蘇を祝ふ正月の家庭には最も好ましいお正月さなつた屠蘇に醉つた千鳥足の紋付姿やモーニング姿がまた奥樣方や車エイヤに色々な迷惑をかけることであらう、何れにしてもこの雪で先づ昭和六年初々の景氣を祝つたのはタクシー業者だ

若草山　觀測所に正月三日間のお天氣を伺ふ
黃河下流から渤海灣にかけて淺い低氣壓が起つたため天津から旅大方面一帶は到頭雪になりましたが、いゝそれでも大晦日は相當の人出であつた、清らかな元日の雪の道を家族連れで大連神社に參拜する

した、一日のお晝ごろまでは曇天氣模樣ですれ、二日ころから大氣は次第によくなりませう、その代り氣溫はもつさ低下して寒さはひどくなるでせう、そうですれば卅一日から正月三日までの天氣豫報は曇、雪模樣、後晴さいふところです

社頭雪――大連神社にて

高松宮、同妃殿下
伊太利で御越年

【イタリー、ブリオニ三十日發電通】高松宮同妃兩殿下には二十九日ヴエニスを御出發、汽艇にて三十日朝ブリオニ島に御到着、折柄催された歲末大舞踏會に臨御さして御臨席遊ばされ更に避寒地アッパチアに成らせられた、當地方はローマ全盛時代の史蹟に富むうへアドリア海の奥に位し氣候著るしく暖かいので兩殿下の御越年の地さして選ばれたわけである

大連神社の
歳旦祭初め
各方面の慶びの行事

鐘が鳴る、除夜の鐘が鳴る――百八つの鐘が靜かに鳴り渡るさ夜は仄々さ明け放れて森羅萬象は悉く新たになる、茲に一九三一年を迎へて、お宮には鈴の音、拍手が鳴りお寺からは嚴修の讀經が齡かに洩れて來る、各官衙、銀行會社は拜賀式や祝賀會を擧行し人々は威儀を正して「お芽で度う」を繰返す、乾坤一擲して市中には正月氣分が横溢する

この日　大連神社では午前四時、沙河口神社では同八時から歳旦祭を執行し、常安寺では午前四時から、西本願寺では同五時半からその他のお寺も四時から五時までの間にそれぐ嚴修し、大連民政署では午前十時から署員の拜賀式を擧げ、同十時三十分から同十一時までの間各國領事稅務司および一般の參賀を受くる事になつてゐる、大連警察署では午前九時から、大連憲兵分隊では同九時半から

拜賀式　を行ひ、關東廳地方法院では午前十時から拜賀式を擧げ、同十一時からは法院職員さ辯護士會の合同祝賀會を行ひ、大連第一中學校では午前九時半から神明高等女學校では同十時からその他の中等學校、小學校も九時から十時までの間にソレぐ拜賀式を擧行、大連市役所では午前十一時から市會議場において市吏員市會議員、區長參集新年祝賀會を催し滿鐵會社では午前十一時から本社會議室で

祝賀會　を開き引續き滿洲館において賀辭交換會を催す事になつて居り、市役所主催官民合同の新年名刺交換會は正午から彌生高等女學校において盛大に催される事になつてゐる

同じく　實業室で別離の挨拶を交してゐた鵜田主計監は語る
郷里に歸つて老後を送らうと思ひます、在任中は大へんお世話になりましたが皆さまによろしくお傳へ下さい

新春劈頭を飾る
映畫週間の第一聲
果然、白熱的人氣で期待される
本社主催村田實と夏川靜江の夕

新春劈頭を飾る本社主催の映畫週間の第一聲さして來る六日午後七時から滿鐵協和會館に於て「村田實さ夏川靜江の夕」開催を發表するや果然人氣は沸騰し白熱的期待を以て迎へられてゐる

當夜　の催しは既報の如く「村」實さ夏川靜江の夕」を意義あらしめるため村田實氏を講演壇上に迎へ日本映畫界の第一人者が蘊蓄を傾けた「映畫國策」さ題する講演及び氏の映畫上の功績を示す日本映畫中の最大傑作品である日活現代劇部特作品夏川靜江主演「灰燼」を上映し、更に夏川靜江は日活現代劇部新、瀧澤浚、信次郎、金平軍之助と共に大日活で上演する廣津和郎作「勝者敗者」以外に花形劇曲家岸田國士作「紙風船」一幕を特に映畫週間のために上演することに決定し愈々

興味　つきぬ「村田實さ夏川靜江の夕」さなり當夜の盛況が豫想されてゐる、會費は一圓で六日朝から大連滿鐵社員俱樂部事務所で滿鐵社員は後援取扱で前賣さ共に座席券を交換するから滿員にならぬうちに求められたい

長、中日文化協會理事村田懿麿氏等々……サロンは

大賑ひ　で二等三等も平常より賑つた、世井子準備榮造の三井から二年半の契約で借りて來られた滿洲界の權威服部省三氏は無事豫定の仕事を終えたので引揚、三井へ年に戻る服部氏「一寸郷里へ年を送りに」と驚尾正金大連支店長等卅名で滿員の盛況振り、退役した前關東軍主計總監藤田順中將が子人を同伴して郷里和歌山に引揚げ滿鐵顧問の任滿ちて三井に戻る服部省三氏同じく家族同伴の中西滿鐵文書課

大晦日の
出船賑ふ
知名士を滿載

押迫つた大晦日に出帆した內地定期船香港丸は知名士の乘船多く一

支那刀で無殘にも
親子三人を慘殺す
長春北門外の慘劇

師走も押迫つた慌だしい卅日の午後、親子三人暮しの一家が無殘にも慘殺されたさいふ慘劇が起つた長春北門外の藥種商榮春室こさ長田ミネ（）方の門扉が三十日午後四時になるも開かぬので不審に思つた近隣の人々が寄り集つてドアをこじ開けたところ室内は非常に取亂され奥の室では夫長男（）長女（）の一家三人が支那刀で見るも無殘に殺害されてゐるのを發見、直に公館め領事館警察署へ急報、領事館警察署より中川警部、長春署より田端司法主任が現場に赴き死體檢案をした結果犯行は廿九日夜行はれたものさ推察され、その原因はミネが寡婦なる處より知つた痴情關係の二說に分れてゐるが犯人は同家の勝手を知つた支那人の所爲らしく領事館は公安局と協力して犯人嚴探中である【長春電話】

病首相濱口さん
寫眞を撮る
髭は遭難記念に殘す

【東京三十一日發電通】濱口首相の病後の寫眞は永らく問題となつてゐたが、いよく三十一日午後新聞通信社の寫眞班に撮影せしめ新年の新聞紙上に更生の濱口首相の初姿を見せる事になつた、なほ遭難以來一度も剃らなかつた髭は遭難記念として殘すこととなりもう剃刀を當てない事に決定した模樣で自分で鏡に向つては鋏で整へて

大連の演藝界
新春華やか
けふ一齊に蓋開けの
キネマ陣と芝居陣

◆……初春の蓋は興行界から……これは例年通りの新春の演藝陣を紹介する……キネマも芝居もその陣容を更めて一齊に元旦から初春興行の蓋をあける、先づ華々しいものに常盤座の「西部戰線異狀なし」と大日活「アジアの嵐」の

◆……この二館に對して洋畫の……常盤座はマキノの特作品時代劇……日活時代劇特作品大河內傳次郎主演「旅姿上州路」……

……歌舞伎座は五條家……

……一行の……

……で大衆の笑ひに……

◆……一方芝居は大連劇場が大連タクシー後援さいふ……

謹賀新年

謹賀新年
舊臘中は厚き御愛顧を賜り難有御禮奉申上候
尚本年も不相變御引立之程偏に奉願上候
一月元旦
宅の店
大連大山通

I. I. TSCHURIN & Co.
Dairen Branch
42, Yamagato-dori, Tel. 22025
wishing
Happinese and Frosperity in the New Year.
謹賀新年
チューリン商會
大連支店
大連市山縣通四二
電話二二〇二五番

新春の賀詞申上ぐると共に昨年中の御引立を御禮申上ます
今年は一層努力致しまして陶磁器、世帯道具等、好い品を安く御願ひ御客樣方の御意に召します樣務めますれば何卒倍舊の御引立御願ひ申上ます
岩倉洋行
大連市浪速町三丁目
電話八四〇・四六〇・八〇五番

舊年中は格別の御引立を蒙り難有御禮申上候
茲に年新まり一層研究努力御眷顧に酬ゆべく存じ居候間不相變御用命御引立の程奉願候
光葉寫眞館
田尻光葉
大連市浪速町伊勢町角
電話五九八二番

舊年中は格別の御引立を蒙り厚く御禮申上ます
尚本年は猶一層努力御眷顧に酬ゆる心願に候間何卒倍舊の御引立の程願上ます
丸三呉服店
大連市浪速町三丁目
電話八六五五・二〇五〇番

浪花酢
大連市磐城町二〇番地
電話五六五六・四七七二番
◇簡易食堂は設備を充分にしてゐます

魚商 西園商店
大連市信濃町市場三三
電話（代表）五二一五
西通り八十四番
住宅 電話三六四〇番

大連著名商店

虹と兜虫（1）

龍膽寺雄作　一木淳畫

兜島に住む人たち（一）

三月下旬のとある靜かな朝ぼらけです。

季節には早い驟雨があけがたサッと海を刷いで過ぎて――間もなく、對岸の虹見崎の肩からかけて珍しい朝虹が、鮮かな七彩の片脚をくつきりと空に掲げるんでした。折柄、兜島の西の入江に近い木蓮閣の書廊の建築場では、夥だしく積まれた大理石の濡れた石材に腰をおろして、建築美術家の緑ケ丘氏が、煙脂に染んだ素焼のパイプからノビノビと、煙の塊りを空に吐き乍ら、高いところを截る雨脚の面紗にぼかされて、見る見る形、薄めていくこの片脚虹を、殘り惜げにさつきから仰いで居るんでした。

「どうだれ、幽」

彼は獅子の鬣を思はせる胸腸の邊の長い捲毛に、糸の樣に煙をからませ乍ら、優しく眼を細めて、

「虹の詩は君出來たかれ?」

「いゝえ」

傍に、これも朗らかけた大理石の巨大な花鉢に腰をかけて、一緒に岬の虹を仰いで居た黒天鵞絨のルパシユカの少年は鼻すぢの織つすらした美しい細面を振り向けて、明ろく微笑むんでした。

「どうも、硝子細工のやうなあのはかない瞬間の美がうまく出ないんです」

「大理石のがつちりした組象候になるかれ」

「ならまだいゝんですけれど」

少年は笑って、鉢――の縁から立って、

「言葉って奴は繪具と同じ樣に纎細なもんですかられ。まだ滿布へならどうやら寫せさうでしたけれど……」

「そこへもって來て」と、緑ケ丘氏は煙と一緒に朗かに冷かすんでした。

「……片一方きア脚のない虹だからね。なほさらむづかしいさ。人間だつて片ちんばぢやヨチヨチ歩きア出來アしない!」

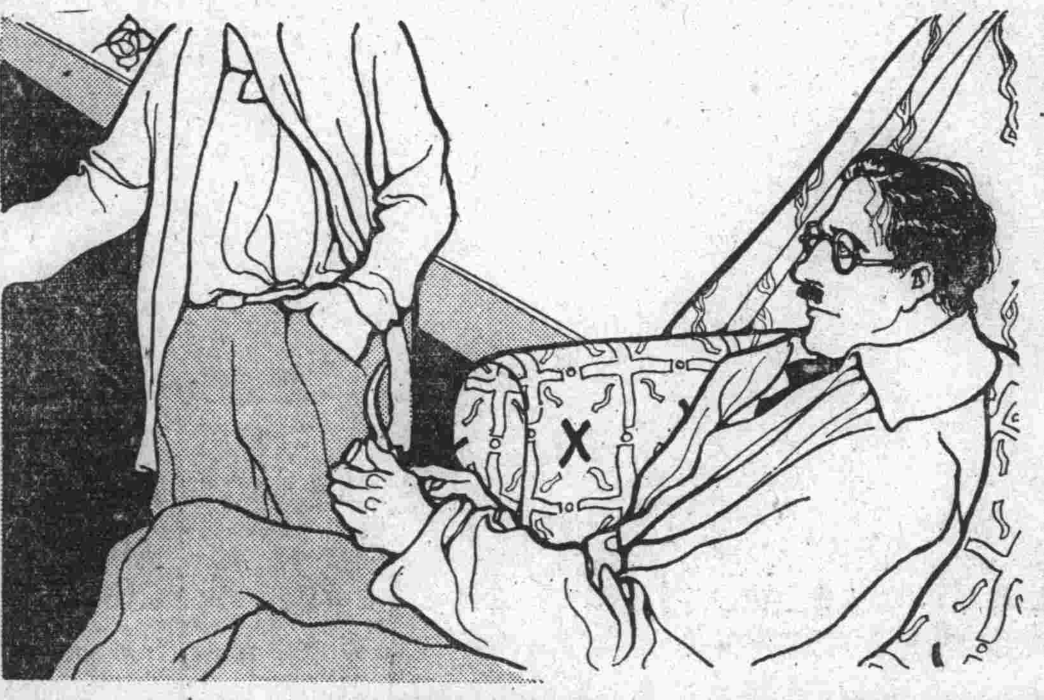
森嶮の傾斜はやつと雲が消えたばかりで、地面は冬の頃の荒れた苔に霜の樣に覆はれたまゝ、さすがに春淺い三月の朝は、地球のしんの冬の冷却が地面に近く、白々と息を凝らせるんでした。

作業時間の來ない書廊の建築場は、まだひつそりとして、ギリシヤ破風をさゝへて立った十六本の大理石の圓柱が、石材の堆積の向ふに薔薇色に朝日に輝いて、――森では、名の知れない小島の聲が時折建築形に空間をひび渡らしては森閑と啼き交してゐるんでした。

一體、木蓮閣のこの書廊は、兜島の持主である白鳥伯爵が、嘗てヨーロッパを漫遊中に、イタリー、フランスやドイツで蒐めたさまざまな古典藝術、繪畫や彫刻や繍物や古陶やさう言ったものを、なかば展覽の便宜を兼ねて秘藏するために、自分の持ち島のこの山莊に建築を思ひ立ったので、その設計と工事とを依囑された緑ケ丘氏は、選り拔いた熟練石工十名程を東京から伴つて來て、最早まる一年、周圍二里に充たない淋しいこの小島に籠ってゐるんでした。三十八歳でまだ妻を迎へない獨身の彼は、十九になる甥の幽を一緒に島へ呼寄せて、繪かきで詩人であるこの少年に仕事の一部――室内裝飾や家具調度などの圖案設計を手傳はせ乍ら、

「おい、幽」

時折緑ケ丘氏は、寵愛してゐるこの十九の少年を觀て言ふんでした。



「東京が君戀しくなりアしないかれ?」

「いゝえ」

幽はのんきに明ろく

「虹見崎の漁業飛行場へいつて無理に纏めれば、東京へぐらゐ雜作もありませんかられ。ひどく東京が戀しくなつたら、をぢさんが午睡をしてらッしやる間にでも、ちよいと脱け出して行つて來ますよ」

その戰鬪の漁業飛行機が朝日を浴びて今やキラキラと虹の消えた岬の空に舞ってゐるんです。まるで雲母のかけらでも降る樣に――

滿日柳壇

羊　高橋月南選

山羊髭をなでゝ時勢を危ながり　大連　喜一

喰ひ飽いて羊すたこら歩き出し　奉天　新期

羊から生れたやうな洋服屋　大連　林子不

山羊の乳呑ませて次の子を孕み　旅順　のぼる

檻にゐる羊初日に丸ふ瞬る　旅順　森堂

今時の女羊のやうに居ず　大連　膏々庵

夢を見る目つきで半紙を喰ひ　青島　琴舟

羊飼ひ羊のやうな氣性なり　大連　雨明

童話劇羊を中に踊り出し　大連　市路

羊の綱けつさばされてエロの春　旅順　野村

お飾も派手な今年の羊小屋　大連　敏

羊の眼羊の心へ萌ゆる草　張嶽子　白帆

伸してはからるゝまでの羊なり　奉天　奇峰

丙午羊のやうにして嫁ぎ　大連　南村

新刊紹介

▲世界の脅威アメリカニズム（コリヤ原著香川巳之介譯）現代世界を風靡しつゝある二つの潮流はアメリカニズムとボルシエヴイズムであるアメリカニズム……資本主義制度の代辯者たる……の本態に明徹辛辣なメスを下した快著！アメリカニズムの正體を知らんとするもの丶必讀の書（四六版三五四頁價一圓五十錢東京市神田區一ッ橋教育會館内歐亞社）

▲財界巨頭傳（實業之日本社編）現代日本資本主義の糸を操る財界の巨頭連を拉し來って彼等の人物を通俗的批判のメスを揮つて解剖し彼等の行動を社會的公正の脚光の前に鮮明に描き出し赤裸々にして躍らせると共に彼等の今日の地位まで歩んだその足跡を搜れた彼等の奮闘立志傳でもある（四六版四一二頁價一圓五十錢東京市京橋區銀座西一丁目實業之日本社）

▲運命の打開（増田義一著）本書は運命開發のために如何に努力し奮闘すべきか?堅忍自重奮闘努力せば如何なる禍も福に歸せしめ得る事を古今東西實例を示し青春の意氣に燃ゆる青年諸君の前途に一大光明を與へる立志成功へのパイオニアである（四六版三三〇頁價一圓東京市京橋區銀座西一丁目實業之日本社）

▲海の馬鹿（福島常見著）

▲花粉の日（赤松月船著）

共に新説詩人叢書の一卷を爲すもので透明なすがくしい感動に滿ちてゐる（價各冊六十錢東京市小石川區江戸川町十八交蘭社）

日本ビクターレコード

一月新譜

詩吟 元 保名　清元延壽太夫
歌舞伎劇 め組の喧嘩　尾上菊五郎一座
義太夫 野崎村　豐竹古靱太夫
尺八 春の海　宮城道雄 吉田晴風
箏曲合奏 六段　荒木古童 河田?
ソプラノ獨唱 千鳥なく　荻野綾子
薔薇散りゆく
荒城の月
お菓子と娘　荻野綾子 鈴木クワルテット
高砂　大槻十三
蘭取　富士松長門太夫
鋼は千兩　岸澤式佐
乃木將軍　田中旭嶺
二曲 雪　萩原正吟 三聰次郎
兎と龜、マルタ兵　河合ダンス少女團
鶴寿 八景　日本ビクター和洋合奏團

歌謡

哀しき歌　徳山璉
おぶい人草　四谷文子
釣鐘たより　根本美津子
秋の山よ市か歌　木下千夜子
日本橫浜から　佐藤千夜子 明治大學マンドリン倶樂部
影を慕ひて
佛教青年會の歌　徳山璉

映畫主題歌

青い眼の坊ちやん　四家文子
「トラ」の薔薇湯　羽衣歌子
「女給」の唄（キネ映畫主題歌）　二三永文

童謡

雀の踊り　服部とみ子
黄金の鈴　太郎
桃太郎の遊び　納所米子

三絃レコード

先日野球都々逸　春日とよ子
地かつぼれ　南地此八
初ケ三下り節　二三吉
春のさ黒れ節　みき光
我がもの渡し　霞町
佐渡おけさ節　勝太郎
越後追分

新作各地民謡

賀名池生節　やと吉
熱海小唄　四谷文子
鬼怒川小唄　二三美津子
宇都宮小唄　根本美津子
高松小唄　四谷文子
道頓丁小唄　二三香川花子
道後小唄　佐藤千夜子
四日市小唄　二羽衣歌子
岡山小唄　二羽衣歌子
藏野湯山の節　二三吉
菜の花釣り節　若
と、んぼ節　家三
スキー節　二四三文吉

俚謡

日本一庄屋　小唄 木村友衛
長持追分　山内磐水
酒屋唄
八丈節　八丈をんな名
八丈ばやし　外二

浪花節

河内山と直侍の出合　木村友衛
佐渡情話　おけさ節入　壽々木米若
赤穂城血判取　吉田奈良丸
義士館聞記　梶川改心錄　木村友成
神崎與五郎東下り　吉田日出

映畫說明

新東京行進曲　長谷川麗?
警色三人吉三　柳亭春?
萬歳目出度の唄　砂川捨丸
掛合小倉二大都々逸　河内家芳子
ジャズ　ウの花にホ打越
ソング　菊のコール　ジャズバンド

乃木將軍の肉聲と其憶出　海軍中將子爵　小笠原長生

乃木將軍の歌

日本ビクター蓄音器株式會社

滿洲總發賣元　山葉洋行

謹賀新年

大連

沙河口警察署長　久下沼英

滿鐵大連工場　野中秀次　結城清太郎

沙河口郵便局長　田島豐次　中央電話分局長　杉浦熊男

松野節

沙河口驛長　佐藤榮越

大連機械製作所　森川莊吉

東昌號代表 沙河口實業會長　小田斌

沙河口西區長　長濱丹治

桂城門三郎

輸入組合支部長　小松圓吉

沙河口市場長　大久保正登

實業倉庫代表　森脇太郎

關東州酒造組合

沙河口實業會

市設沙河口市場事務所　電話九三三九番

沙河口仲町四十三番地　銘酒 菊一 美之鶴 釀造　西郷屋　電話九四〇九番

印醬油釀造元 味噌釀造元　滿洲醬油合資會社　樋谷百合松　大連市沙河口西町 電話九〇二三番

沙河口京町一一六　銘酒 大觀　豐糧社　電話九五六二番

沙河口藥業組合

沙河口飲食店組合

沙河口神社　河野謙　電話九二四八番

聖德實業會

大連煉瓦合資會社　岩崎勳　大連市聖德街三丁目七十八番地 電話九七九七番

大連聖德街郵便所長　岩永龜次

大連市聖德街三丁目二二 高橋醫院 電話九二一三番　高橋學

聖德街四丁目 齒科醫師　的場梁造　電話九一一〇番

齒科醫師　中山寅藏　大連市聖德街三丁目二〇番 電話九九六五番

聖德街三丁目八八　肥後屋　電話九三三〇番

純スッポン粉末製造元 精血之玉 生スッポン油　富士屋　聖德街三丁目一七〇

沙河口大正通 醫師　中田靜雄　電話九〇〇八番

沙河口仲町 醫師　竹澤忠郎　電話九〇五四番

沙河口大正通 醫師　比企哲夫　電話九五五九番

沙河口大正通 御茶　岩戸屋　電話九五〇一番

沙河口京町九七 セメント 建築材料　柳原洋行　電話九〇二八番

滿洲棉花會社　矢中快輔　電話九四八七番

沙河口大正通五〇　石田寫眞館　電話九三〇四番

大連沙河口仲町二八　バリーカフエー　赤津かの　電話九四八三番

處方調劑 有名賣藥 一般藥品 醫療器械 滋養材料 化粧品類　天祐堂藥局　大連沙河口大正通 市場前 電話九八五七番

沙河口京町十一番地 卸小賣　丸九屋履物店　迫正成

沙河口元町五二 銘酒 一萬代 一百花 卸小賣　小島酒店　小島正太郎　電話九八九二番

沙河口京町二　長崎屋菓子店　電話九五六一番

沙河口元町 藥種商　大久保人命堂　電話九五二九番

沙河口仲町二九 進物商　青山園　電話九〇一二番

沙河口仲町三三　黒田洋服店　電話九二二一番

沙河口市場 メガネ 印章　瀧田甲州堂　電話九八三八番

沙河口市場外部十九　鶴家食堂　電話九六六〇番

沙河口大正通二九市場南門前　富田屋食料品店　電話九八六三番

沙河口仲町九　㊀小園運送店　電話九五五五番

自轉車、人力車、附屬品商　田村商會支店　沙河口大正通六二 電話九三九七番

菓子製造 肥前米 內地水飴 卸商　つぼみ屋　沙河口大正通 店主 服部德松 電話九五二四番

古銅 陶器 骨董品 古物 諸機械 屑物 丸加商會　加藤行康　大連市沙河口大正通三 電話九四九七番

沙河口京町三十一番地 味噌醬油釀造　古賀商店　電話九三五番 振替大連二八番 販賣部 大連市信濃町市場前 電話四四八番

鳥羽洋行代理店　稻垣商店　沙河口大正通り八九 電話九七一一番

大正通八一　兒島組疊店　電話九〇二九番

沙河口沙河口仲町　水田洋行紙店　江里口製袋一　電話九五四四番

聖德街五丁目三三 調律師　細井三二　電話九七五三番

大正通四二　渡邊洋服店　電話九二四七番

沙河口市場　やなぎ呉服店　電話九四七七番

沙河口市場　トモエ呉服店　電話九六一番

サッポロビール キリンビール 白鶴・白正宗特約店 菊・富士泉 食料雜貨　いづみ屋　沙河口仲町三五 電話九六九一番

沙河口劇場　深見稻吉　電話九〇六八番

文具並雜誌　泰山洋行　矢野眞人　沙河口大正通一六七 電話九七〇三番

酒類 醬油 味噌 卸小賣商　宇佐屋　沙河口仲町三九番地 電話九八九四番

現金屋洋品店　塚原寅男　電話九〇三番

海陸運送通關代辦業　鈴吉組　吉利清治　沙河口元町二〇 電話九五三九番

沙河口公設市場 滿鐵消費組合御用達 蒲鉾 佃煮 製造卸小賣　米納龜太郎　自宅 電話九五三七番 市場 電話九九六〇番

文房具、化粧品、和洋酒、醬油、白米、木炭、食料品一式　門根商店　門根牛之丞　沙河口黄金町八七番地 電話九四四二番

沙河口黄金町一〇六　太田介辨事務所　辯護士 太田満　電話九六五七番

沙河口日本料理店　石田樓　博多屋　笠乃家　金紫樓　南洲　滿沙　有明　菊乃家

沙河口元町四四 御料理　蔦家　電話九三二〇番

黄金町九六　沙河口金融組合　電話九七二〇番

沙河口西町 料理店　菊乃家　電話九六六九番　清次　小染　菊葉　菊太郎　〇丸

沙河口西町 料理店　博多屋　電話九五一七番　瓢簞　とんぼ　ひでゆふ　小滿

沙河口京町 御料理　眞砂　電話九〇二五番　一平　千太郎　太郎　治郎　春千代　君千代

沙河口仲町　東庵本店　電話九〇四七番

食道樂　大眞壽　電話九八三三番

滿洲日報西部販賣店　木下新聞店　電話九五三〇番　榮太郎新聞店　電話九五〇七番　前田新聞店　電話九二四九番　岡榮新聞店　電話九五三二番

逢坂町遊廓組合

滿洲日報
附錄の一

軍縮の目的達成と新中國建設を欣ぶ

外務大臣　幣原喜重郎

茲に昭和六年の新春を迎へて既往一ケ年を回顧しまするに我國際關係が極めて滿足なる發展を遂げ我國と友邦諸國との國交益々親善を加へたことは私の甚だ欣快とする所であります、殊に昨年中において世界軍縮の大事業は著しく促進せられたのでありまして昭和五年こそは世界の平和と人類の福祉を念とする人々にとり永く記憶さるべき年となつたのであります。

御承知の如く昨年劈頭日英米佛伊の五大海軍國代表は英國政府の招請によりロンドンに會合し海軍々備制限問題就中昭和二年夏壽府會議において不成功に了つた補助艦制限問題を討議致しましたが、今回は各國間の互讓と公正なる輿論の支持とに依り少くも日英米三國の間においては完全なる協定が成立し、華府會議以來の軍縮事業も茲に一段落を告げたのであります、斯くして今やこれ等三國間においては如何なる艦種についても建艦競爭を繰返すの虞を無からしめたのでありまして、之が爲各國共に財政上の負擔を輕減することを得たるのみならず、國際間に相互の信頼を增し友好的提攜を進むる效果の偉大なるものあることは疑ひを容れませぬ。

次で十一月六日より壽府に開かれた國際聯盟軍備縮小準備委員會において參加三十餘國の代表者は大正十五年五月以來六回に亘る同委員會の事業を纏めて陸海空軍制限方式に關する具體案を完成したのであります、勿論之は近き將來に開かるべき本會議を待ち軍備縮小の實績を擧ぐべきものでありますが今日迄委員會の努力を一貫せる精神は今後軍縮事業の進路に向つて光明を與ふるものと信じます。

極東全局の平和維持を顧慮して措かざる我國にとりまして隣邦中華民國の事態は極めて密接なる利害關係を有するのであります中國民の正當なる要望に對して深き同情と理解とを有する我政府及國民は多年統一と秩序ある中國の出現を期待して居るのでありますが、一方昨年中における中國の政情は時に內亂又は匪徒の行動により地方的不安に襲はれたにも拘らず大局より見て安定並に統一に一歩を進めたのは我々の喜びとする所であります、平和と繁榮を樂しむ新中國の建設は單に中國民の福祉たるのみならず、東亞に位する隣邦諸國更には又全世界の平和と繁榮とに貢獻するものであります

更に經濟の方面を見まするに今日は殆ど全世界を通じて經濟的不況に苦みつゝある時でありまして我國も亦その例に洩れず今や官民一致の努力を要すること切なるものがあります、申す迄も無く輸出入貿易の消長は我國民の經濟生活に至大の關係を有するものでありまして世界各地における經濟界の變動は必ず我國にもその影響を及ぼすのであります、今日我國は全世界に原料品を需めると共に製造品の販路をも全世界に需めつゝあるのでありまして我國民經濟生活の安定を期せんが爲には各國との間に圓滿なる提攜を必要とするのであります、私はこの昭和六年に於て世界現下の經濟的不況が打解せられ各國民が共存共榮の大理想に向つて邁進せんことを切望致すのであります。

今年は財界の立直しを完成する大切な

大藏大臣　井上準之助

昭和の第六年を迎ふるに當つて一言所感を述べることは私の欣幸とする所である、昭和五年は世界の經濟界に大いなる變動のあつた年であるが、日本の經濟界にとつては誠に意義のある年であつた、何時までも永續すると稱せられてゐた米國經濟界の繁榮も一昨年七八月頃より段々下り坂となり、十月には遂に米國の證券界において價格の大暴落が起り、その後一年間は世界何れの國も深刻な不景氣に苦んだのである

わが日本は世界各國に比べて經濟界の整理が遲れてをり、漸く昨年一月十一日に至つて金解禁を決行し得た程であつて、恰も財界立直しの進行中に世界不景氣の影響を受けたのであるから、その苦痛も一層甚だしかつたのである、昨年四五月頃には國際的に重要なる商品の價格は暴落し、世界的に人心は不安となり、我國にも海外から種々の惡材料が頻々と傳はつて來て財界を脅かしたのである、加ふるに九月頃にはロンドン海軍條約批准の問題に搦み一時政局は不安となりこれが爲に財界は益々危懼の念に襲はれたのである然るに十月頃からは幸ひにして海外の經濟の狀況も稍落つき我國政局の不安も一掃された上に是迄各方面において講ぜられた諸般の對策の效果も漸次に現はれて來てわが經濟界も稍落ついて來たのであるが、又一時金融難を蒙つた事業もその解決が着いて、年末の金融界も

平靜裡に越年するを得たことは眞に幸ひである、昨年の外國貿易の狀況は輸出入共に金額に於ては著るしく減少したのであるが、數量を見ればその減少の程度は左のみ大でないから日本の經濟界の整理が進み各方面における產業の改善も出來物價低落に適應して生產費も低下し、採算の基礎が立つに至れば貿易は健全に發展し得ることゝ考へられる、又輸入超過額も一昨年に比して大差なく世界不況に當れる金解禁の第一年として相當の成績であつたと考へる然らば今後日本は如何なる方向に進むべきであるか、本年は財界の立直しを完成すべき最も大切なる年である、最近經濟界は急激に變化したのであるからこれに適應して政府は行政財政及稅制の根本的整理を行ふ決心である、政府はこれまで不景氣に伴ふ歲入の減少に對して行政の經濟化を計り歲出を節減して收支の均衡を保たせたのであるが、急激に國貿が減少したのに對應させ更に進んで行政の刷新を計る爲には行政財政の根本的整理を行はねばならぬ、又經濟界の

變化に應じて稅制を整理し負擔を一層公平ならしめる必要があるから、今後稅制について十分の調査を行ふ考へである。他方民間に於ては紡績業の如く不景氣に對應して十分に事業の整理を行ひ今日既に收益の基礎が立つたものもある、然しながら今後大いに內部の整理を行ひ、又事業の統制を計つてその基礎を鞏固にする必要のあるものもある、これ等のものに就ては更に一層努力をして產業の合理化を完成しなければならぬ、獨り經濟界のことに限らず一般國民の生活についても新しい工夫を廻らしてその合理化を計り、國民全體が快よい生活の出來る樣にすることが凡ての者の務めであると考へる。

適切なる政策を行ひ國家の繁榮に努めん

我國文化の淵源は總て皇室に

內閣總理大臣　濱口雄幸

私は測らずも東京帝大附屬病院の一室で昭和六年の新春を迎へました、先づ病床から皇居を拜しまして**我皇室の御繁榮を祝ぎ奉る**次第であります、申すまでもなく我國體の根本義は我國家が神代の昔から萬世一系の皇室を中心として發展し來つた點に存するのであります、故に**我國民の精神的及び物質的文化發達の淵源は總て我皇室にある事**は論を待たぬのであります、從つて我々は一層建國の精神を明らかにして忠君愛國の美風を涵養し外來の過激思想や不純穩健の風潮を一掃する事に努力しなければならぬ事と信じます

顧みれば昨年十一月十四日東京驛頭の遭難以來今日に至りますまで殆んど一ケ月半の間におきまして多數の國民より非常の御同情を寄せられました事は誠に感激に堪えない處であります、茲に御同情に對し衷心より謝意を表する次第であります、幸ひに私の負傷もその後の經過極めて良好でありまして遠からず健康を回復し君國のため一層盡瘁する事を得る事と信ずるのであります、私が一昨年七月大命を拜しまして以來今日に至るまで一ケ年有半になりますが當初聲明致しました政綱は着々これを實施し來りその成果を收めんとしつゝあるのでありまして、殊に昨年英米佛伊と共に倫敦海軍々縮條約を締結し外は世界平和の確定に貢獻し內は國民負擔の輕減に資する處あつた事と信ずるのでありますが**本年はなほこの條約の精神を十分に發揮**せしめ益々國際の親善を圖り一層人類の福祉增進に寄與致したいと信じます

なほ私共は昨年一月に金輸出解禁を斷行し緊縮節約の方針を持續すると共に一方では國產愛用の獎勵、產業の合理化その他貿易發展の方法を講じわが行き詰つた財界の立直しを行はんと致し相當の效果を擧げつゝあると信ずるのでありますが世界的不況の影響を蒙り我國財界も相當深刻なる不況の域を脫去する能はざる狀態であります、然し何時の時代でも好景氣が永續するものにあらざる事は御承知の通りでありまして政府は**今後時世に適應する政策を行ふ**は勿論でありますが我國民においても亦この際恐れず一定の方針の下に堅忍不拔の精神を以て官民心を一にしてこの難局打開に當るべきものであると信ずるのであります、茲に新年を迎ふると共に所懷を述べまして御挨拶とする次第であります

『海邊の羊』（懸賞寫眞甲賞入選）　大連　大塚三佐太氏

滿洲の對外貿易著しく增進

わが同胞の覺醒を要望す

朝鮮銀行總裁　加藤敬三郎

滿洲の財界は依然として不況裡に終始しつゝあるが昨年の如きも年初以來銀價未曾有の暴落に加へ世界的不況の餘波を蒙り新事業の興る餘裕もなく各市場は概して不振の狀態を續けた、去り乍ら滿洲においては支那本部が近年

戰禍匪禍相踵ぎ殊に最近にて所謂反蔣運動に基く南北の大動亂を再燃し山西軍と中央軍との對戰を惹起したゝめ所在の人心を極度の不安に陷いれ一般經濟界に鮮からざる打擊を與へたるが如き事もなく幸ひに本土の圈外にあつて所謂內外人安住の地域である爲住民は年々その數を增加し現に二千數百萬人を包擁するに至り農產物の收穫高の如き最近の兩三年間に約六七十萬噸づゝの增殖を告げつゝある狀態である。從つて滿洲における對外貿易は次第に增進しこれを南滿三港の貿易統計に徵すれば大正十四年の出入總額三億萬兩より昭和四年には約五億萬兩に累增し過去五年間に六割以上の增加を示してゐる。されどこの對外貿易に朝鮮を含めた對日貿易總額の國別的の觀察を試みるに過去五年間に三割五分の

增率を現はすに過ぎないがこの間米國は五割八分の增加を來し英國は二十割オランダは四十六割夫々激增を告げつゝある結果我國の對滿貿易上の地位は五年前にはその總額の七割二分を占めてゐたのが爾來年々遞減して昭和四年は遂にその六割を保有するに過ぎぬこととなつた、斯の如きは從來我國の滿洲に注げる莫大な資本と各種の經濟的施設とが未だ十分なる效果を現はさゞる反面に於て近年外交筋の進出により我が勢圈を侵されつゝあるものと觀ねばならぬ。由來我國は滿洲に對して最も密接の關係を保持し來れるのみならず滿洲における平和と共榮とは畢竟我國に負ふ所といふも敢て過言ではない。然るに在滿の邦人は近來何等發展の狀なくして却て萎縮に傾き我國と滿洲との取引も他に比して寧ろ減退步調を示しつゝあるが如きは洵に遺憾の至りである、併しながらこれも滿洲における政局が前年の大變動を來して以來邦人の經濟發展上に重大の關係を有する日支間の交涉案件が兎角停頓勝ちなるにも因るべく一方在滿邦人が諸般の經營上尙努力の足らざるにも因るべく又我國の朝野が

滿洲經營に對して尙理解の不十分なる事にも基因するのではあるまいか、何れにしても滿洲は既に世界列國が公認しつゝある我國の特殊地域であるのみならず從來之に扶植せるわが經濟的の施設により益々開發せらるべき運命にあるのであるから此際兩國も彼我の共存同榮を目標とし日滿の相倚輔する關係を徹底せしめ朝野を擧げて之に善處しその圓滿なる發達を期することが刻下の緊急事であらうと思ふ。

全國民的覺醒痛感

總領事　林久治郎

昭和五年を送り茲に新春を迎ふるに當つて過去一ケ年間の跡を顧みるに感慨に堪へざるものが多い、宇宙の無限にして人生の永遠なるに比すれば一年の歲月は瞬間の短きにも及ばぬであらうが世人の所謂五十年の生涯より見れば一年の歲月は眞に重大な意義を有するものと言はねばならない

新年なるものも或意味に於ては永遠の人生に對し單に人爲的作爲によつて作られた時間的一區劃に過ぎないかも知れないが如上の意味に於て吾人に對し貴重なる教訓を與へる次第で新年の劈頭に立つて既往一年の事蹟に顧み今後における人間生活の內容充實に資せんとするは限りある生を享くる吾々にとつて敢て意義なしとは言へないであらう、翻つて故國の現狀を顧みる時に幾多心痛に堪へざる事象が多い、金解禁の善後措置未だ充分ならざるに米國財界の不況、銀貨の暴落等世界的經濟變化に禍ひされ今や國を擧げて深刻なる不景氣に惱み操業短縮、工場の閉鎖、事業の淘汰等續出の狀態にある教育界を見れば我國特有の學生騷動は燎原の火の如く蔓延し良[illegible]世の指彈とも稱せられた女子大學迄も渦中に捲き込まれ更に[illegible]活動の減退とも稱せらるる上[illegible]の同文書院に迄飛火するに至つた、教育界の紛糾は右に止まらず年々歲々新しく意志と新しく力とを具備するに拘らず職くに處無き新卒業生を遠慮會釋も無く社會に押出して居る軍備の整備、產業の建直し等政治的革新整理、行財政の徹底的の唱道せらるると茲に久しきに及ぶか現實に奈程の實績を擧げたるやは余の言を俟つ迄もなく識者の均しく知る處であらう、この間にあつて最近の新聞紙は思想界における幾多の憂ふべき不祥事を傳へて國民の耳朶に警鐘を亂打してゐる他方視よ海外に轉ずれば幸ひにも各國々民の負擔の輕減及戰爭の危險排除の目的を以て締結せられた海軍軍縮條約は全國民謳歌の中に成立したが未だ佛、伊兩國の參加を見ざるのみならず最近歐洲の諸通信は歐洲において再び世界大戰前におけるが如く勢力對立の徵候ある旨を報じて居る、平和會議以來幾多の機會に數多の政治家に依つて通商の自由が提唱せられてゐるにも拘らず、各國ともに關稅の障壁を築き自國產業の防禦に汲々日足らざる模樣が窺はれる、要するに世界の現狀は武力爭鬪の時代を過ぎて國際經濟戰の時代に轉換せることは牢乎として動かすべからざる事實である、加ふるに我國と政治、經濟的に最も密接なる關係に立てる中華民國は最近漸く內亂の波瀾を乘り切つたとはいへ波瀾重疊たる同國の歷史に鑑み前途尙多事と思はれるから我國としては昭和六年は外交界又多事なりといふべきである

之を要するに我國の現狀は眞に憂慮に堪へざるものあり內外の情勢明治維新當時に髣髴たりといふも敢て過言ではなからう、事茲に至つたに就いては國土の狹少、富源の缺乏等の如き我國の環境を初め法律萬能に偏した制度の罪、歷代政治家の失政等の外前述した通り世界經濟界の不況銀貨の暴落等數へ來れば幾多の遠因近因を見出し得るであらう、余は敢て過去五十年間に我國現在の地位を築き上げた國民の能力並に國民性に悲觀的意見を持するものではないが究局する所我國の現狀は國民の政治的、經濟的、思想的無自覺の結果に歸すべく今日新春を迎ふるに當り余は九千萬國民の一員として相共に過去を反省し全國民の覺醒を以て相共に來るべき年に[illegible]たいと衷心より痛感してゐるのである

新年之感想

大連華商公議會會長　張本政

山意衝寒、梅香餞歲、葭灰應律、臘鼓催年、值此冬至日長、五紋添線、一陽來復之後、便又萬象更新矣、在昔中國古俗、歲晚務閒、將洋奐優遊、消寒宴樂、今則世日新、自強不息、愈是緊盛之[illegible]、而時近歲暮、愈加忙碌、不特中[illegible]各地爲然、近而東瀛各商港、遠[illegible]歐美各都市、上自朝野縉紳、以[illegible]商工各業、孰不於此年矢催[illegible]汲々顧影、孜孜進行、古人所謂[illegible]寸金者、於茲社會羣衆、公[illegible]狀、形容可云盡致、因憶[illegible]居士有云、歲云暮矣、風雪淒[illegible]紙窗竹屋、燈火熒然、時於此間得少佳趣、蘇東坡先生、學問[illegible]深於修養、故能於衆人競爭馳[illegible]熙來攘往、不遑暇食之時、冷眼[illegible]觀、蕭然自樂、足見其淡泊明[illegible]胸襟氷雪、若無古人之學養、[illegible]旅退、日從事於軟紅十丈之[illegible]中、獨物興懷、因時致慨、撫[illegible]之如流、又韶光其將轉、攬鏡[illegible]白髮徒增、往復低徊、感不絕[illegible]心矣。

輕塵弱草、舊夢如潮、公私交[illegible]百端感集、究將從何說起乎、[illegible]鄙人現居華商公議會會長地位、[illegible]界中關係最密切者、厥惟經濟[illegible]榮枯滑濇問題、慨自上年以來、[illegible]價暴漲、銀價跌落、此雖由於[illegible]市場之貨幣價格消長、非關一[illegible]能操縱、然我大連市之華商、[illegible]以銀本位爲資本、所受影響創[illegible]鉅、於無可奈何之中、勉存一[illegible]希望、根據商民嘆願、轉請滿[illegible]局、火車運輸減費、連市石炭[illegible]乃當局統盤籌核之餘、實亦具[illegible]得已之苦衷、竟未能如願施行、[illegible]人亦深諒此中爲難之情形、當[illegible]民委宛說詞、善爲慰藉、然鐵[illegible]賃、應加核減、並非僅爲金價[illegible]作現時之補救、實爲大連市全[illegible]繁榮與離索之前途上、預爲未[illegible]綢繆

英明之當道、早已籌察及之矣、[illegible]想所及、率筆敷陳、乘茲新歲[illegible]願祝讀者健康。

新春を迎へて

朝鮮總督　子爵　齋藤實

茲に幸多き昭和六年の新春を迎へ身健かにして聖代の昌平を謳歌することの出來るのは最も喜ばしい次第である、畏くも皇室に於かせられては御安泰に渡らせられ寶祚の無窮と共に滿腔の忠誠を恭しく拜賀し奉る處である

列國各國との交際は年を逐ふて敦厚親密の度を加へ殊に客歲ロンドンに於て締結せる海軍條約に依り世界平和の保障益々加はり又接壤の中華民國の政情漸く安定を見、彼我の親善舊に倍する狀態に在る等洵に慶祝に堪へざる次第である

經濟界は近年引續いての不況に加へ客歲における貿易不振、米價暴落等に依り異常の打擊を受け國民として空前の試鍊に遭ふたのであるが堅忍自重の結果克く極度の緊縮に耐え來り今や漸く財界好轉の兆が見え金融亦圓滑を豫想せらるゝに至つたから此處暫くの辛抱で大に伸ぶるの時を迎へ得ることであらうと思はれる

朝鮮としては疆內概ね平穩で治安の點において殆ど顧念すべきほどの事もなく唯思想方面のみは外來思潮の影響で聊か留意を要する傾向が無いでもないが是亦善導取締に付それぞれ之が對應施措を講じつゝあるのである、財政は中央政府の緊縮方針に適應して極力整理を行つてはゐるが、しかし統治上當局の急務とする施設に至つては一般緊縮の折柄ではあるけれどもそれぞれ時運に善處して財政を按排いたし農村振興、失業救濟等凡そ緊急樹立を要する諸計畫は之が樹立實行を怠らず以て統治の大局を誤らざらんことを期しつゝある

尙朝鮮における地方制度の改善は余が前年度就任當時よりの懸案であり先年民度に相應する改正を行つたが爾後民度の進展著しいものがあるので昨冬重ねて改正を加へ地方自治を擴充し理想の實現に一歩を進め之が實施の期も今春四月に迫つてゐるが[illegible]に之によつて民心の倦怠を破り地方行政上新生面を啓くことが出來るであらう一般官民克く今次本制度改正の精神を酌み和衷協同公共事業に盡瘁し以て朝鮮の繁榮と二千萬民衆の康寧との[illegible]に貢獻せられんことを切望して已まない、この鮮滿天地を睨むる要衝に立ち渤海三要港に鑑みて聖論の無疆を祈り奉る。

賀正

大連 水曜會

橫濱正金銀行大連支店
朝鮮銀行大連支店
東洋拓殖株式會社大連支店
大連取引所信託株式會社
株式會社正隆銀行
株式會社大連株式商品取引所
株式會社滿洲銀行
大連取引所錢鈔信託株式會社
株式會社大連商業銀行
中國銀行大連支店
交通銀行大連支店
金城銀行大連支店

懸賞童話（甲賞） 小石と菫

吉田晴美

寒い滿洲の冬も過ぎてポカ/\と暖かい春が訪れて來ました。若草山にも春の太陽が麗しい微笑を投げかけて居ます、そころどころに殘つて居た雪はとけて流れ出しました、そして、その下にはもう青黄色の草の芽が可愛らしい手をあげて喜んで居ました。

此の若草山の中腹に一つポツチリさ小さな石がありました。此の小石は何處から來たのか知りませんでした。でも矢張り暖かい春が來たのが嬉しくてたまりませんでした……

お日さん山から
にこ/\あがりや
春の神さま
羊に乘つて
青いもすそを
おひきになつて
そろり/\さ
來られます

「おやツ誰？今のは？」

「姿よ、すぐそばに居るのよ」

「エツ！」

小石はびつくりしてうつむいて見るさ、自分のからだの下から小さな可愛らしいつぼみの菫が首をもたげて居ます

「君何時こんな所に來たの？」

「貴方のからだの下からよ、暖かい春が來たので私は生れたのよ、でも貴方がのつかつて居るので重たくてきついのよ」

「御覧なさい、僕が動けたらすぐに、のいてあげるのだけれど」

「でもいゝわ、わたしが大きくなつたら何さもなくなるでせうよ、私にはお父さんもお母さんも無いの、だからお友達になつてね」

「あゝ僕も淋しいのだよ、おたがひに仲好くしやうよ」

そして二人は仲の好い友達になつてうらゝかな春の陽を浴びて樂しい日を送りました。

小石は菫を妹の樣に可愛がりましたでも自分の爲めに菫がきつい思ひをして居るのが可哀そうでなりませんでした、でもどうする事も出來ませんでした。

或日少し大きくなつた菫は小石にもたれて話して居るさ、すぐ耳元で誰かの話聲がします

「おや！菫が咲いてるよ！」

小石さ菫は吃驚して見上げるさ可愛らしい坊ちやんさ、やさしさうなお母さんがそこに佇んで居りました。

「あゝ可哀さうに石がのつかつて居るれ、のけてあげよう」

小石は其のさき遠くへやられはしないかさ心配しました。しかし幸ひに女の人はすこし動かしたゞけでした。

「海が見えるよ、船が澤山！」

「ほら港の内に大きな船が居るでせう、あれに乘つてお父さんの所へ行くのです」

「嬉しいな、お父さんは偉いの」

「エゝそして、やさしいのよ」

こんな事を話しながら二人は山を下りて行きました。

「あゝわたしも嬉しいわ！もつさ自由に大きくなるのよ」

菫は生々さして叫びました

小石は以前の樣に菫さ一所に居られなくなつたのを悲しく思ひましたが菫の生長の爲めに喜んでやりました。

其の夜まんまるいお月さまが海から昇りかけた頃、北の方からむく/\さ黒雲が湧いて來て、見る/\内に月を隱し空をおほつてしまひました。

菫はこんな事は初めてなので闇の中でおろ/\して居ました。

「恐いわ、どうなるの？」

「嵐になるらしいよ、しつかりして居なければ危いよ！」

そのうちに風が吹き出し、雨が降り、さう/\恐ろしい嵐になつてしまひました。

物凄い嵐は一夜中續きました、其の間小石は闇の中から切れ/\に菫の悲鳴を聞きましたがからだの動けない小石はどうすることも出來ませんでした。

翌朝嵐は止んで空は青々さ澄渡つて居ました。

まあ何さいふ可哀さうな事でせう菫の美しい花瓣はばら/\に散つてむざんにも死んで居ました。

小石は長い間悲しみ泣いて居ました、そしてお日樣に聞きました

「誰がこんなにしたのでせう、誰が惡いのです、昨日の坊ちやんですか、昨夜の恐ろしい嵐ですか、それさも僕でせうか？」

「いゝや誰が惡いのでも無い、こんなになるのが運命だつたのだ」

さう言つてお日さまは何時もの樣に微笑まれました。

小石には其の意味が解りませんでした、そして獨りさびしく若草山の中腹で、ボーツさ汽笛を鳴らしながら日本の方を指して進んで行く大きな汽船を濡れた眼でいつまでも見つめて居ました（おはり）

オハナシ ヒツジノオヤコ

イシモリ・ノブヲ

ヒツジカヒ ガ、アタラシイ シキワラ ヲ、タクサン イレテ クレタ ノデ、ヒツジ ノ オヘヤ ハ、ヌクヌク ト アタタマリマシタ。

七ヒキ ノ コヒツジ ハ、ソノナカ ニ、カサコソ ト モグツテ イツテ、セナカ ヲ マルクシテ、ネムラウ ト シマシタ。

オヤヒツジ ハ、オヘヤ ノ ナカ ヲ、アチコチ オソウジ シテ ヰマス。

一ピキ ノ コヒツジ ガ、コロツト、ネガヘリ ヲ シマシタ スルト トナリ ノ コヒツジ モ コロツト ネガヘリ ヲ シマシタ。トコロガ、ソノマタ トナリ ノ コヒツジ モ コロツト ネガヘリ ヲ シマシタ。

「アラ、マダ ミンナ ネムラナイ ノ」ト オヤヒツジ ガ イヒマシタ。

「ダツテ、ウレシクツテ」

コヒツジ タチ ハ、シキワラ ノ ナカ デ、カサコソト、ミジロギ ヲ シマシタ。

アシタ ハ オ正月 デス。コヒツジ ハ、ソレガ ウレシクテ ネツカレ ナイ ノデス。

「ダツテ、モウ オソイ カラ オヤスミ ヨ」

サウ イハレテ コヒツジタチ ハ、ダマツテ ヨコニ ナリマシタ。オヘヤ ヲ スツカリ オサウジ シテ シマツテ カラ オヤヒツジ モ、ヤスマウ ト オモヒマシタ。ケレドモ、ヤツパリ イツモノ ヤウニ スグ ネムレマセンデシタ。

ジブン ガ マダ コヒツジ デ アツタコロ ノ コトガ、フト オモヒダサレ テ キマシタ オ正月 ノ マヘノ バン ニ ハ、タダ ワケ モ ナク ソハ ソハ シテ ネツキ ガ ワルクテ タイヘン オカアサン ヲ コマラセタコトヲ オモヒダシマシタ。スルト、オカアサン ハ「イイコダカラ、モウ ネンネ スルンダ ヨ」ト、イツテ、ジブンタチ コドモ ノ セナカ ノ ケ ヲ キレイ ニ ナメテ クレマシタ「コレデ オ正月 ヲ オムカヘスル コトガ デキルワネ」ト、サヽヤキ マシタ。ジブン ハ オカアサン ニ セナ ノ ケ ヲ ナメラレ ナガラ ウレシクツテ ナリマセンデシタ。

「サア、オヤスミ ヨ」

オカアサン モ オツカレ ニ ナツテ ヨコ ニ ナリマシタ ケレドモ、ジブンタチ ハ ナン ド モ ネガヘリ ヲ シテ コソコソバナシ ヲ ツヅケマシタ

「ドウシタ ノ。ソンナ ニ オキテ キテハ、アスニ ナル ト ネムクテ コマルワヨ。ジヤ ネ、オカアサン ガ イイ コト キカシテ アゲヨウ」ト イツテ、オカアサン ハ ヒツジゴヤ ノ マド カラ、ソラ ヲ ユビサシマシタ。ソラ ニハ ホシ ガ イツパイデシタ。

「オホシサマ モ ネムイ ネムイ ツテ、マバタキ ヲ シテ ヰルデセウ。ドツチ ガ ハヤク ネムレル カ。サア キヤウサウ ヨ」

コレヲ キク ト、ジブンタチ コヒツジ ハ、キウ ニ、シヅカナ キモチ ニ ナツテ、メ ヲ ツムリ マシタ。ホシ ノ ユメ ヲ ミナガラ グツスリ ネムリマシタ。

×

ソレカラ モウ ナン年 モ タツテ、ジブン ハ オカアサン ニ ナツテ シマヒマシタ。ソシテ ネツカレ ナイデ カサコソ ト ネガヘリ ヲ シテヰル コドモ ヲ 七ヒキ モ カカヘテ ヰマス。

「サウ サウ、ワタシモ オカアサン ニ シテ モラツタ トホリ ノ コトヲ シテ ヤラウ」ト オモヒ ウキマシタ。

「ママアダ、ミンナ ネナイ ノ ネ。ジヤ 一ド オキテ オイデナ」

七ヒキ ノ コヒツジ ハ トクイ ニ ナツテ オキテ キマシタ。オヤヒツジ ハ 一ピキヅツ キレイ ニ ケ ヲ ナメテ ヤリマシタ。ソレカラ ヒツジゴヤ ノ マド カラ ソラ ヲ ユビサシマシタ。七ヒキ ノ コヒツジ ハ アタマ ヲ ソロヘテ ソラヲ ミアゲマシタ。クライソラ ニ ホシ ガ フツテ ヰマス。

「ホレ ゴラン ナサイ。オホシサマ モ ネムイ ネムイツテ マバタキ ナサツテ ヰマスワ。オマヘタチ ト ドチラ ガ ハヤク ネムル デセウ ネ。サア キヤウサウ ヨ」

コヒツジハ コノ ハナシ ヲ キクト オトナシク、シキワラ ノ ナカ ニ モグリ コンデ イツテ、ソレキリ ネムツテ シマヒマシタ。

オヤヒツジ ハ、フシギ ナ チカラ ヲ カンジマシタ。ソシテ ジブン ヲ ソダテテ クレタ オカアサン ガ ナツカシク タマリマセンデシタ。

ソラ ヲ ミアゲ マシタ。ガ ホシ ハ ボンヤリ クモツテ ミエマセン デシタ。

マモナク ジヨヤ ノ カネ ガ ナリ ダシマシタ。

羊の話 面白い羊のいろ/\

今年は羊の年ですから羊について少しばかりお話しをいたしませう一口に羊さ申しましても中々その種類が多く、一々數へ立てたなら何百種居るかわかりません、其の中で主だつた種類を擧げて見るさ

野生のものでは大きな角を持つたからだの美しいロッキー羊、コシルカ島に産するムーフロン、小アジア、ペルシヤなどに産する赤羊、南ペルシヤのラリスタンに産するラリスタン羊、バルバリー羊などで家畜用羊さして緬羊の中のメリノー種が最も多い、羊はこれを細かに分けるさ實に數へ盡せないほど其の種類が多いのですが、其の中で**私達**の生活に最も關係の深いのは緬羊さ山羊さです緬羊は皆さんも御存じの通り毛を取るために養ふ羊で私達が着てゐる洋服や外套や毛布などは殆どこの緬羊の毛で織つてあるのです、家畜さして羊を養ふやうになつたのは馬や牛などよりももつさ古く、現今では世界の到るさころに緬羊が飼はれて居ります、日本でも近年は緬羊の牧畜がだん/\盛んになり、羊毛がたくさんされるやうになりましたが、まだ/\足りないので毎年外國から輸入して居ります、さころで滿洲の緬羊牧畜はどうかさいふさ、中々盛んなもので

現在 滿蒙に居る緬羊だけでも二百萬頭ださ言はれて居ります、緬羊は毛を取る外、牛や豚などさ同じやうに其の肉を食べることも出來、又乳をしぼることも出來ます、皆さんは顎ひげのある山羊さいふ動物をご存じでせう、この山羊も前に申上げたやうに羊の一種で、緬羊さ同じやうに古くから人に飼はれてゐます、山羊は緬羊のやうに澤山毛を取ることは出來ませんが滋養があつて傳染病の心配のないよいお乳がされるのさ肉が食べられるのさで外國の農家などでは大てい他の家畜さ一緒に何匹かづつ養つてます（寫眞は角が四本あるヒーバルド羊さ緬羊）

懸賞童話 入選者發表

豫て募集中の新年童話は締切り期日までに百八十二點さいふ多數の作品が集りましたが編輯局に於て嚴選の結果左記の三篇が入選しました

小石さ菫（甲賞） 大連市加賀町二一 吉田晴美

輝かしい朝（乙賞） 大連市愛宕町六六 天野薫

繪日傘（丙賞） 大連大廣場小學校 まゆみ

選外佳作 海からの贈物（旅順田家屯福永剛）愉快なる太郎君さ犬のお話（大連市對馬町太郎丸）雲雀さ三郎（旅順市大津町財滿平二）荊棘の中に芽ぐむもの（長春羽衣町一丁目草川伸雄）太郎さんのお友達（大連市神明町海邊清）眼はぬ小鳥（宮崎わたる）蹴られた小犬（大連市入船辻義夫）サンタクローズさ春夫さん（草川伸雄）父を訪れて（沙河口西町もりまさみ）

謹賀新年 青島

青島日本紡績同業會
青島絲廠
同仁會青島醫院
大日本麥酒株式會社 青島工場
株式 青島取引所
青島水産組合
青島輸出牛取引株式會社
青島牛肉輸出同業組合
大連製氷株式會社 青島支店
青島宰畜股份有限公司
米星煙草株式會社 北野順吉
山東煙草株式會社
山東窯業株式會社
青島材木商組合
維新化學工藝社 兒島熊吉
中村洋行 中村順之助

青島居留民團行政委員 待島又一 細野庄平 吉田勇次 南眞治 安藤万吉 兒島熊吉 川口喜次 關口内膳 稻田恆治 太田健造
青島各學校長一同
（順次不同）
加賀山學
向山善次郎
濱周謙
伊藤小三郎
高橋光隆
田中元千代
大橋慶次郎
西田善一
山本仙
柴田一美
青島洋行出張所 遠藤要
佐藤信二

鹽田正長
石橋藤次郎
田中國隆
塚田王世
吉田辰秋
國分壯介
樋口三郎
吉澤干城
大杉昇平
南眞治
安藤重郎
飯田芳亮
富田要
廣瀨徹夫
八百寅藏
袴田岩雄
淡島小三郎
中谷藤治郎
青島輸出牛取引株式會社支配人 今田實

稻田恆治
井町小市
西山經清
中島喜三郎
野間總吉
花井時一
白男川善之助
大櫛善吉
白石保喜
内山勝美
森清吉
最上義重
別役元胤
中川勝夫
青柳寛
筑柴庄作
辻村定吉
今田重悌
勝山洋行 岡本久米次

田坂隆治
乾善輔
立場久治郎
木村組 木村鐵藏
堀濶處平
千葉由藏
廣瀨飯二郎
宏大汽車行 高江定吉
青島三業組合長 伊藤壽吉
青島日本婦人病院 理事長 小林仁太郎 理事 山田泰之 會計 宮本善六
青島通運組合
みやげもの一式 西南堂
石井公濟堂
川岸大藥房
喪中に付年始の禮を欠き申候 青島同仁會院長 栗本定治郎
滿洲日報青島支局 井原禰治
滿洲日報販賣店 森本寅吉

謹賀新年

開原

開原地方事務所 所長 川崎亥之吉 所員一同
利光正路
德滿藤助
千々和正彦
大津鎌武
大下寅吉
加藤三吉
川島定兵衛
龍田道德
前田信二
相良禮三
佐竹令信
三田泰三
關野芳造
穩健發達 開原輸入組合 組合員一同 開原大街 電話二六三番
開原取引所信託株式會社 電話一三五番 二五五番 三二三番

大隈勘治郎
永野善三郎
蘆澤吉雄
平岡雄吉
高等旅館 二葉旅館 電話三二八番
高等料理 二葉 電話二八番
御宴會は新裝成れる二葉へ
橫濱正金銀行開原支店 電話二五番
朝鮮銀行開原支店 電話一〇〇番
正隆銀行開原支店 電話一〇番
滿洲銀行開原支店 電話二六番
滿洲電氣株式會社 電話一二〇番
開原市場株式會社 電話三四番
上郡山倉岡合名會社 開原屠獸場 電話三〇一番
國際運輸株式會社 開原出張所 事務所 電話三〇九番
特產物貿易 委託賣買 開原公司 洪淳亨 電話三八三番
藥種貿易商 太田東亞商會 電話三一七番

遼陽

やまき呉服店 支店（奉天春日町 鞍山敷島町）
日支合辦 遼陽電燈公司
滿洲紡績株式會社
玉木德次郎
遼陽神社 平井利雄
輸入組合理事 西村龜千代
金融組合理事 久間次五郎
遼陽特產物貿易組合
各種製棉並棉花貿易 滿蒙棉花合資會社 電二七八番
土木請負 矢野薫 大連、撫順、遼陽
遼陽石炭販賣組合
藥種商 安達藥房
食料雜貨 石川洋行
食料雜貨 梶原洋行
食料雜貨 村井洋行
遼陽料理店組合一同
遼陽福康里
構內食堂 遼塔軒 電一六五番
油屋旅館 電一六四番
カフエー笹巻 電一八八番
遼塔ホテル 電六番

大石橋

(順位不同)

大石橋電燈株式會社
河内由藏
新井決
電燈會社專務 愛甲直剛
大石橋金融組合 電話一二九番 振替大連四九四九番
大津瀧藏
吉川修平
谷口良友
小林才治
井上竹四郎
西島常次郎
石文堂
伊藤謙次郎
御料理 日本館 藝妓、酌婦一同
御料理 福住 電一一番
仕出し 福住庵 電五一番
御料理 環之家 藝妓、酌婦一同
御料理 芙蓉樓 外一同
御料理 金泉館 外一同
牛乳搾取販賣 吉川牧場 電六三番
新聞雜誌取次代理業 細野芳枝

營口

營口水道電氣株式會社
營口興業株式會社
營口土地建物株式會社
株式會社 盛進商行 電話二〇
時計貴金屬店 近江洋行本店 電話二〇七
營口運送業組合
商業會議所會頭 加賀種二
營口地方事務所所長 關本庄松
營口警察署長 林源之助
營口醫院院長 前田利實
正金銀行營口支店長 伊原平之助
商業學校長 三田村源次
營口輸入組合理事 佐々木正章
三井物產營口所長 加藤武俤
地方委員議長 松本員男
東亞煙草會社營口製造所長 有福和一郎
大連汽船營口所長 上田二二雄
古川醫院 古川末吉 電話一二八
營口郵船組 加藤讓次 電話五〇六
商議書記長 日下清痴
滿鐵外事係 川島梅吉
東和公司 三島輝善

郵便局長 田瀨一太郎
金融組合理事 石田繪助
朝鮮銀行支店長 浦川秀信
正隆銀行支店長 市橋隆文
日本赤十字社主任 元田長
營口電話局長 大村貞平
地方委員 天泰公司 井上愼吾 電話七七七
營口石炭商組合
和洋雜貨 平本洋行 電二九番
銑鐵商 盛興號 電一二一三
營口乃美呉服店 電話四五
須崎呉服店 電三六
辻呉服店 電一〇四
雜貨陶磁器 熊谷商店 電一三〇
土木建築業 請負金物商 山住洋行 電三七
最新流行 丸美屋洋服店 電一一七五
和洋百貨店 重田屋商店 電一六
紀州本場蜜柑 卸小賣 朝日屋 田邊商店 電話一八〇

營口印刷株式會社 電話一〇七
齒科醫院 元田正則 電話七四〇
食料雜貨 羽村洋行 電話七番
藥種醫療器械 回天堂 電話四番
藥種商 實滿堂 電話一二六
食料雜貨 岩田商店 電五九三
滿鐵指定御旅館 清林館 山本瀬市 電三三
御旅館及飲食店 静の家 電一四五
御料理並仕出し 瓊の家 電七三
簡易食堂 城山勝次郎 電九〇七

營口料理屋組合
武藏野 電一五〇
松月 電一三
品川館 電二二九
大福樓 電一五九
濱の家 電一五三
芙蓉樓 電一五一
永樂 電七一七

雪の少い滿洲にもスキー熱が擡頭

雪の處女肌に殘す二本の痕跡と激情的なスピードの滑降感

スケートリンクの銀盤が漸く其の厚さを增して、滿洲の冬もいよ〳〵本格的になつて來た、從來のウインタースポーツと言へばスケーテイングに限られてゐた觀があつたが、最近スキー熱が擡頭し陳相屯、歪頭山（安奉線）撫順老虎臺の三スキー場が發見されるに及び運動具屋の店頭にはスキーが列される狀態となり滿鐵ではスキー列車を動かしてスキーフアンを喜ばせ樣と計畫を進めてゐるといふ

內地各地に於けるスキー熱はこゝ數年來猛烈な勢ひを以て奔騰し遂にウインタースポーツの王座を占むるに至つた、滿絶限りない處女雪の面に描き出される二本の痕跡の壯麗さと他に比べるものなき激情的なスピードの滑降感は一度試みてこそ快を知るとき生涯忘れ得ないものがある

土曜日の夜、東京の上野驛でスキーをかゝへて二等寢臺の赤切符を大事に握つて居る人達の大部分は分別盛りの中年輩の人々であるが中には奧さんや子供達の家族連れがある、これ等中年輩の人々の多くは過去に於て冬のされ恐れて居た人々であり、休みには何処かの溫泉にでも避寒しやうなどと考へて居た人々である、然るに一度スキーの味を知つた以上冬の到來は絶大なる喜びと變つた

ドイツあたりではスキーのことを「白い藝術」と云つて居る、滿洲のスキー界はスケーティングに壓倒されて全く影をひそめて居たが、四年前に我社主催で奉天醫大の奧田博士、林・滿洲體協主事等に依つて滿洲スキー選手權大會を姚千戶屯に開き滿洲のスキーは絶望でないことを明らかにしたが、今では撫順の老虎臺のスロープは日曜日など百人餘りの人々がワンサワンサとすべつて居るし大連邊からも出掛ける人々も少くない

「どうも準備が大變らしいから」とはスキーを勸めたときこはりに必ず聞く言葉だ、運動具屋のショウウインドウやカタログをのぞいて餘りに仰々しい支度に驚いた言葉に違ひない、だが雪國の子供達は父親の手製のスキーは簡單なものなのである、十二、三圓のスキー一臺と杖二本と四五十錢の色眼鏡一箇を買ひ求めればあとは今まで日常使つて居たもので充分間に合はせることが出來る、鳥打帽子などもかぶり古した鳥打帽で結構だしリボンのされた中折帽でもよい、洋服も防寒に耐へ得られる着古し、靴、サージなら轉んだとき雪がつかないから非常に結構、靴は兵隊靴の古手に油をひいて間に合ふ、靴下手袋なんかも常用の毛物でよい、ズボンのすそから入る雪を防ぐためにノルエーピンドなるものがあるがこれまた卷ゲートルで我慢が出來る

さてスキーの選擇だがレース用のスキーとさうでないスキーとがある、後者は大體幅が廣く鈍重な感じがするが前者はあくまでも輕快な先端の細い一見女性的な感じがする、レース用のスキーは重心が普通のスキーよりも遙かに前にあるからなか〳〵こなし難い初心者には前者のスキーが適當である

「すぐ滑れるだらうか、難しいものぢやなからうか」といふ懸念は無要だ、スキーを身體の一部とすることがスキーの初心者にとつて一番肝腎なことで日常はいて居る靴だと考へればそれでよい、杖にすがつて平地でスキーをはいて居ても面白いほどすべる

老虎臺なら土曜日の夜行で立つて日曜終日すべつて夜行で大連にかへつて來ることが出來る、白皚々たる處女雪の中疾風の如く下る——一秒二秒三秒五秒——ウインター、スポーツの王座たるスキーの快味を見出し得ることは至難なことではない

尙本年店頭に出てゐるスキー用具の値段を一通り調べて見やう

白平形スキー十二圓五十錢、白山形スケー十四圓五十錢、桑山形スキー十六圓五十錢、美津濃ヒッコリスキー、十六圓五十錢體育堂特製スキー九圓五十錢、スキー用杖一圓八十錢——二圓五十錢、スキーロー一個四十五錢スキーオイル一ピン四十五錢（大連體育堂調べ）

國旗の竿頭に輝く「金の玉」の意味

橋本八五郎

日の丸の旗の、あの白地に赤といふ素朴な色彩が、單純にして明快熱情もあり、集中力もこもつてゐる所を意味してゐるのは、いかにもく我が國家の、また國民の姿を象徴したものとして、國旗制定の進言者としての、安政元年の徳川齊昭に、深い感謝を以て、その功勞を認める。日章の國旗がその色彩に於て、その意味に於て（但しそれは各國それ〴〵の歷史のあることだが）またその標識としての作用に於て、如何に拔群であるかは既に言ひ古された。私はこゝに、あの日章旗の竿頭に輝くところの金色の玉を問題にして見ようと思ふ。或は蛇足の家のそしりは免れまいが。

◇

數年前から、私はこの玉を眺めてゐる。大抵の家では、金箔が剝げて、黑ずんでゐる。家によつては、玉の代りに赤い布きれをまるめて、くゝりつけてある。甚だしいのになると、何も無いのがある。玉は取扱ひにくい、しまつて置きにくいために汚れたり剝げたりするのであらうと思ふ。私は玉について調べて見ようと思つて、手近な書物を開いて見たが、旗に對する規定はあるが、玉に對する規定はどこにも出てない。

◇

明治三年正月、太政官布告第五十七號は、今日の國旗を制定してゐる。併しそれは國旗の旗だけで、玉に及ばず、明治五年三月、開港場と縣廳とへ國旗を可揭事を布達してゐるけれども、やはり旗の寸法だけであり、明治六年一月一日太陽曆を始めて施行するにあたり東京市民に對し每戶國旗の雛形を揭げることを許したのが、全國に海の外までも凡そ日本人の居るところ、日章旗の存在することになつた起原であるけれども、玉はどうあつたか分らぬ。そんなものを特別に調べても居らぬから、よくは知らぬが、蓋し、之は布達や法令によつて出來たものでなく、恐らく民衆自身の創作であつたであらう。

◇

いつ、どこで、誰が始めたか、そのせんさくは暫く無用。あの玉は、また日章旗を制定したと同樣、政府の命令でなく、國民の發意から造り出したといふことに、秘かな感謝と讚嘆とを禁ずることが出來ない。世界のどこの國に、その國旗を裝飾るにあの玉の如く、よくその旗と調和し、益々その美を發揮してゐるのが有るだらうか

◇

規定の上からは、玉の有無は問ふ所でない。有つて違式かといへばさうでもない。大正元年七月三十日に、球を掩ふことを閣令は命じてゐる。玉を認めてゐるやうである。併し、官公署の洋風の旗竿を設備してゐる所では、玉を附けないだらうから、その點からいへば、無い方が正式といふ事になる

◇

國民自身で創作して、政府も取つてしまへと云へぬ所に、國民の意氣の面白い點が見られる。抑々國民は何の爲めに、あの玉を附けたか。太陽崇拜の誌が、日章だけで滿たされないで、更にそれを具化さうとしたのか。それを金色にしたのを見ると、神武天皇の金鵄を思つたか、乃至は天照大神の岩戶隱れの時の、天香山の五百津眞賢木の上枝に取り着けた、やさかにの、五百津のみすまるの玉を戀ふてか。尙その外の上代人の心の名殘が、後を留めてゐるのであらう。

＝白雪を蹴つて走る〳〵＝

街上隨筆

中溝新一

街上で見たり、聞いたり、感じたりしたことが、スクリーンに映る映像のやうに、其の時々の淡い印象を殘してあとからあとからと消えてゆく、あまりにもありふれたことばかりだからであ、だが、ありふれた事のなかにも教訓や反省資料が決して少くはない、私はさうしたありふれたことを、思ひつきのまゝに書きならべて見やうと思ふ。

＝子供のお辭儀＝

ごく近所のＩといふ家には子供がたくさんゐる。上の姉さんが女學校に行つてゐるは小學校通ひの坊ちやん揃ひである。未だ小學校にすら行かない坊ちやんまで、知つてゐる人に逢ふと、立止まつた上帽子をぬいで叮嚀にお辭儀をされるのに始めは一寸まごつかされた。自分のお辭儀はそんなに叮嚀でない、からである。冬の寒い時など帽子もぬかずに挨拶を交すこともある。特に親しい友達などには右手をあげて挨拶しながら「やあ」なんて略式を用ひる。しかしどの場合にもこのＩさんの子供さんに逢つた時は決して略式を宥されない。おんなじやうに叮嚀にお辭儀を返すやうになつた——と同時にこれがほんとうだとはつきり敎へられる。不言實行の感化の偉大さを感ずる。

＝チヤンバラ＝

大連行の定期船に門司から乘つたお母さんに連れられたかあいらしい、五歲ばかりの坊ちやんが居る。蓄音機が好きで船中の徒然を殆どこれで慰して　ゐるといふ位、おかげで賑やかだからうちの子供達もよろこんで遊　だが、この活潑な坊ちやんは劍戟のレコードが一番大の好物、それがかゝると邊に幕末の志士に早變りして音樂に合せて「やあ、やあ」と刀をふる眞似をしたり、でんぐりかへりをしたり、正眼にしていざ來い來れと身構へする。お母さ　に聞くさお父さんが大好きで一週に一回は必ず劍戟映畫を見て行き、チヤンバラ氣分に浸るとのこと「この子は活動が好きな癖にすぐ眠つてしまふんです」と、すぐ眠つても知らぬ間に映畫に感化されてゐることにはお氣づきがないのであらうか。

＝電車　識＝

電車の中で席をゆづらぬ女學生のことが出てゐたが、中年以上の婦人は席をさることが特權の如く考へてゐる者も大分に見受る。折角くたびれきつた腰をあげて讓つても「ありがたう」ともいはずに澄々とすまし込んでゐるものも多い。老人が居やうが、荷物をたくさん持つてゐやうが、乳呑兒を抱へてよろけながら立つてゐやうが前の青年は平然と新聞を讀みつてゐて知らぬ風をするのと好一對だ。殊に折角空席が出來ても前の女學生がいつまでもかけずに立つてゐるのも妙だし、年增の女　座りで二人分占領したり、ちいさい荷物も膝に置かず、一人前の席をさらせるなど、どれもこれももう少し公德心を重んじて欲しいと思ふ。

＝車掌さん＝

乘客に乘客道德があれば、乘務員の車掌にももう少し親切氣があつて欲しい。それには交通機關がどんなものかを明瞭に知つて、停留場では一人でも客を殘さぬやうにすること、終電に近くても停留場名をはつきりといふこと、車掌が滿激な勞働に疲れて居眠り半分口の中でもぐもぐ云つても判りはしない。乘換場に近づいたら「次は常盤橋、春日町、老虎灘、日本橋方面行のお方はお乘換の御準備を願ひます」位はいへる餘裕はないだらうか、內地電鐵の親切さに比べて何となくこの感が深い。

＝滿鐵の表札＝

どこの家にも明瞭に表札を出すやうにと言ひながら看板一つ出さない「滿鐵會社」や「ヤマトホテル」はあればご宣傳好きであり、コップにまで紋を入れるに似はらず表札だけは出さな　、この大會社、大ホテルを知らぬ者が惡いといふわけではあるまいに——とは屢々叫んだが矢張り出さないところを見ると或ひは他に理由があるかも知れない。

謹賀新年

鐵嶺

石塚邦器　市川薫　柳井[illegible]　馬場音次　徳本延藏　梁載洙　旅行中に付缺禮仕候 永田平介　[illegible]　小野田[illegible]　山下春五　松崎義造　權太親吉　神代新市　青木昇　[illegible]

橋川成三　稅所壯吉　三森七郎　塩川恭雄　[illegible]　[illegible]　末廣榮二　大矢保　棚平桂　鐵嶺高等小學校職員一同

鐵嶺地方事務所　大澤善藏　古館尙也　久永重男

日語學堂　山田豐

鐵嶺滿鐵醫院　前田翠　植島秀人　成瀨俊夫　脇猷七郎　脇政助　松岡市兵衞

產婆　富樫よし乃

陸軍・滿鐵指定御旅館　松花ホテル　電話一一〇番

浦谷ハナ

カフエー　精養軒　居留地電話二三一番

和洋雜貨　藝陽商行　松島町電話二一番

御料理　鐵嶺ホテル　附屬地電話二九番

御料理　萬安樓　居留地　電話四九番

石黑茂

滿鐵石炭販賣　怡信洋行　電話四八番　怡泰號　電話一六二番　三盛商會　電話一三八番

お正月寫眞は　松島町　永清寫眞館　電話四番

株式會社　日華銀行

旭號　小山仙次　電話一〇二番

菓子製造飲料水　安宅商會　電話三〇七番

株式會社　大矢組

鐵嶺電燈局

滿洲日報書籍文房具　大和屋

松島町　食道樂　喜良久　電話二四九番

居留地　御料理　由良之助　電話一五六番

鐵嶺驛前　食道樂　若竹　電話一二三番

松田興行部　商品館倶樂部內

實寫とレヴュー映畫

―トーキー戰線異狀あり―

一九三〇年は、トーキー全盛時代であつた。同時にまた、トーキー苦難時代でもあつたのだ。猫も杓子も、トーキーを見なければ人間でないやうにさへ云はれた。ところで、トーキーを見た人は、解つたかと聞くと、百人が百人、口をそろへてわからないと云ふ。これは解らないのが當然なのである。我々の日常語と何等かはるところのない英語の會話が、教科書で英語をならつた日本人に解らう道理がないのだ。日本人ばかりではない。在邦の米國人にだつて滿足に解らないのである。それは數々の流行語などが盛んに織込まれてゐるからで、トーキーは結局違つたその國だけでしか解らないのである。

だからこそ、最初は解つた風にトーキーに感心してゐた連中も、さうく何時までも我慢がしきれなくなつた。その爲めに現在トーキーに非難の聲が高まつたのである。然し、今更無聲映畫では、いよく客ははいらなくなるし、そこで、結局は誰にでも解るところのパート・トーキー、即ち伴奏のみのトーキー、または、ほんの一部分のみの會話をトーキーにしたものが出來てきた。

それでも、トーキーは却々非難の聲からのがれることが出來ないで、遂に聲によつてのみ客が引けないことを知つて、エロなレヴューによつて、現代人の氣持をさらへやうとしたのである。その爲に、レヴューの舞臺俳優が續々と映畫に現はれて、人氣を取るやうになつたのである。黒んぼの踊り子ジョセフィン・ベーカーなども、かくして日本にも紹介されたのであるが、彼女はもとくレヴューの踊り子が職なである。以上のやうな狀態で、昨年秋の外國映畫の、半は、レヴュー映畫であつた。筋も物語りもない、たゞ裸と聲と踊を見せるだけのものであつた。見る方にしても、解らない英語の會話を除かされるより、この方がよいとばかりに、レヴュー映畫は可成りの全盛を見せて、一九三一年度もその餘勢は相當に續くであらうと豫想されてゐる。

又一方には説明者松井翠聲を、わざく米國によんで、パラマウントが「パラマウント、オン、パレード」を造つたり、フオックス社が上山草人を司會者として「ハッピイ・デイス」をつくつたりして、日本人の聲を聞かして、ファンの興味を惹かうとしたり、トーキー映畫製作者の苦心たるや、實にさんたんたるものがある。

しかし、それでもトーキーはまだじつとしては居られなかつた。何とかしてファンをつながねばならぬ。逃がしてはならぬと。こゝに實寫と戰爭映畫のトーキー化が現はれたのである。

「バード少將南極探險」「インガキ」「西部戰線異狀なし」などがそれである。これ等は戰爭の亢奮と、實寫の興味にファンを惹きつけて、しかも鯨が潮を吹く音や飛行機の爆音などをトーキーで聞かして、ファンを、トーキーから離すまいとしたのである。

一方日本映畫のトーキー化はどうかといふに、これは金の點で外國トーキーとすら全然問題にならないところへ、聲の修業の全く無い映畫俳優を使用してのトーキーであつたから、まつたく失敗に終つたのである。

で、映畫俳優の聲に望みが持てなくなつた。畫會社は、矢張り外國トーキー同樣に、會話よりも、一般的な唄などによつてファンを惹かうとした。その最初が昨年春の日活の「ふるさと」である。ふるさとは俳優のせりふは、然し問題ではなかつた。中には何を云つてゐるのか、まつたく解らないものがあつたにもかゝはらず、藤原義江の唄によつて意外の成績を上げた。

その後には、帝キネの「何が彼女をさうさせたか」がトーキー化されたが、これは無聲映畫が異常の人氣を博したから、その人氣に乘じてトーキー化したまでのことである。

最近では昨年秋の天張帝キネの「子守唄」が人氣を博したが、これは日活の「ふるさと」と同樣映畫そのものより、關屋敏子の唄が人氣を呼んだのである。

またレヴュー映畫においても、トーキー化されこそないが、日本映畫も遅ればせながら、レヴュー式の映畫を盛んに撮影してゐる。

かくしてトーキーは、內外ともに會話を主にした、筋本位のものゝ失敗にかんがみて、全世界共通の筋を無視したレヴューとかまたは實寫ものにぐんくとはいつて、そこに再生の道を拓かうとしてゐる。

一九三一年のトーキーはどうか恐らくレヴュー映畫の全盛であり、實寫映畫トーキー化の全盛を見せるであらう。そして、今年こそ以上の二つについて、優秀映畫のトーキーが相當に現はれるであらう

（寫眞說明、右上からジョセフィン・ベーカー、レヴュー映畫「ノー、ノー、ナネット」の一シーン、左上から實寫の一シーン、上山草人氏、松井翠聲氏）

滿洲映畫界に於る 三問題の豫想

靜田晴雄

滿洲映畫界に殘された問題を一々數え上げれば、其數は實に數多に上るであらうが、滿洲といふ特種地域而も獨立せる滿洲と云ふ特種事情の下に、一九三一年度に於ける滿洲映畫界が、世界映畫界、又少くも日本映畫界の動きに如何に影響されて行くか、かう大きく考へた時、當然思ひ起されるのは發聲映畫の上映、イデオロギー映畫の上映、それに小型映畫運動の發展、と云ふ此の三問題である。

勿論此の三者は各々現在世界に於ける映畫界の幾何かゝ大潮流を形成するものゝ一つで三〇年度に於ても、それぞれ多少の影響を受けてゐるのであるが、三一年度に於て如何に變遷して行くかが問題なのである。

先づ此の發聲映畫の上映であるが、三一年度に於て、滿洲殊に、大連に於ける各映畫常設館は全部トーキー映寫機の設備をしなければならないであらう。何故なれば現在既に日本へ輸入された映畫は勿論、目下製作中と云はれてゐる外國映畫中優秀と思はれる映畫は全部トーキーである。吾々は三〇年に於て、トーキーを無聲で見る事が如何に情ない事であるかを痛切に味はゝされてゐるのである。常設館經營者は大衆をアッピールする事に於て苦心し努力せねばならぬ。トーキーの無聲上映などは常設館經營者の考へるべからざる事である。上海然り、天津然り、當然國際都市大連に於てもトーキーはトーキーとして上映されるべきだ。殊に三一年度における日本映畫撮影所のトーキー製作はどうしても考へねばならぬ。而も其の發達は豫期すべきだ。恐らく三一年度の大連映畫界はトーキー時代を現出し、各館は其の設備をするものと見てよからう。

次にイデオロギー映畫の上映問題であるが既に「アジアの嵐」に於てソウエート映畫輸入の端を發し「西部戰線異狀なし」の上映を見せた日本映畫界は更に種々の思想映畫の輸入が行はれ、同時に製作がなされそれ等は當然滿洲にも入る事であらうが、三一年度に於ける思想運動が一層白熱化する事を豫想した時特殊地域滿洲として檢閱所が置かれ檢閱役目第一の檢閱官が存在する限り、吾々は內地に於けるよりも不幸なる映畫ファンとならねばならぬであらう。檢閱當局の檢閱制度等さならればならぬ事を覺悟せねば望みても得られぬ事である。

最後に小型映畫運動であるが、此れは最も發達するものと考へればならぬ。しかも十六ミリ全盛時代を現出するものと見てよからう。吾々が三一年に於てイーストマンやベルホウエルの十六ミリ撮影機が如何に街頭に數多く現はれるかを豫想するに難くない。同時に此れがプロキー系とアートキー系の二道に分れ、大衆に於けるパルボウとしアイモとして如何によく使用されるかも考へられるのである。又小型映畫の發達は日本プロレタリア映畫同盟との連絡を考へさせられるのであるが、乏しい財政と官憲の彈壓の下に如何に活躍し得るかは全然疑問だと云つてよからうと思はれる。

賀正

滿蒙開發の先驅 東洋貿易の楔子
海陸運輸及附帶事業一切を始め小荷物の取扱迅速低廉
國際運輸株式會社
大連山縣通 電話代表三一五一番
滿鮮其他主要地に支店、出張所、取扱店の設置あり

山水明媚な……金福線を
輕油動車て……乘心地快し
金福鐵路公司

輸出入 土木建築 倉庫 保險
機械類一切自動車、鑛油、揮發油其他建築、土木一切 諸雜貨食料品類
一般倉庫業、保險會社代理店
FC **福昌公司**
大連山縣通 電話代表七一七一

業務 物品販賣、問屋、運送 保險並ニ船舶代理 造船及附帶事業
大連市山縣通
三井物産株式會社大連支店
電話代表七一〇一
滿洲出張所所在地 牛莊、安東縣、奉天、哈爾濱、長春

滿洲特產物輸出貿易商
(サ) **瓜谷長造商店**
大連市山縣通一三七番地
電話 (長)四四二六番 三三三六番 七七六四番
發電略號(ウ)又ハ(ウリ)

政記輪船股份有限公司
總理 張本政
大連市監部通三九 電話代表四一四一番

滿壽屋モスリン店
大連市磐城町二八 電話五二〇七番

大連質屋業組合
電話六〇二四番

株式會社 **大連車夫合宿所**
大連市八幡町二一番地 電話六〇二〇番

戸畑鑄物株式會社 東京電機株式會社 安來製鋼所 製品販賣
戸畑鑄物株式會社 大連出張所
大連三河町一七 電話六四三八番 電略受信(タイレントバタヱイ) 發信(タトヌハタ)
本社 東京市麴町區八重洲町一丁目一番地

森永製菓會社 明治製菓會社 特約店
製菓卸問屋
機械製花アラレ類 甘納豆、ピーナツ類 其他各種
木村屋分店
大連市若狹町五丁目一九九 電話六八八六番

菱川大昌堂藥局
大連市淡路町七 電話七八九三番

大連酒商組合(イロハ順)
白鹿 發賣元 合資會社白鹿商店
白鶴 發賣元 嘉納合名會社大連支店
澤龜 發賣元 宅合名會社大連支店
大關 加茂鶴 發賣元 黒岩大連支店
忠勇 發賣元 增屋
櫻正宗 發賣元 扶桑號高見商店
富久娘 發賣元 富久洋行
都菊 發賣元 合名會社肥塚商店大連支店
菊正宗 發賣元 鐵谷商店
富士 東洋一 發賣元 柴谷洋行出張所
白雪 發賣元 鈴鹿商店

滿洲煖房衛生同業組合(イロハ順)
奉天 今井商會
大連 合名本商會
奉天 大倉商事株式會社大連出張所
大連 河村工務所
大連 勝本工務所
奉天 田中勝商會
大連 竹山商會
大連 近藤商會
大連 齋藤製作所
大連 島松商店
大連 小阪商會
大連 中平事務所
安東縣 須島田治商會

大連綿糸布商組合(いろは順)
日本綿花株式會社大連支店 大連市山縣通
東洋棉花株式會社大連支店 大連市山縣通
株式會社大信洋行 大連市監部通
上野洋行 大連市山縣通
株式會社丸永商店大連出張所 不破洋行 大連市山縣通
株式會社永順洋行 大連市大山通

大連石炭商組合
滿鐵特約販賣人
佐藤組 電話四八七八番
熾昌厚 電話四六七三番
東萊洋行 電話八四八四番
共同組 電話四三〇九番
鶴田號 電話六〇〇〇番
大宮組 電話五六六一番
宮崎商會 電話五三一九番
東華公司 電話五六四五番
組合事務所 電話五六六一番

謹賀新年

撫順

伍堂卓雄
築島信司
齋藤茂一郎 川上精市
奥澤集成 寺田良之助
内野捨一 梅村泰雄
山上吉藏 飯村憲吾
田中廣吉 田村勝治
寺西奎之 福田寅一
古賀初市 松井佐兵衛
中島右仲 新井三喜男
大江維賢 若林治重
中原祥光 山口文雄
福永高介 寺師清
佐藤種德 姫宮智頤
梅田富三郎 松原龍太郎
大島勇 廣部大憲
中山豊 竹内敬美
川路喜平 松尾禪山
伊東熊次郎 山下七太郎
平井譽治郎 小林益造
平尾關太郎 佐藤甚左衛門
板倉市二郎 佐藤仁十郎
影浦政雄 山崎亮作
伴善太郎 福島英雄
濱屋茂兵衛 蜂谷文平
尻子薫雄 森山環
那須信次 荻野滿次郎
中山八郎右衛門 田中鶴松
後藤愛助 和泉槇次
後藤民藏 西堀吉藏
三好兼吉 川岸芳助
撫順炭礦 課所場長 参事 技師 一同

獨立守備隊 村上永吉
角田一朗 米澤逸郎 後藤秀乾
廣崎行雄
澁谷次三郎

炭礦部(五十音順)
安東猷二 荒巻敏治 稲田實 石山淳一 石田親城 井上益太郎 井上芳一 江口八七吉 補本勇 加納吉次 川口芳遠 熊谷耕平 佐藤哲雄 佐々木實造 菅野誠 竹中釧三 武田春二 高久肇 高木德次 津川哲三 土生琢介 服部寮 廣吉辰雄 平尾康雄 日高爲三郎 三橋重則 向井善勝 林田耕作 森ト壽三郎 山口武吉 山本駒太郎 山田高 渡邊三郎

撫順警察署
齋藤護邦 森田近 梅田生 上井敬三 鈴木修一 倉尚貞 平井穰 月野正流 酒井肇 越智通明 平松滿貞

撫順教育會
石原貞次(イロハ順) 米澤信二 瀧川嘉一郎 大佐三四五 棟久藏 植村良男 寺田嘉次郎 荒木賀馨 澁野多次 鈴木直江

野田工務所 野田慶 電話二二二〇 四三七 八五〇番
輸出入貿易商 威司東洋行 電話二〇一九番
撫順公司 石橋徳太郎 電話二〇八八、二三八八番
勝山バス商會 撫山信三 電話二〇二八番
石炭商 明星公司 電話二二七八番
大倉土木株式會社 撫順詰所員一同 電話二〇六八番
吉川組撫順詰所 齋藤篤外一同 電話二六三三 二四五番
土木建築請負業 田中組 電話二六二一、二三九〇番
撫順製紙株式會社
撫順不動産金融株式會社
榊谷組 岡田實外一同 電話二三五〇番
高岡組 今村佐太郎外一同
株式會社福昌公司 矢野薫 電話二六七三番
伊賀原組 撫順出張所 電話二六四六番
合資會社 土木建築業 神田組 電話二六九七番
益田醬園 電話二五〇五番
野村龍次郎 電話二三八四番
日昇公司 本店 支店 電話三三一四、二五五八番
三榮公司 逢萊洋行 電話二三八八 二四六五番
神田商會 電話二四二四番
山地研究所 電話二四九三番
石川製陶所 電話二五四三番
土曜倶樂部 電話二六七二番
撫順紹介所 電話二六七二番
撫順タクシー 電話二四五七番
渡邊琥珀堂 電話八二四二番
泰盛洋行 電話二〇九三番
牧野商店 電話二〇〇四番
中馬洋服店 電話二六一〇番
永昌洋行 電話二六六六番
撫順區地方委員一同

河村工務所撫順出張所 松尾駒太郎 電話二〇九三番
鶴屋菓子店
古賀源四郎 電話二〇六一番
古川製陶所
一菱洋行 電話二三四〇番
齊林洋行 電話二二八五番
山口タクシー 電話二三六〇・二二五八・二七五七番
東洋タクシー 電話二五二一番
石原洋行 電話二〇〇七番
山田洋行 電話二三二一・二〇一七番
光寫眞館 電話二二六七番
富澤寫眞館 電話二二六七番
森寫眞館 電話二四六一番
森本商店 電話二〇七四番
文堂みやげ部 文堂書籍部 電話二三一〇番
花月堂
明治製パン所 電話二〇三〇番
大和洋行 電話二〇三五・二五九八番
高松屋 電話二〇七三番
塚本文具店 電話二四六〇番
大井商店 電話二〇八七番
壽美屋洋服店 電話二五一九番
四國洋行 電話二〇八三番
陳内タミ 電話二〇五七番
保健浴場 電話二四五六番
隅田商店 電話二〇二二番
原田靴店 電話二三九二番
森靴店 電話二四〇五番
ハレルヤ薬店 電話二四三八番
肥後屋 電話二五三〇番
撫順案内所 電話二五四八番
撫順會社銀行團

前田洋行 電話二三二〇番
柴田鐵工所 電話二三一九番
彰義洋行 電話二三八〇番
西田支店 電話二〇四一番
鈴木時計病院
問陶醫院
神開出張所 電話二三五五番
吉野軒
千葉留八 電話三一七八番
中屋敷澤吉
滿花園 電話二六九四番
後藤鐵工所 電話二五五四番
撫順製材公司 電話二六六〇番
筑紫館 中村登美惠 代表電話二一八一番
壽館 高築壽吉 電話二〇〇三番
熊本屋 本店 支店 電話二〇五八・二六〇四番
大谷商會 電話二二九二番
萬達屋 金森養鶏所 電話二三四一番
飯田工業所 電話二六六四・二五三六番
小川炊事 電話三三一番
銀座 電話二七二九番
カフエー新楊 電話二四六六番
カフエーライオン 電話二三九六番
カフエーサンジヨージ 電話二五一三番
カフエースズラン 電話二五一六番
カフエーマテンロー 電話二五八三番
東庵 電話二四一一番
撫順大衆座 電話二七五三番
入江雪太郎 電話二二〇一番
撫順飲食店組合
共同仕入販賣部
撫順醫師會

撫順料理店組合
池野商店 電話二二六二番
青い塔 電話二四〇八番
撫順館食堂 電話二三四九番
福合樓 電話二四二六番
同郷會
純料理店 ふじや 電話二六二四 すみや 電話二〇三三 やつこ 電話二六五八 東京庵 電話二六二〇 まねき 電話二六〇二 彌生 電話二六三五
撫順體育協會
撫順實業協會
撫順救世會
支那料理店組合
歡樂園維持會
撫順質屋組合
撫順西五條商店會

大連

御料理 香壽美 大連市西検番 電話六〇三六番
小崗子料理店組合一同 電話四三三六番
大連西検番組合員一同

大連市三業組合員(イロハ順)
濱之家 布袋 鳥彦 瓢亭 淡月 鶴家 湖月 天金 西園亭 菊水 扇芳亭 岩戸 花丸 初音 花菱 錦 こんば 千歳 千代本 千草 扇家 かなめ 芳之家 月家 松家 萬亭 福家 江戸家 愛廣 澤乃井 蝶々 照之家 喜多 喜扇 銀月 吟亭 君松家 美の里 京登花
新菊水 新喜樂 新二葉 新瓢 新小松 新富 新濱 芝田 瓢禮 壽美 井筒家 いわさき席 林家 富家 常盤席 小川席 近江家 吉田席 淡月席 玉之家 高砂席 鷹之家 八千久席 山口席 松坂席 藤村家 琴平席 哲之家 天狗席 相生席 笹邊席 櫻川席 北村席 北林席 清之家 北一席 紀國家 末廣席

大連市三業組合事務所 電話四五〇六番
大連検番 電話代表五一一六番
大連女紅場 電話三六九三番

滑稽漫談　松の内

三遊亭圓遊

先ず明けまして御目出度う存じます、どうも是といふ珍しいお話もムりませんが春めいた陽氣なお話で御免を蒙ります、世の中は唯だが結構さ云つてもお酒位結構な物はございません、天の美祿と云つて、此の位味の美い物はない、就中て春先などは酒がなくてはならないことになつて居ります、御年始に歩く方でも寒さうに青い顏をして歩いて居るよりポーツと目の縁を赤くして桃色などゝ云ふのは男女に拘らず一寸色氣のあつて好いものでございます、併しお酒も餘り過ぎると困ります、△「ア、有難てえ酒位剛氣なものはねえ、酒飲めば、つか心も春めきて、借金取も鶯の聲さいふが全くそうだ有難てえ、れ、斯ういふ時は後押の俥か何かでアリヤ／＼アリヤ威勢が宜いな」車「へエ、俥參りますか」△「何だい」車「貴方の御都合樣まで參ります」△「誰の都合でも勝手に行れえな」車「へエ、俥、乘つて頂きたいんで」△「ナニ、俥に乘つて頂きてえ、乘つて呉れさいふのか、頼まれゝば乘つてやらう、何處へ行くんだ」車「貴方の御都合で何處へでも參ります」△「サアやつてくれ」車「踏込みへ腰をお掛なすつて、下に足が付いてゐます」△「足が付いても宜いぢやアねえか、お前の足が前で俺の足が後足だ、馬だけに使へるぢやアねえか」車「串戲いつちやアいけません」△「大概の奴が上に乘つかるのが癪に障つて堪られえから、下に乘つて見てえんだ、サア上に乘るぜ」車「ア、其方を向いちやアいけません」△「能くやかましい事をいふ車夫だな……ソレ宜いだらう」車「ヘエ、何方へ參りませう」△「然うさなア、何しろこの寒いのに北へ向いちやアいかれねえ、エ、こ南へやつて呉れ」車「へエ南へ、有難う存じます、何方かお馴染がムいますか」△「何だい、お馴染たア」△「南さいへは品川でムいませう」車「何をいやがるんだ、西南の方へやつて呉れ」車「西南さいふと何方でムいます」△「何處だつて知つてそうなもんぢやアねえか、何んでも南洋は陽氣が好いさいふ事だ、[illegible]の陽氣だといふから南洋へやつてくれ」車「そんな所へは行けません、東京の中なら何處へで參ります」△「そんならさう言へ、何處へでもいいからやんねえ」車「へエ」△「何處へでも宜いからやつてくんねえつて事よ」車「へ、へエ、ぢやアカジを上げますよ」△「火事なんか貰ひたくねえ、ア、待ちな／＼、待ちなよ」車「へエ」△「一寸下してくれ」車「へエ何でムいます」△「其の角の家だ明火が差してゐる其處を起してくれ、構はねえから威勢よく叩け」「ドンドン／＼」車「御免なさいまし」女「ハイ何誰、まだ寢ませんの……ア、俥屋さん、御苦勞樣、お使ひですか……アレお前さん乘つて居るのかい、何をしてゐるんだねえ、下りたらいゝだらう醉ふさ是だから仕方がない、さぞ迷惑でしたでせう」車「へエー、此方の旦那ですか」女「さうなんですよ、醉つ拂ふさ是れですからね……如何程ですか御代は」車「へエ如何程にも何にも此方の前の所でお乘せ申したので車の輪を一廻り半ばかり廻つただけで」女「嫌だねえ、此の人は呆れ返つちまふよ家の前へ來て俥に乘る奴があるかね、何だか醉漢が表でグヅ／＼云つてると思つたんだよ、お前さんどうしたんだよ」△「乘つて呉れさいふから乘つたんだ、頼まれりやア仕方がねえぢやアねえか」女「俥屋さん誠に濟みません是はホンの煙草代……」車「へエ是をお貰ひ申しちやア相濟みません」女「イエ是はホンの煙草代ですからさぞお世話を燒かしたでせう」車「へエ、イエ何、わたしは直其處の四ツ角に居る俥屋で、ツイお見外れ申てどうも濟みません」女「下さいよ」△「エー畜生、先方で要られえ／＼さいふのを無理に此方で遣りたがる奴があるか、汝見たやうな不經濟な女はねえぞ、能く考へて見ろ、其れぢやア俺が幾ら稼いだつて足りねえや、イヤに俥屋の贔負ばかりしやがつて、エーオイ、どうも近所の騷動が起つたさ思つたが然ういへば一寸氣の利いた俥屋だ、汝來月か來々月生れる[illegible]ぞ、胞衣洗をして俺の紋が附いていりやア兎も角も、車の輪でも附着いてゐて見ろ馳構しれえから……」女「何を下らない事を云つてるんだねえ、俥屋さん御苦勞樣……サアお上んなさい」△「グヅ／＼言ふな、手前の家だ上るにア極つてらあ」女「モウ直寢てお終ひよ」△「何を云つてやがる、歸つて來れば飲むてえ事は極つてゐるんだ」女「お酒も買つてあるけれど火がないよ」△「火がなけりやア冷酒で持つてこい」女「冷酒で飲めるかい、この寒いのに、お肴は何もないよ、干物が買つてあるが燒かなければ食べられないし」△「燒かれえたつて生で食べらア、刺身だつて生で食ふぢやアねえか」女「刺身さ干物さ一緒になるかえ、生で食べられやアないよ」△「馬鹿を云へ、食べられえ／＼さ云つてゐれえで裏の物置へ行つて澤庵を一本出して來れえ、丁度漬き頃だ」女「ありや家のぢやアないよ、差配さんのぢやアないか」△「宜いぢやアねえか、明日の朝行つて澤庵を御馳走でムいましたさ……」女「何を云つてゐるんだねえ、そんな駄洒落なんか云つてゐないで寢てお仕舞ひよ」△「また寢ろつて云やがる寢るものか、いくら松の内だつてまだ十二時前だ、夜明しのおでん屋位あるだらう、畜生め……アハ、、早くいつて買つて來い、出て來やがつた、氣の毒だなア、俺は醉つ拂つて愚圖々々いふが陰ぢやアお前位の女房はれえさ思つて居るぜ」女「お前さん、何を謝まつてゐるの」△「オヤお前其處に居るのか」女「角へ行つて見たけれど何にもないよ、何處かで燈火が見えたら行つて買はうさ思ふが何にも來ないよ」△「此のヤクザ媽め、出て行きやがれ……アハ、驚いて行つてしまやアがつた、然し弱つたなア干物も生ぢやア食へれえし」鍋燒饂飩屋「なーべーやきうどん」△「メたなア、うどんやー」鍋「エーうどんやは何方でございます」△「呼んだのは俺だ」鍋「へ、どうも結構な春でムいます」△「結構な春で嬉しくて仕樣がれえが、冷酒ぢやア我慢にもやりきれねえ、どうだい一つ燗を温めて貰えるかい」鍋「エー湯はチン／＼沸いてゐます」△「やれ有難え、ついでに干物を一枚燒いて貰いてえが火が熾つてゐるかい」鍋「カン／＼熾つてゐます」△「チン／＼カン／＼と來やがつたな、鳴物入りだ、其のチン／＼沸き立つてゐる中へ一寸此の德利を入れて熱燗にして呉れ、直に冷めちまふから……それから干物だ、これは裏表ソーッさやつてくれ、有難え／＼、序に肴を取つてくれ、手數をかけて濟まねえ、宜し有難え剛氣々々、オイ風が入つていけねえから其處を閉めて呉れ、ピッタリ閉めて呉れ」鍋「へエ、エーうどんを一つ召上て頂き度うムいますが」△「俺は嫌えだ」鍋「それぢやアお酒のお肴にお雜煮のヌキは如何でムいませう、御酒の燗をしたり干物を燒いたりするばかりぢやア手前の稼業になりません」△「生意氣な理窟を云やアがる、この泥棒め、下られえ事を吐かしやアがるさ其處へ出て饂飩の荷を蹴つくり返すぜ、畜生め……アハ、、逃げて行つちまやがつた、態を見やがれ却々俺も睨みが利くな、有難てえ、ア、新内の流しが來やアがつた、いゝ心持だ、春は陽氣でいゝや（唄）どうなるものぞ存らへて我が亡き跡で一遍の、ツ、ンテン／＼グシヤンさ來やアがるハア、、」女「一寸馬鹿々々しいね、大きな聲を出して御近所があるよ、漸くおでん屋が來たから買つて來て上げたよ、オヤ／＼德利から煙が出て居るね、マア此人は干物を食べてゐるが燒いたのかい、火も熾つてゐないのに、何うしたんだえ」△「アハ、、汝が間抜けだから遠くまで行つたんだ、チヤンと此處へうどん屋がきた」女「ア、今其處で遇つたよ」△「其のうどん屋に燗をさせて干物を燒かしたんだ、どうだ剛からう」女「それは宜いけれど饂飩を二つでも三つでも買つたらうね」△「俺はうどんは大嫌えだ、どうせ熾つて居る火ぢやアれえか、皆な世界は同胞だ、新規に熾して貰つたら駄目からうが先は有合せの品だ、一寸突つ込んで一寸燒いて貰つたゞけで錢を取られて堪るかい」女「いくら一寸にしろ先方は商賣だよ、此方の用だけ達さして何にも買つてやらないぢやア可哀想だよ、まだ其處に居てやらう」△「モウ居るもんかい、[illegible]又呼ぶつてえのは何ういふ譯だ、馬鹿、然う云へばあの饂飩屋は一寸氣の利いた親父だ、そんなにうどん屋の肩を持つさころを見ると只ぢやアれえ、俺は朝出て晩でなけりやア歸られえ人間だ、來月か來々月生れる嬰兒の胞衣洗ひをして俺の紋なら宜いが、土鍋の蓋か何か附いてゐるさ只ア置かれえぞ」女「何を云ふんだねえ馬鹿々々しい、氣の毒ぢやアないか眞正に……一寸うどん屋さん――うどん屋さん」と金切聲、通りがゝりの人が「オイ／＼うどんや」鍋「へエ」○「あの角のお內儀さんが呼んでゐるぜ」鍋「ア、彼處へは行かれません、今行くさ恰度御鉢子の代り目になります」（をはり）

女給万能時代（一）

久松染夫

お正月のお小遣を少しよけいにもらはうと思つたら、女給さんのＡ子をたのんでちよいと奥さんになつてもらひ、『これこんど結婚した僕のワイフです』とやるべし。それほど、新夫人にふさわしい女給さんの立派なることだ。

女給万能時代（二）

久松染夫

彼の女は工場にも通ひ、事務員にもなり、働いても、働いても、食へなかつた。そこで、彼の女は遂に女給になる決心をした。と、なんでもなく妹やお姉さんにきれいな着物がきせられた。

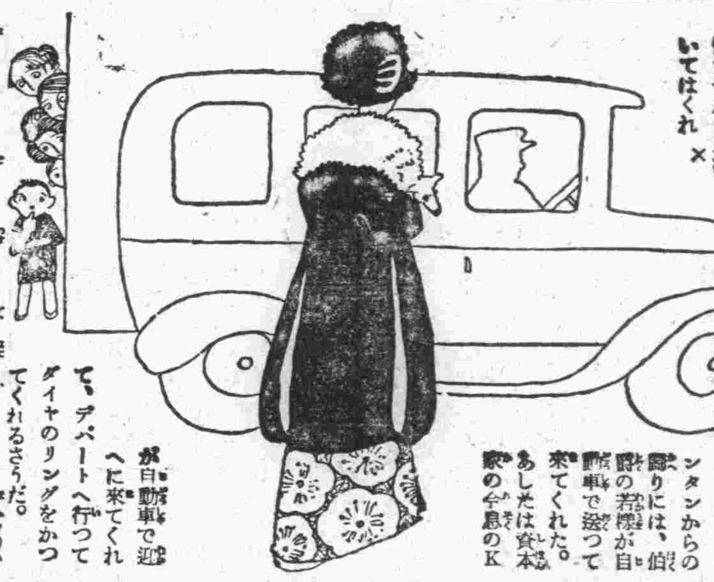
女給万能時代（三）

久松染夫

彼の女はきのふまで、裏店の三疊におふくろと內職をしてゐた。そして、となりの職工の甑ちやんも見むいてはくれ

×

なかつたのに、今日、カフエー・セ[illegible]ンタンからの歸りには、伯爵の若樣が自動車で送つて來てくれた。あしたは資本家の令息のＫが自動車で迎へに來てくれて、デパートへ行つてダイヤのリングをかつてくれるさうだ。



新年春の醉

風來山人

お正月羽子をつきたい妻であり「ねえ、あなた、いゝでせう、妾も羽子を突いてみたいわ」「一體、今年お幾つにおなり遊ばしたのだ」「あら嫌だわ、年なんかどうでもいゝぢやありませんか」「お子樣がお幾人お有遊ばすので。」「知らないわ、お正月だものいゝでせうあなたもおつきなさいな」「俺なんか、到底女流選手のお相手なんか出來ないよ」「まア、憎らしい勝手になさい」「まア、ちやんいらつしやい、母ちやんが羽子をついてあげるからほうら、ひい、ふう、みイ……」

×

元日をよつぽど空な腹でゐる雜煮の餅がまだ腹の中でガンばつてゐる、屠蘇の醉ひがまださめぬのに、行き先々で強られる。ウーイと變なゲッブが出る。雜飯も鱈々喰へぬのに腹は減らぬ。こりあ正月早々から胃を惡くしてはたまらぬと、歸宅してから胃散をソッさやらうとしてゐると女房が、「貴郞！、お正月早々からお藥は緣起が惡いわよ」と中止を命じられたが、胃の中にたまつた群衆仲々解散してくれぬらしい。時々ぐるぐる／＼ときの聲をあげてゐる。これぢや初夢も惡いだらう。

×

宴會を二つ稼いで[illegible]「あら疲れちやつたわ、隨分待つたでせう」「待たされる身になるなさ言ふからなア」「でも今晩は昭和汽船と大正鑛系との新年會を二つも受けもつたのでスツカリ疲れたわ」「[illegible]じめなもんさ」「あら怒つてるの！、でも仕方がないわ、これが稼業ですもの――えゝッ、口惜い！」「おい！、ど、どうしたのだ、涙なんか溜て、泣いてるのか？」「でもあんたが、あんまりわけが判らなすぎるのですもの、えゝッ憎らしい！」「あッ、痛い、、、あやまる、あやまる、この通り」

×

屠蘇で始まりウイスキーで寢てしまひ　そもそもの導火線が今朝の屠蘇だつた。それらすつかり腰がすわつてしまつてゐるところへ、友達がやつて來たものだから、好敵手御座んなれとばかり、主客亂れて泡を飛ばす。「オイ、素晴らしいものを飲ますぞ、暮にもらつたのだ、キング、オヴ、キングだ！」「何？キング、オヴ、キングつて？やめてくれ、この年になつても俺はまだ元氣だぞ！」「まア、一杯やれ、眞實にウキスキイの王樣だぞ！」「おつと、こりやア成程いゝものだな、キング、オヴ、キングつてこんなに素晴らしいとは知らなかつた」「馬鹿にしてやがる、性の藥と間違へてやがる、ウーイ、ゲップ、何だか眠くなつて來た、失敬するぞ」

×

醉かるた人の丁當を[illegible]し「おい、俺の方まで取りに來なくつてもいゝぢやないか」「でも、あなた、隨分おそいのですもの」「あッ、又やりあがつたな、畜生！」「オホ[illegible]」

謹賀新年
公主嶺

獨立守備隊司令官陸軍中將　森連

公主嶺土曜會
公主嶺電燈株式會社
公主嶺取引所信託株式會社
滿洲銀行公主嶺支店
正隆銀行公主嶺支店

獨立守備隊第一大隊長　三浦嘉門
公主嶺地方事務所長　西村秀治
（いろは順）
滿洲銀行支店長　大倉太七郎
公主嶺郵便局長　吉藤太郎吉
正隆銀行支店長　竹田計二郎
信託會社專務　永原岩雄
滿鐵醫院長　新井巳千藏
取引所長　佐藤金吾
公主嶺驛長　齋藤順吉
公主嶺農事試驗場長　松島鑑
電燈會社專務　宮川嘉門
公主嶺公學堂長　宮野入博愛
農業學校同實習所職員一同

公主嶺構內食堂
滿鐵社員俱樂部食堂

謹賀
公主嶺特產物商組合
公主嶺石炭商組合
公主嶺電燈會社郭家店支店
公主嶺工友會
公主嶺小學校職員一同
公主嶺金融組合理事　松岡滿治
公主嶺輸入組合理事　小松繁太
國際運輸營業所主任　河部是與
公主嶺合利洋行主　小松光治
公主嶺地方事務所各係長　草刈芳太郎　近藤次郎　鶴見勲
取引所職員一同
信託會社職員一同

（いろは順）
武富洋服店
高柳寫眞館
丹宗呉服店
和洋雜貨　高取商行
楠田商店
山本公茂堂
柳町　山本時計店
中村與行部　松原留七
丸福旅館
和洋雜貨　小久保洋行
食糧雜貨　榮商店
四道齒科醫院
書籍小間物　十八屋
公園　會席料理　やまと
朝日町　いろは
滿日支局　池永修三

今年文壇の展望

波羅門迷二

混沌たる文壇の俯瞰圖

當今の文壇を大まかに色分けしてブルジョア藝術派とプロレタリア藝術派の二つに區別することは殆ど常識のやうになつてゐる。が實際はしかし左樣に單純ではないブルジョア派でも所謂既成大家の一群と新感覺派から進化（？）して來た新興藝術派その中にもまた純藝術派、ナンセンス派、エロ・グロ、モダーン等々、文字通り百花撩亂であり、また別にブルジョア派全體を通じての大衆作家といふのがあつて、これがジヤアナリズムの寵兒となり、量に於て多くの讀者をもち物質的にも甚だ惠まれてゐるといつた有樣、プロレタリア派に至つては、まさに戰國亂闘時代であつてより以上の混沌さであり生々流轉の相を示してゐる

これは既に二三年前から現はれた文壇の相であるが、昨年に至つてそれは一層對立が尖鋭化し、混沌を深め、流轉を繁くしてゐる。

この情勢を持ち越す一九三一年の我文壇はどうなる？、秋の雲のやうに變る文壇のそれを的確に指摘する事はできぬにしても、大凡の見透しはつかぬ事もなからう。

古典として殘る既成大家

つひこの頃まで「中央公論」「改造」「新潮」等の創作欄、殊にその特別號などには、たとへ五六頁のものでも顔だけはだしてゐた既成大家が、このごろは云ひ合はしたやうに姿をかくしてしまつた昨年などはわづかに島崎藤村氏が「中央公論」に長編「夜明け前」をぽつく出した位だが、それさへも大して讀者の興味を惹いたとは思はれない。その他の大家も時々顔を見せはしたが、それもほんの添へもの、感じでさんさ大向ふの喝采を博するに至らない。たまには谷崎潤一郎、佐藤春夫など花形の名前が新聞に出たと思ふと、それば創作ではなくて文字通り事實物語の「細君讓渡事件」だつたりしたゞけである。

同樣に文壇の大御所をもつて擬せらるゝ菊池寛氏なども「税金不納問題」や、廣津和郎氏の小說「女給」のモデル問題などでジアナリスチックな名を謳はれたにすぎない。たゞこれら既成作家に殆ど共通な傾向は彼等氏が、嘗ては非藝術として排撃した通俗小說に筆を染めてゐるといふ事實である

毎月の婦人雜誌や「キング」「朝日」等々の通俗雜誌廣告には彼氏等の誰かゞ名前を出してゐないだが、これは既成大家の自ら意さするところでないであらうことは嘗ての主張及作品から見て肯かれる事である。

小說を書かざる小說家、それはまさに當今の既成大家の別名である。何が彼氏等をさうさせたか？一と口に云へば、時代がすでに彼氏等の小說を要求しなくなつたからである。逆に云へば彼氏等のイデオロギーは、もはや時代をリードする力を喪失してしまつたからである。たゞ彼氏等にはその永い文筆生活から得た「技術」だけが遺されてゐる。この「技術」と嘗て得た「文名」が、必ずしも藝術的内容を必要としない通俗小說に筆を染めさせる。そこをまた機を見るに敏なジャーナリズム業者が捉まへる。既成大家の藝術創作の絶縁と、その通俗作家への轉化は、かくして行はれ、一日そこに墮ちた以上その顚落の速度はますます早められ嘗ての彼等氏の輝ける作品はたゞ、明治大正年間に遺されたる古典として、また彼氏等はその作家として、その限りに於てその業績は永久に輝くであらう。一九三一年の彼氏等の辿る途は、その過程としての一年であるに過ぎないであらう。

時代の寵兒新興藝術派

同じブルジョア派に屬すると謂はれてゐるが、前の古典的既成作家の沒落とは反對に飽くまでも藝術のための藝術を主唱して、時代の尖端に華々しく跳躍する若き騎士の一群、それは所謂新興藝術派の一群である。

その前陣は嘗ての新感覺派であるが、プロレタリア派との對立が際立つてくるに從ひ片岡鐵兵氏などが脱出して左翼に轉換した頃から、藝術至上の理論を振りかざし左翼の總攻撃の矢面に立つて双向つた「形式と内容」の問題に就いて既成大家が隱居の如く口をつぐんでゐる時、第一線に立つて勇敢に「形式論」のために闘つたのもこの一派であつた。この派には中村武羅夫氏なども加はつて十三人倶樂部が結成され、現在プロレタリア派に對して尖く對立してゐるこの一群の若き騎士たちは既成大家が自然主義的、乃至は心境的であるのとは違つて、飽くまでも時代の—嚴密には現今の資本主義社會のあらゆる現象に對して目を閉ぢる事なく、それをあるがまゝに攝取しやうとする。機械生產の上に花咲くすべての文化的現象を題材とする。從つてこの一群に屬する作家と共に鬪爭を描き、工場を描く作家が包含されてゐるのは當然で、その意味ではたしかに進歩的な一群でありその帶びてゐる。近代的色調はまた時代の一面を表象してゐる。それだけに作品がその層の讀者に要求され、受入れられるのは當然で、龍膽寺雄、淺原六朗、久野豐彦、中村正常、阿部知二、横光利一等々のこの派に屬する作家の作品が昨年に於て既然市場を壓倒したのも所以がある。恐らくは本年に於ても依然としてこの若き騎士達の活躍は續くであらう。

然し、この一派には何となし一抹の不安がまつはつてゐる。それは彼らが藝術を政治的に利用することを拒否するその主張が既に示す如く、その題材に於てはあらゆる文化的現象を取扱ふにも拘らずそこに、それを批判し、これを次の發展へ導かうとする意識—即ちイデオロギーの缺如してゐることである。もともと新興藝術派發生の社會的根據は、資本主義第三期に於ける、もはや歴史的に發展の見込なき階級の絶望的な生活心理に根ざしてゐる。それはある時代がその歴史的生命を終らうとする最後の時期に爛漫として咲き出でたあやしくも美しい文化の花である。そこに鐵のやうな意志がある筈がない。この一派が藝術至上を唱へる點に於ては共通してゐるがそこに一貫した指導理論なく、同じ新興藝術派とはいふものの、仔細にそれを見る時さまざまな主張と傾向とを有する作家が雜居してゐる事實はそれが一つの主張の下に結成したものでなく左翼プロレタリア作家に對立するために、それに屬せざる無所屬の一群が集つたに過ぎないとも見られる。そこに既にこの一派の歴史的限界性がある。だが然し當面の事實としては資本主義文化の線に沿ふてこの一群の活躍はなほ續くであらう

七花八裂のプロ派文壇

右翼文壇の混沌にもまして動きの多いのはプロレタリア派である

こゝでは文字通りにその「歴史的發展」が行はれ、分裂がくりかへされてゐる。而もその分裂は常に「理論鬪爭」を契機として行はれることは右翼文壇のそれとは著るしく異つてゐる點である。その發生の當初に於ては「理論鬪爭」は專らブルジョア文壇に向けられてゐたが、最近に至つてはプロレタリア派の陣營内部でのお互の「理論鬪爭」の投げ合ひが顯著となつてきた。これはこの派が無產階級解放運動の情勢に支配される當然の傾向であるが、實際運動のそれを如實に反映してまさに七花八裂である。

この派のうち最も注目すべき昨年の出來事は「戰旗」に根據を置く最左翼、全日本無產者藝術團體協議會（ナツプ）が今迄の漠然としたプロレタリア藝術の主張から更に進んで××主義藝術への主張を明かにしたことである。

從來文藝戰線に根據を置く勞農藝術家聯盟との區別はその理論鬪爭の華々しさにも拘らず、歸するところはつきりしなかつたが、ナツプが××主義藝術への主張を明らかにしてからこの兩者の區別も判然とした。これによつてナツプは××黨を支持する態度を明かにし、それ以外の藝術は社會民主々義藝術であつて眞のプロレタリア藝術ではないと主張しだした。これに對して文戰派は依然として、それは社會の客觀的情勢を無視した左翼小兒病だといつて反駁してゐるが、その文戰派からは昨年更に例の代作問題から平林たい子、長谷川進氏等が脱退し、續いて十一月上旬には黒島傳治、今野大力、宗十三郎、高野次郎、伊藤貞助、山内讓吾氏等をはじめ文戰劇場員等を合せて約五十名の少壯組の脱退を見て再度の大分裂を來し、殘るは前田河廣一郎、葉山嘉樹、金子洋文、青野季吉氏等の幹部組だけとなつた。

之等の脱退組は本年から雜誌「プロレタリア」を創刊してこれに據るといふ事であるが、脱退した文戰劇場員は、ナツプに屬する左翼劇場と提携することになつたことが示す如く、いづれも右翼へ走らずに最左翼へ近づいてゆくことは本年の左翼文壇の指向を使嗾するものであらう。これは勞農黨の解消問題が意味するものと軌を一にしてゐるもので左翼文壇に於ける解消問題である。つまり社會情勢の尖鋭化につれて一般文壇人も右翼ブルジョア派に屬さない限り社會民主々義か、××主義か、何れかに所屬を分明にすべく清算を促される必然的傾向であつて今後の左翼文壇は、内部の清算を行ひつゝ、またもとのブルジョア文壇との對立抗爭を鋭くすると共に政治的にも尖鋭な武器として磨かれてゆくであらう。プロレタリア文藝に關する限りでは本年のそれは××主義藝術が活潑となりヘゲモニーを握るであらう。

共同製作問題の發展

社會の物質的生產の樣式が、機械の高度化と資本の集中化によつて、個人的勞働から、集團的勞働への傾向を促すにつれて、從來純粹に個人的生產であるとされてゐた文藝にも共同生產の形式が主張され議論されてきた。然しその實現は却々容易でなかつたが、遂に昨年に至つて二つの作品が發表されたことは特記すべきことであつた。その一は藝術派に屬する淺原六朗、久野豐彦、龍膽寺雄三氏の共同製作小說「一九三〇年」であり、一つは、「文戰責任創作」と銘打つた同派の鶴田知也、青木壯一郎、里村欣三三氏共同製作小說「工場閉鎖」である。殊に前者は作者の三氏が、工場、ダンスホール、ブルジョアのクラブ等に手分けして入り込み仔細に調査、觀察した材料を持ちよつて從來の手工業的手法に代るにメカニズム的手法によつて組み立てたといふ念入りなものであつたが、後者と共に作品としての出來ばえは餘り香しくなく、八方から論難された。然しこれは藝術生產樣式の革命的な試みであるだけに、最初から好い作品を望むのは無理であらう。かゝる失敗にもかゝはらず、その勇敢な實踐は確に何らかの進歩であるに違ひない。

藝術派、文戰派が共同製作といふ言葉を使つて前兩者を批判し、獨自の主張をしてゐるがいまだその實踐はなく、たゞ、大宅壯一氏をリーダーとする飜譯の集團勞働が行はれた程度にすぎないが、この派でもいよいよ本年は所謂「組織的生產」を發表すべく目下計畫中との事であるから、この派の共同製作小說も本年初頭に於て見られる事であらう。これに次いで文戰、藝術派等でも更に第二次の作品を製作發表するであらうから、共同製作は—ナツプに從へば文藝の組織的生產は—本年に入つていよいよ旺な實踐期に入り文壇の中心的問題として賑はふであらう。

「社頭□雲」―揚風庵尾崎恒子氏作―

謹賀新年　大連

大連タクシー
大連市常盤橋際
營業部長用　電話八五一四番
中央營業所　電話五七七四番　三八六八番
西部營業所　南部營業所　桃源臺支店　春日町支店　山縣通支店　若松町支店

大連製氷株式會社
大連市常盤町二三
電話四八七三・五四八〇番
電話六三二三番（作業所）

取扱主要品目
特產雜貨　大豆、大豆粕、大豆油、雜穀　米、小麥、麥粉、砂糖、罐詰類
機械其他　金屬、石炭、鑛油類、一般機械　並電氣機具及化學肥料其他
三菱商事株式會社大連支店
大連市山縣通一六五
電話代表八一五一番

お芽出度いお正月
一家の幸福は保險
大連生命保險同業會

この牛乳で始めて安心
小兒用均質牛乳　脂肪球が細かくて數が多いので滋養が豐富で消化吸收がよいなま乳同樣でヴイタミンに富む
大人用純良牛乳　御家庭用にコーヒミルク
滿洲牧場
大連市櫻町
電話代表六一三四番

重鈴本吳服店
大連市浪速町伊勢町角
電話代表五二九八番

藥品貿易商
株式會社乾卯商店大連支店
大連市山縣通
電話五〇六〇・一七九番

石綿製各種パッキング商
杉元商店
大連市榮町一五
電話五八八七・九八七番

謹賀新年
本年は更に良品廉價を實行致しますから何卒倍舊の御引立を偏に御願ひ申上ます
大連市浪速町（浪速館隣）
營口近江洋行

和洋菓子製造販賣
花乃屋本店
大連市浪速町三丁目
電話四九五九・七二〇七番

化粧品直輸入商
獨逸モーソン會社謹製
ベルケンワーサー特約一手販賣
高新洋行
大連市伊勢町二
電話八二五九番

大連市山縣通市場
電話七二三五番

大連小崗子市場組合
電話五四四六番

大連旅館組合
大連市浪速町（遼東ホテル內）
電話三六八二番

機械煖房建築材料藥種
島松商店
大連市監部通二〇
電話代表六一〇四番

滿洲船渠株式會社
大連市濱町
電話代表七一九五番

三島屋洋服店
大連市岩代町八
電話六五四九番

水道、衛生煖房、溫水設計監督
工事請負並建築材料販賣
高石商會
大連市監部通一〇九
電話三五〇二番

和洋紙文房具
水田洋行
大連市伊勢町五二（浪速町通）
電話四四八九番

文房具繪畫材料
內田洋行
大連浪速町銀座通
電話四八五六番
小賣部用　電話六九二九番

小兒科專門
金子醫院
大連市西通七八
常盤橋西廣場電車中間
電話七六六一番

吉野洋服店
大連市信濃町一二九
電話四九四六番

和洋紙文房具
光明洋行
大連市大山通五一
電話七〇五九番

和洋菓子
みなとや
大連常盤橋際
電話六〇八五番

礦油、酒精、金物、機械、保險
出光商會支店
大連市山縣通八〇
電話代表六一九一番

廣島製砥所大連出張所
鴻恩洋行
大連市山縣通一六八
電話七八七七番

家具裝飾品商
成三商行
大連市愛宕町
電話四二七五番

柴檀細工製造販賣
日支公司
大連市伊勢町二七
電話六七四八番

月星サイダー製造
月星合資會社
大連市西通
電話四五七二番

大連米穀同業組合
組合員（イロハ順）
同生厚精米所　中興精米所　遼東精米所　大矢組株式會社　大島屋商店　渡邊商店　河又出張所　大連精糧株式會社　泰東精米所　田中商店　泰宏洋行　辻山精米所（直營）　名藤商店　中矢商店　村上商店　桑野商店　山喜商店　慶和德　福永洋行　福順恒精米所　永順義　越後屋商店　協盛泰精米所　共進洋行　志摩洋行　順記精米所　城島商店　泉陽精米所　盛進商行

關東州辯護士
五十村貞俊　中野琥逸　井藤譽志雄　寺島由松　値賀連　新野尾善九　岡野勇　木原鐵之助　立川雲平　關根道一郎　竹田管雄　高橋源市　飯島滿次　諸岡靜　富永是保　相川米太郎　小野實雄　齋藤鶯太郎　米岡規雄　澁田俊介　玉置桑吉　杉野耕三郎　石山憲一　松谷竹三郎　渡久山寬常　寺島類三　大內成美　有川藤吉　河內山武雄　湯淺唯二　高橋猪兎喜　五泉賢三

滿洲日報
附録の二

世界における緬羊頭數と産毛量
産毛はオーストラリヤが第一
總頭數八億萬餘頭

世界に於ける緬羊の頭數と産毛量は一體どれ程であるか、勿論羊の最大用途は羊毛にあるが羊の種類(例へば蒙古羊)等によつて羊毛に使用されず主として食用に供されるやうな場合があるので、羊の頭數の多い國必ずしも羊毛の産出が多いとは言ひ得ない、だが然し勿論羊の頭數に比較して羊毛の産出の多いところは毛の好い羊、即ち羊毛用として適當な緬羊が多い國であるとは言へる、多い少いによつて盛んかどうかを論ずるとすれば面積との比較も必要であるがこゝには滿鐵農務課畜産係の調査になる一九二八——一九三〇にわたつての調査の數字を示さう、頭數の多いのは洲別にすると亞細亞の二億四千六百餘萬頭が一番で總計八億一千二百九十七萬二千頭といふ數字が出てゐる

地方別 ではアジアロシヤの一億三千三百萬餘頭、オーストラリヤの一億六百餘萬頭が先頭で、わが日本は二萬三千頭といふお話にならぬ慘めさ、日本の政府が滿蒙の羊に力瘤を入れてゐる理由がこの數字だけによつても充分に知ることが出來る、今洲別頭數と、地方別頭數を數字で並べると

洲別頭數(單位千頭)

北アメリカ	四八、九一三
中央アメリカ	一、九二三
南アメリカ	九四、二八七
ヨーロッパ	一九九、〇九四
濠洲	一三五、一五一
アフリカ	八三、〇五二
亞細亞	二四六、七五八
總計	八一二、九七二

主要地方別(單位千頭)

アヂアロシヤ	一三三、八八五
オーストラリヤ	一〇六、〇〇〇
ヨーロッパロシヤ	七〇、〇〇〇
北米合衆國	四八、九一三
南部アフリカ	四四、三〇八
アルゼンチン	三八、〇〇〇
印度	三五、〇〇〇
支那	三五、〇〇〇
新西蘭	二九、〇五一
ウルグワイ	二三、〇〇〇
日本	二三
其他	

となつてゐる、次に産毛量であるがこれは洲別では流石に

濠洲が 斷然他を拔いて

十一億四千七百餘萬封度で一等、總計卅六億二千六百六十三萬八千封度地方別にしてもオーストラリヤの九億二千五百萬封度を一位に、アヂアロシヤ、北米、アルゼンチン、南部アフリカ等が三億封度臺で羽振を利かしてゐるこれも數字の表で現すと(單位千封度)

洲別

北アメリカ	三八四、八六七
中央アメリカ	一、三二〇
南アメリカ	五四五、二二七
ヨーロッパ	五二七、六九九
濠洲	一、一四七、四九一
アフリカ	三九九、九六三
亞細亞	六一四、〇五一

主要地方別(單位千封度)

オーストラリヤ	九二五、〇〇〇
アヂアロシヤ	三八四、二五二
北米合衆國	三六二、四四七
アルゼンチン	三三〇、〇〇〇
南部アフリカ	三二一、九六七
新西蘭	二二二、四九一
ウルグワイ	一三五、〇〇〇
印度	七〇、〇〇〇
支那	五五、〇〇〇
其他	五五、五〇〇

となつてゐる、即ちこれ等の數字で自分達が知り得ることは如何に濠洲の牧羊が發達してゐるかといふこと、支那方面の羊が如何に原料的でそれが毛織物原料として不適當であるかといふことである、數字の示した如く支那に於けることの頭數は決して少くはないしかも

蒙古人 は遊牧の民であり、家畜は彼等の生活の根元であり、家畜の中に生れ、家畜の中に生き、而して家畜の中に死んで行く民族である、而して支那人亦由來愛畜心に富みこれを馴致する技能は遠く邦人の及ばないものがあるといふ、これ等のことを考へ合すとき支那と殊に滿蒙における牧羊の前途はけだし多事多幸であるといはねばならぬ、最後に滿鐵の資料第三十三編支那羊毛による昭和三年度の日本の羊毛總輸入高(主として濠洲より)を示すに輸入額一億八百四十三萬圓を算し、トップ輸入額三百四十二萬圓、梳毛絲三千萬圓、紡毛絲五百五十萬圓にて年々增加の傾向を示すも、一方半加工品及び製品の輸入は減少の傾向を辿り

毛織物 輸入は三千百二十一萬圓である、尚本邦毛織物産額は昭和二年末二億三千八百七十萬圓にて三年は二億五千二百萬圓即ち千二百餘萬圓を增加し年五萬圓の輸出といふ創業日尚淺きに係らず長足の進步を示す狀態である

公主嶺の滿鐵飼育場

未開拓のまゝの支那羊毛の現狀
現在の産高六千萬斤
滿蒙は牧羊の好適地

◇…支那における羊毛の總額は約六千萬斤、其うち三千六百萬斤が海外に輸出されると言はれてゐる然し現在の支那の羊は決して羊毛を採ることが主要な目的ではなく大抵が肉食として使用され、從つて羊毛の質は頗く僅にカーペット用としてのみ現存の價値を有する狀態である、しかも世界の羊毛の需要は益々增加の傾向を示し原料の不足から遂にはそれを未開の支那の富源に待たざるを得ない狀態に立ち至らんとするの趨勢にあり、吾日本また昭和三年において約八千萬斤の羊毛を使用これまた隣邦支那の發展を待望するの狀態となつた、然し前にも述べたが如く支那の羊種は何等改良の跡なく、牧羊の粗放は到底羊毛として其存在價値を有しない狀態にある

◇…勿論滿鐵や公主嶺農事試驗場山西省の模範牧場における如く試驗的には成功を收めてはゐるがそれが普及は至難の事業とされてゐる、かくの如く世界の大勢に反し支那の羊毛界は全く悲觀の現狀にあるがその將來に至つては實に多忙であるといふ事が出來る、即ち滿洲より內外蒙古、甘肅、新疆一帶の大平原は砂質地若くは黏土にして、空氣は乾燥し、牧羊上忌むべき荊棘の地はなく、疫病の發園は少く猛獸も棲息せず稀に狼の出現を見るだけで全く牧羊の好適地である、しかも別項にても述べた如く土人は古來牧羊の術に長じ改良羊種の普及、牧羊方法の改良等が完成すれば現在の飼羊頭數だけでも一億五千萬斤以上の改良羊毛を産出し得ると言はれてゐる程である、この多幸な支那羊毛界の前途を祝しながら極めて簡略に支那の羊毛の現狀を示さう

◇…羊種については大體在來種のまゝであるが支那人も地方別に見て夏羊、吳羊、蒙羊、藏羊等と言つてゐる、然しその地方のものも尾推骨を包擁して扁平な脂肪瘤がある點が同一である、羊毛産高は前述の如く大體六千萬斤、そのうち新疆、甘肅六十萬擔で、陝西地方の十六萬餘擔、外蒙古の十一萬四千擔を上位とし內蒙古、直隸、山東、山西、青海等に多く産する、羊毛の品質に就いては多くの改良點を見出すが特にその缺點をあげると

(一)品質が一定せず死毛が錯雜し、しかも各支那商で思ひくの勝手な分類をなし各口毎に千差萬別であり格付の不備な點

(二)政狀不安、運送機關の亂脈から輸出額の增減甚だしく需要者側の製造計畫が立てられぬ點

(三)步留りの不足

(四)粗毛死毛の多い點

等をあげることが出來る、而して目下の用途としては、メルトン、スコッチ、ホームスパン、毛布、絨通等があげられてゐる、

◇…羊毛輸出の取扱額は一九二九年の統計にては英國が四六%を占めて最優勢であるがこれは次第に凋落の傾向にあり、最近は支那獨の進出著るしくそれに次いでドイツの活動が目立つてゐる、輸出港は價格から見て昭和三年度では天津が金輸出額の八十五%を占めて一千三百三十九萬餘兩であり、これにつぐ大連、ハルビン、上海等がこれにつぎ總額一千五百六十三萬九千六百十一兩となつてゐる、仕向國は昭和三年には米國が殆ど全部で九〇%(千二百八十九萬餘兩)輸出し日本には三・四%(百五十五萬餘兩)を送り出してゐる、地方の主要羊毛集散市場としては蒙古貿易の中心地張家口、東部蒙古貿易の中心地赤峰、南滿における集散地であり最大の消費地である奉天を始め歸化城、錦州、鄭家屯、洮南、洮昌、ハイラル等の土地である

公主嶺で飼育の種羊に就て
雜種も合せて全部で二十種
素晴らしい試驗成績

滿洲 が農業地であるか牧畜地であるかは別問題だが兎にかく滿洲の畜産業は滿鐵會社の力によつて日々發達の道程を辿つてゐると斷定することは過言ではあるまい、それは決して支那官憲の力でもなければ彼張學良氏の力でもない、滿鐵は大正二年四月公主嶺に農事試驗場を設置して爾來文字通り日進月步畜産改良の實績をあげてゐる、勿論公主嶺が取扱つてゐる仕事は畜産だけではないがけだしその滿蒙畜産界に貢いだ功は僅少ではあるまい、滿蒙は家畜の

天地 である、滿鐵三田了一氏の調査による滿蒙の羊飼養頭數は滿洲百萬餘、東部內蒙古三百萬餘、と推算されてゐる、が然し周知の如く在來の滿蒙羊は羊毛は太く短く爽雜物も多く羊の將來に最も大きな期待がかけられてゐる絨糸、絨布に適せないためその價値は目下の所甚だ少い狀態である、滿鐵はこの世界の大勢と日本の羊毛問題の解決のために林西縣黑山屯と公主嶺に大規模の種羊場を設け大正四年に種羊として米國より優良メリノー種牡八頭牝二十五頭、サウスダウン牡牝各一頭を買入れ原種の改良につとめてゐる今參考までに

現在 公主嶺の種羊場に飼はれてゐる種羊頭數について述べると、蒙古在來種、メリノー、サウスダウン、シュロップシア、カラクールおよびそれ等の雜種等を合せて全部で二十種牡六十九頭、牝三百六十頭、劊三十頭といふ多數で主なる種類の飼育頭數を示すと

種類	牡	牝	劊
メリノー	一〇	一二	一
カラクール	一〇	五七	一
在來種	九	四八	八
カラクール在來一回雜種	四	四三	一
メリノー在來二回雜種	七	一〇	八
カラクール在來二回雜	一	四九	一
同三回雜	二	五四	一
同四回雜	一	一六	一
メリノー在來改良雜	一五	四一	二

となつてゐる、メリノー種は羊毛用として最優良の羊とされ、改良種としてもメリーとの雜種が一番好成績をあげてゐるが、毛質に於てメリノーと

蒙古 在來の一回雜種は蒙古在來羊毛に比し粗綿毛を減少し綿毛の量を增加し毛叢は密となり毛纖維は太さ、捲縮度強さ、柔軟度、光澤度鱗片の形狀及數等に於て著るしき進化を示し、更に二回雜種は性質に於て純粹メリノー型羊毛を有するものと一回雜種型と同型のものと二種を生じ、この二型の割はるゝ比は一對一の割合でメンデル氏の法則の遺傳因子一個依りに決定せられる場合の現象と同じ現象を示してゐる、而して滿鐵では滿蒙に現存する

原種 の羊總てを改良し盡すには今後約廿年を要すると言つてゐるが、その結果は滿蒙牧羊界のみならず世界羊毛界に貢獻するところ大なるものがあるであらう

カラクール種緬羊は中央アジアの産でその仔羊毛皮が滿洲の人には馴染の深い「アストラカン」と言つてあの黑い光澤のある緊密な管狀捲縮を呈してゐるそれである

メリノー
在來種二回雜種

日本は支那羊毛の研究が足りない
未開の富源に確な地盤を築け
期待出來るその將來

日本と支那との羊の關係を經濟的に見れば當然羊毛に落ちつかざるを得なくなる、昭和四年度の日本の毛織工業が消費した支那羊毛年額は僅かに八、九千擔に過ぎずそのうち民間業者が毛布、赤反、絨通等の製造原料として六千擔餘價格五十萬圓を使用したにすぎない、これを日本の昭和三年度の毛織産額二億五千萬圓に比べると全く話にもならない貧弱さだ、かくの如く吾國の支那羊毛の使用は極めて少いが果して支那の羊毛の現狀は織物に不可能なのであらうか、事實日本の毛織工業は

隣邦 に産する支那羊毛を專ら外人の手に委しこれを原料として得られる毛織物を毎年外國から輸入を仰ぐ現狀である、勿論支那羊毛としても一般織物に適さないことは事實であらうが、もつと日本としても支那羊毛に就ての研究が必要ではあるまいか、コーミングマシンによる死毛粗毛の除去、撚絲機械カーペット等も製究をされればなるまい、この他支那羊毛の使用僅少の理由として日本の技術及び機械が英國よりの輸入で支那羊毛の利用に適してゐないこと、支那羊毛が

品質の 割合に高價であることなどがあげられてゐるやうである、然しスコッチ、ホームスパン、ロシヤ毛布、絨通絨等の製造には支那羊毛は極めて好適な原料であることが種々な方面の研究から證明されたことであり、何れにしても日本及び外國向の支那羊毛品を邦人の手で造ることは日本が支那羊毛界に牢固な地步を樹立する上に最も有効な方法であらうと考へられる、然し日本も所謂世界的不況に反つて反撥されて漸く最近この支那羊毛に對する識鑑な研究の態度が次第に現はれて來たことは喜ばしい現象であつて先に

滿鐵が 中に入つて蒙古羊毛を愛知縣の試驗場に送つてスコッチ用としての研究に供した等はその好適例と言ひ得やう、吾人はその試驗の成功を祈ると共に兎に角日本が誰よりも早くこの未開の富源に確固たる地盤を築くことを切に祈つて止まないのである。

史上に現はれた犧牲の姿
羊から生れた面白いことば
蒙古氣分旺んな成吉思汗鍋

◆…羊といふ言葉は何となくわれくに言ひやうのない懷しい感じを與へいぢらしい感じを與へる「迷へる羊」「屠所に引かれる羊」そういつた言葉も羊であつてこそぴつたりと自分達の心に肯けるのであるが「迷へる牛」「屠所に引かれる豚」の姿ではどうも淋しさあはれさが充分ではない、兎に角人類文化史上の羊の位置は實に多面でまた趣味も深い、自分は今紫藤貞一郎氏の研究を拜借して羊の話を進めて行く、宗教史上の羊の犧牲の姿、詩歌文學に歌はれたあの羊の群牧畜の物語、ギリシャ神話から又は十干十二支から拔け出した信仰の羊、血を、肉を、乳を、毛を皮を、己の總てを人生に捧げてなほかつ滿足し切つた貴い犧牲の羊の群、それはわれくく人生にとつて幾多の貴い教訓を與へてゐるのだ。

◆…原始人は神々に對する恐怖から、そしてその神々に對する幸福への感謝から食物その他のものを捧げたのは餘りにも自然で、そして神々が嘉し給ふと信ずるものは結局彼等の尊び喜ぶものである、紫藤博士は羊が人類文化史上に現れた姿は實にこの犧牲の姿であつたと言つてゐる、その他キリスト教に於ては羊の犧牲は贖罪のための犧牲となり、ギリシャ神話に於ては金羊物語の牡羊はフリクサスによつて大神に謝恩の捧げ物とされた、これ等は總てやさしい羊の貴い犧牲の姿であるが、太古エヂプトにおいて聖羊がクヌム又はアムモン神の聖獸であり、ゲルマン人にとつては太陽神又は豐穰神、雷神のシンボルであつた等は一面また羊が神聖なる物として扱はれたことを現してゐる、紫藤博士はまた羊に關する字について面白い解說を與へてゐる。

蒙古在來種

◆…昔時羊を多數に有するものは君主であつた、羊のむれ即ち群と言ふ字は君の羊と書く、美と言ふ字は羊が大なりと書く、偉大な物に對する驚異の念が美感の發生であり、又大なる羊は大いなる財貨である、そしてそれに對する歡びが即ち美感であると言へる、然し異說もある、實の意味は羊が大であるといふことはその肉の味よきことを示すもので、即ち美は味よしの意味であると言つてゐる、その他養とか、羨、羊羹の小習、羊腸、羊水とかいふやうな字に就いても面白い解釋を施してゐるが、兎に角羊は味の好いものとして殊に蒙古民族、回々教徒に喜ばれてゐることは確な事實だ。

◆…北滿地方での名物になつてゐるあの野趣橫溢し蒙古氣分盛んな成吉思汗鍋もまたこの羊の料理である、嚴冬の候、戶外に盛んに火を焚き乍ら大鍋の上に羊を丸燒きに蒙古刀でその肉を切り銀の箸で頰張り乍ら痛飲、高唱する味はひは想像するだけでも心の躍るやうな心地がするではないか。

原始的な……
黃河の羊皮筏子
金川地方の羊皮船

支那五千年の文明を育んだ黃河は今もなほわれくに幾多の面白い支那古來の風習を傳へてくれる、今こゝに說明する羊皮筏子もその一つで「亞東」の十二月號で松谷登氏が興味ある文獻的な研究を發表し、三田了一氏また滿鐵經調會發行「支那羊毛」で經濟的方面で說明を與へてゐるがこれ等兩氏の研究を紹介して羊の皮の物語とする

黃河上流 交通の機關として最も特色のあるものは皮筏子で殊に蘭州上流の交通運輸機關はことごとくこれによつてゐる、而して羊皮筏子はこの皮筏子の一種で要するに羊を丸剝にして皮だけをとり前肢、後肢、首部を切斷して丸い皮の浮袋を作るか、またはその皮袋の內部に輸送用の羊毛を入れるかして、それ等のものを筏式連結したものであるゝ、松谷氏の說明では浮袋用のゝのは蘭州上流地方で使用され人が一人位乘つて悠々とその上に水瓜等を載せて下流に運んで賣却し、大抵の場合そのまゝ皮筏子を擔いで原地に歸つて行く、そしてその筏は普通

輕い木で 十二三個位を組合されてゐる、袋の中に品物を充たした筏は一連の數が甚だ多く蘭州から包頭まで運ばれる羊毛水煙等は橫七縱四十、即ち二百八十前後のもの、包頭上流から穀物を充たして下航するものは橫十、縱八十即ち八百前後にも及ぶものがある、そしてこれ等の品物が包頭で賣捌かれた後は乾燥して驢馬や駱駝に積まれて歸るか、次の航行に捕へられないものはその場で賣拂はれてしまふ、と言つた意味を述べ、三田氏はこれを見て

西寧附近 を流れる湟水は河中岩石が多く水量少きため雨後增水を待つて一時に二、三十臺の牛皮子を下航す、舟子は前後部各一人四百八十支里を三日乃至五日で下航して、蘭州に到着する皮袋は二臺又は三臺に解體して皮袋約百二、三十の大筏一臺に改造し三列又は四列として丸太に一個宛緊縛しその上に更に羊毛を積載し前後各三挺の櫂を備へ六人にて操り包頭まで二千四百支里を三十日にて下航すると說き、更に構造については普通西寧、蘭州間は一列十五、六袋のものを二列、循化より蘭州に下るものは七、八十袋を二列に連れて一筏とし蘭州より下流は概ね四列として各列三十個即ち百二十袋で一筏をなすと述べ、

皮袋一個に塡充する 羊毛は百三十斤乃至百五十斤、筏上に積載する量を合計すると蘭州下流の大筏は三百擔を載せ得ると言つてゐる

次にこの羊皮筏子の航行の時期であるが、黃河は陽曆十一月下旬から翌年三月中旬まで結氷と流氷で旅を妨げられ、又三伏炎天の時は水溫が高くて袋內の羊毛が腐敗する憂ひがあり、たゞ單に春秋二回だけに使用されるのである、もさく甘肅の奧地は今日なほ無盡藏と言はれる程の獸皮の産に富んでゐるためかうした筏が發達したものであらうが、外蒙に近く綏遠の地を流れる急流を巧に

操て行く 羊の皮の筏の眺めを想像したとき矢張り「支那らしい」といつた感じが浮んで來るではないか、なほ四川省金川地方では黃河上流の皮船同樣、羊の皮を剝いでその內部を丈夫な樹枝で張つて、そのまゝ船として川を渡るのに用ひてゐる、何分皮の船だから極めて輕い、渡つてしまへば輕々とかついで好きな所へ持つて行ける、同じ原始的な方法でも木をゑぐつた獨木船を知らないのは流石に遊牧的原始人である

羽振を利かす支那の羊皮
山羊皮を始め六種

支那から出される羊皮は羊毛とは異つてこれはそれぐく相當立派な品物を出し世界的にも名をあげてゐる種類は大體山羊皮、山羊絨皮、猾子皮、緬羊皮、羔子皮、羚羊皮の六種である以下緬羊皮を除いて簡單にこれ等の性質を紹介しやう

山羊皮は 支那到る所に飼養せられる山羊より製られ、毛は白色のものを最良とし亦數も一番多い、次は黑色、灰色の順である、山羊皮は毛が長く美麗、安價で丈夫であるため重用され敷物皮及び自動車運轉手服、軍服等特殊の方面特殊の用途を持つてゐる

山羊絨皮 は支那山羊皮の特徵をさりヘヤーを全部拔き取り絨毛だけを殘したのゝ言ふのである、北支那山羊皮は絨毛が軟かで光澤に富み世界的に有名である、色は純白のものが良く大部は米國に輸出され、また支那中流者の衣の材料として愛好される。

猾子皮は 一名小山羊皮と言はれ毛が輕く光澤があつて波狀を呈し皮もまた柔軟であるため衣の材料としての需要は極めて多い品位は皮の狀態、大きさ、毛面の波紋狀の形、艷の有無等で決るが黑色を最も良しとする、産地によつて品質を異にするため産地またはその集散地名が附せられることになつてゐる、好い模樣で黑色のものは約八元を唱へ普通は二元內外

羔子皮と は子年の羊のことで、直隸、山西、蒙古、新疆、青海、甘肅、西藏、山東等を主要産地とし毛の長いものと短いものがある、産地により非常に品質を異にし大體西藏物を最良として寧夏物、順德物、張家口物、交城物、蒙古物の順となり、西藏物は特に光澤に富み美麗であり蒙古物は他の地方産の物に比べて概して重たいことが特徵となつてゐる、値段は西藏物が蒙古物より十割乃至三十割高い。

羚羊皮は 北支那、蒙古、西藏に産し四種ある、大頭羚羊は東北蒙古に産し毛皮は他の三者に比し大きくかつ美麗、波斯羚羊は內蒙古に産し中羚羊はゴビ沙漠の西部オルトス新疆地方に産し角甚だしく彎曲し體軀は小さい、羚羊は牡だけが角を持ち其皮は敷物に製せられ大概支那人が使用するが時々厚皮のまゝ、または敷物として英米に輸出される。

賀正

大連海運業聯合會

大連醫師會

東京市麴町區八重洲町一丁目一番地
大連中央土地株式會社本店
大連市若狹町三番地
大連中央土地株式會社支店
電話三四五一番・八二三〇番

日本航空輸送株式會社
大連支所 大連市外周水子飛行場內 電話九七二三
大連營業所 大連市紀伊町八 電話五五五一

大連菓子商信用組合
濱町 花の屋本店
西廣場 同分舖
伊勢町 同支店
大山通 林洋行
土佐町 勝野商會
沙河口 のんき屋
岐阜町 木村屋
常盤橋 みなと屋

内鮮滿を一區域とする經濟政策の樹立に就て

田村羊三

日本國民が永久に平和なる經濟生活を營まんとすれば、島國日本の内地だけで自給自足の生活を爲さんとするは、結局無理であつて到底目的を達することは出來ない。されば〆云つて全然鎖國し自由通商に依る國民經濟は戰時非常の時を考ふれば之れ亦到底安心は出來ないのである。茲に於て私は日本帝國は其版圖と滿洲を打つて一丸としたる

經濟區域 を其國民經濟の基調とする政策を樹立すべきであることを提唱せんとするものである。

巨萬の國費を投じて朝鮮に於ける產米增收を企圖する一方、朝内地の豐作に際會すれば鮮米の移入を恐れ、何とか内地への送米を調節せんとするは未だしも、甚しきに至りては作の變動を忘れ邪魔物扱ひにさへせんとする傾向が見へるのは矛盾も甚だしき感がある。況んや多年營々辛苦何等國家の保護も受けず滿洲に於て米作に從事しつゝある同胞内地人及朝鮮同胞の所產の如きは全く顧みられず、全然外國所產の米穀と同一取扱ひを受けつゝあることは國家百年の計を達觀したる大局より之れを觀れば誠に寒心に堪へないものがある。之れは一例であるが仔細に現狀を檢討すれば同樣の事例は枚擧に暇がない次第である

關東州の 鹽田の如き國策を確立するに於ては日本全國の需要を充たして餘りあるものがあり其他段の如きも内地產に比し話にならぬ位の安價で供給し得るのである。石炭、鐵、材木等に於ても母國の缺を補ふに充分役立ち得るものがあり、國策の確立するに於ては前記以外の物資に於ても所謂食糧問題の解決の上に、或は工業原料として滿洲の資源を利用し得べき可能性の甚大なるものあるは實に驚くべきものがあつて、之を巧に利用することに依りて始めて我日本の國民經濟は平時戰時を通じて眞に自給自足の經濟が營み得るものなることを深く確信するものである。

異論を唱ふるもの〻第一は同一物資を生產する所の母國の同業者を壓迫し又は失業せしむる

見地より して贊成せざるものがある。之れ一應尤もの如き感あるも、昔時と異り苟くも經濟の國際競爭場裡に於て優劣を角逐せざる可からざる現時に於ては生產費の低減に對しては徹底的合理化を行ふにあらざれば終に敗者の地位に甘んぜざる可からざるは自明の理であつて、少數なる當業者の眼前の利益に累せられて國民全體をして經濟戰場に於ける弱者たらしむるは忍ぶべからざることである。と云つたからとて急激に關係當業者の生業敗滅を招くが如きはこれを避くべきことであつて要は終局の目的を最多大數の利益に置き國策を樹立し漸を追ふて其實現を計るを要するは謂ふ迄もないことである。

異論を唱ふるもの〻第二は平時は兎も角戰時に於ては滿洲と母國との交通は確保されて居ると許りは云へぬ一朝其交通路が脅かさる〻が如き時は

母國民の 生活は直に不安に陷り、到底生活の安全を期し難きを以て滿洲の物資に信賴するを得ないと云ふのである。假に萬々一論者の杞憂するが如き事態發生するとするも、そは戰時非常時、然も或特別な事情の下に瞬間的に起り得ると考へ得らる〻のであつて、それは永き平和の經濟生活を不具にし、常に不利を忍んでも内地だけで自給自足を敢行せねばならぬと云ふ論據には甚だ薄弱なものがある、況んや鮮滿と母國との交通が戰時と雖共相當長き時間に亘りて杜絶するが如き場合發生したりさせんか、此は正しく帝國は鐵火の戰ひ其物に於て旣に利を失ひたるときでなければならない。斯の如き場合にも尙考慮に入れて常時不利なる經濟生活を營まんとするは到底國家の堪へ得ざる所であると同時に、帝國の

名譽ある 武力は斯の如き窮地に母國を曝すことある可らざることを確信するものである。

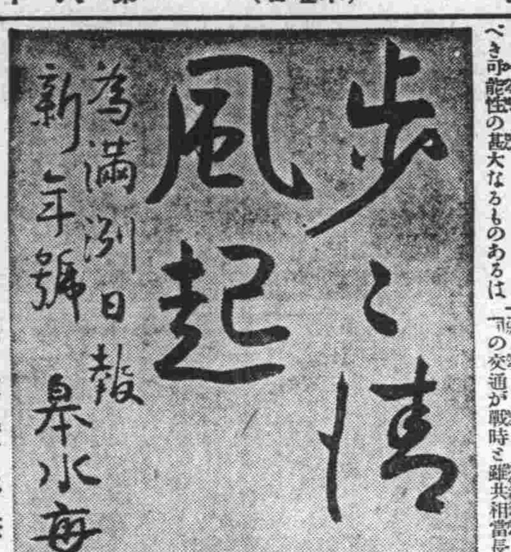
第三の異論は滿洲は結局外國であつて關東州に於ける特惠關稅制度さへ不完全な勝であり、滿洲の大部分の住民は畢竟外國人であるから此地方を經濟的にでも母國朝鮮と一括同一區域と觀ることは出來ないと云ふのである、現今の國際觀念からしても今更滿洲を日本の領土にしようなぞと云ふ時代遲れの考へを持つて居るものは識者の中にはないと信ずる、又日本が常に中外に聲明して居る滿洲に對する機會均等、門戶開放の主義に反する行動に出でんとするものでもない。寧ろ滿蒙開發第一主義を提唱するものであつて、それが爲には外國の投資も其滿蒙經濟開發以外他意なき限り大に歡迎すべきだし外國商の活動も結構である。

日本人の みが排他的に滿蒙に於ける仕事を獨占しようなぞと考へるのは寧ろ自殺的行爲であつて諸外國の感情を害する許りでなく、其經濟的開發が遲れる丈けそれだけ日本にとつても損失であるからである。例へば日本内地に取つて考へて見ても明かな通り日本人だけの力で排他排外を主義として進み來つたならば明治・新後の短日月の間に今日の發展を爲し遂げ得なかつたことは疑ひの餘地のない所である。況んや滿蒙の天地の如き天然の資源如何に豐富であつても勞銀の安き中國勞働者並に諸外國商民の活躍の參加するものがなかつたならば、日本人だけの力では現在の如き急速な開發は出來なかつたらう。こんな關係にあるにも拘らず今以て中國人士の間には滿蒙に對し日本が領土的野心があるやうに考へてゐるもの、心中ではそれ程でなくても自己の

政治上の 立場等から宣傳して居るもの等が尠くないのは遺憾である。英米其他の國々に於ても識者の間には現今では日本の立場を餘程了解して居る人々も尠くないが、それでも一般民衆の内には隨分誤解してゐるものがある。こんな事情であるから日本としては今更そんな必要がない樣ではあるが領土的野心は全然ないことを聲明すると同時に日本の生存上滿蒙の資源は缺く可らざるものであり、其經濟的開發は日本のみの利益にあらず中國は勿論諸外國の均霑するものなるは今日までの事實が最も雄辯に物語つて居ることを證明し、滿蒙において經濟的活動の關する限り所謂門戶開放機會均等の主義に反せざる限りにおいてのみ日本は自由手腕を振はんとするものであつてこれは實に日本の生存上唯一の方途であることを中國に諒解せしめ諸外國に宣明すべきである。他方日本は滿蒙の物資を

利用する 上においては關稅その他の關係において一般外國は勿論中國の他の地域と異りたる取扱ひをなす制度の確立を策し、滿蒙と其程度の特殊關係が日本の生存上已むに止まれぬものなることを承認せしむべきである。此點は現在の如く關東州の特惠關稅制度でさへ實現困難の狀態ではあるが、率直に日本國民の要求する所は領土的野心ではなく單に滿蒙の物資の利用上日本の領土に於て生產せられたるものと同一の取扱ひを認めさすると云ふ、從來國際間になかつた新しき形式、國際間の新しき關係の創設を限度とするものであることを諒解せしむるにあるのだから、舊慣傳統に囚はれて居る人々には頗る突飛の樣であるかも知れないが、國際間の關係が急速に變化しつゝある現代に於て其舞臺に立遲れしたる日本としては此の程度の新例を國際間に認めしむることは

日本國民 の生存上最少限度の要求であり當然且妥當の慾求であると信ずるから政府は先づ全國民の輿論を統一し其後援を以て力強く國際場裡に踏みだし其實現を計るべきである



朝鮮總督　齋藤實氏筆

新春景氣我觀

村井啓太郎氏談

昨年の正月に汲むだ屠蘇の香のまだ消へぬうちに、又もや昭和六年の新春を迎へる、歳月の行くや急流の如く速であつて、天地の悠久なるに比すれば、實に人生は一瞬である。

萬物は流轉し、吾地球は本日再び一陽來復の春に遇つたのであるが、地上に住む人の子の經濟界には一向春らしい氣分が訪れず、身を切るやうな不景氣風が吹き荒んで居る、世界の國々の殆と凡ては昨年も無論不況裡に新年を迎へたのであつたが、それでも、米國やフランスのやうに他國羨望の的となつた程の異常な好景氣に惠まれた國々も、中にはあつたのであるが、本年は、流石不死身の米國の財界も、深淵中に悲鳴を擧げて居り、金貨四十億圓を擁し失業者皆無を誇つたフランスも、そろ〳〵財界行詰りの兆を呈して來た今や不景氣は、例外なしに、世界の隅々まで透し、而も濃度が濃くなりつゝある情勢にある。

母國日本の財界は如何か、不景氣もそろ〳〵底を衝いたと觀る者もあるやうだが、事實はこれに反し、益々深刻になつて行く、最近の物價指數を觀るに、歐洲大戰前を一〇〇とし、英國は一〇〇、米國は一一〇と、戰前の夫れ若くはその近く迄低落してゐるに拘らず日本はまだ一三〇の高位にある、之れでは、積極的の輸出增進が到底望まるべくもない、依然として貿易入超、正貨流出を續けて行き不景氣は去らぬであらう、[illegible]滿洲も御多分にもれない、歐洲向大豆の輸出は一向に冴えぬし、豆粕の日本向輸出も、豐作饑饉に惱む農家の懷具合では、到底見込薄である、年產四百五十萬噸の之等特產品は本年は一體何處にはけ、値段は何の點まで落込んだら納まるのであらうか、銀價の前途も全く闇である、上海ストック二億オンスの倍以上もある印度の過剩銀は絶へず支那市場を狙つてゐる、此の一事だけでも、異常なる先安が懸念せらるゝではないか、特產安、銀安は、此處でも亦農民購買力の減退を意味し、ひいては、輸入貿易の不振、金融市場の萎縮となる、之れでは、財界の前途は、今のところ、眞暗で、何等光明を認むべきものがないと云はればなるまい。

だがしかし、悲觀は禁物である資本主義は今や崩壞期にあり現在の不景氣は恢復せぬといふ「マルキスト」の言などに脅かされてはいけない、循環運行は宇宙萬有の一大原則であつて、吾地球が其軌道を一巡し、今日新春を迎へたが如く、此の深刻なる不景氣も、好景氣に轉換する時が必ず來るであらう、之れをマルクス一派の辯證法を借りて云ふならば、其れ自身を「否定」して不景氣となつた好景氣は、所謂「否定の否定」によつて、再來するであらうことは必定である、但しそれには相當の歳月を要する、但し、隱忍して之を待たなければならない。

昭和六年の海運

高見三吉氏談

我國は昨年金解禁を爲し財界の立直しに着手した。時恰も世界的不景氣に遭遇したるため其の影響を感ずる程度も一層甚だしかつたとは我政府當局の説明である。昨年世界的不況のため各國荷動きは極度に不活潑であつた之は全般的信用の縮小並に購買力の萎縮に依るものと見られ此の結果船腹過剩、運賃は暴落した。併し世界的船腹過剩の他の一因は小麥の世界的出廻り減に依る此の噸數のみにても一ケ年二百隻以上の船腹過剩となり、從つて之等穀物輸送船に對する供給炭貯藏場への輸送船腹の需要減並に支那銀塊の暴落、印度の政情不安並に排外運動、各國保護關稅政策に依り物資の移動減少等の原因に依りて船腹の過剩は相當の數に上つた。其の外我國にては米國向輸出生糸は本年十月迄の統計に依ると昨年の半數約十七萬俵に止まり農村の疲弊は肥料の輸送を少からしめ對支貿易は終始沈滯し建築界の不振は北洋沿海州及北米材木の出廻りを減退せしむる等々惡材料續出に運賃市場は常に壓迫され傭船料不振の紛議等屢々起り繋船は四千餘萬噸の多數に上り空前の不況裡に越年をなしたのである。

然し吾人は之が爲めに徒らに前途を悲觀するものではない。勿論樂觀も禁物だが悲觀萎縮は樂觀よりも尙危險とする、成程昨年は財界不況のため事業會社にして整理縮[illegible]れたものが多かつた中には閉鎖のものも可成あつたであらう財界全般から見れば寧ろ昨年の不況により積年の病弊が暴露され根治の氣運が早められたと見られ得るのである。茲に眞に實價健全分子としてのスタートを切るべく一大轉換機が與へられたのではあるまいか、旣に物價は小賣物價以外は此の上大した下落はあるまい有價證券も略安定したとは政府當局の言明である、銀塊も印銀の流出が無い以上此の上大なる變動はあるまいと云はれてゐる、果して然らば本年は昨年の滯貨を初め一般物資の移動は量は遙に增加しないとしても漸次順調に發展し行くであらう。一方又海運經營の合理化氣分も以前よりは餘程濃厚になつた、昨年合同經營の先驅をなしたドイツの二大汽船會社、ハンブルグ、アメリカ社、北獨逸ロイド社の五十年間提携は往年のピーオー及び英印社の大合同以上に世界海運業者に一大センセイションを與へた、其他アメリカ船舶院が最近認可した三大航路協調の如き如何に我海運業者を刺戟したか、之等の事實は我海運業者をして無謀の競爭を避け合理の常道に入り内各社の協調を計り外世界海運市場に於て外國船と伍して一大飛躍を爲すの覺悟を一層鞏固ならしめ一方勞資協調と海陸員協同一致は漸次效果的となりつゝある現狀より推して目下例令難局に面すると雖も漸次斯る狀態を脫し光明の彼岸に進み行くであらうと思ふ（昭和五年十二月十四日）

年甫を迎へて

小林和介氏談

歳華こゝに更まり昭和辛未の新春を祝ふと共に本年も相變らず關係各位の御後援に待つて渾身相努め一意取引市場の圓滿なる發達に精進したいと念願してやまぬ次第であります。

回顧しますれば昨五年は本邦に取り多年朝野の懸案であつた金解禁の斷行を見た最も意義深き年であり同時に世界的不況に見舞はれた經濟受難の年でもありました。又一方中華民國に於ては秋冬漸く戰亂終熄し南北統一を見たのでありますが、銀貨使用國として銀價の漸落殊に有史以來の慘落に遇ひました爲め、其の國際的影響は甚大でありまして當地特產及錢鈔市場に於ける騰落は時々氣味惡く感ぜられたこともありました。いま當所重要物產取引の市況其の他に付いて見れば、この不況時に拘らず取引所は殷盛を極め各品相場も一時非常なる高値を見ましたその大豆先物取引高は十二月十八日迄に十一萬五千餘車の多きに上り、茲數年間の最多取引となつて居ります是れ彼の北滿露中紛爭事件の爲め全滿洲ノ商談を殆ど當市の傘下に包擁したかの如く一段の取引盛況を見せた一昨年に比べても尙五割以上の增加を示して居ります、そして四六時中市場に投寫した細い事は、措きまして大勢の動き方を觀れば當初滿洲の品兇れと共其後の逆鞘續きに外輸不振勝ちに推移し二月頃には露中問題の解決と共に貨物の東行回復南下減少の氣構へとなり又銀貨は六十圓臺に區々にして市況の前途逆睹し兼ねて產地の買構へもあり折柄海外滯貨の漸次消化說に聽て仕易くなるとも見られ亞で小暑の頃より一般特產物の豐作人氣ともなりまた銀安の爲めに運賃洋建の中國鐵道に依る方が有利なるを唱へられたり乃至は海外の輸寄說など強弱參差の題目を離し立て、漸く仕手の腰入多くなり殆ど大豆に人氣集中して一段の旺盛を呈しました、大豆は年初より八月までは每月七、八千車の取引でありましたが九月以降は一萬車以上の多量取引を示して居ります、高粱に就ては每月二千車乃至五千車總出來高四萬二千餘車となり、豆粕、豆油は一進一退時々消長がありますが兩者總出來高二千五百四十八萬餘枚後者二百七十萬三千函結局これ等三品前年に比べて若干の減少となつては居ります併し大豆の增加と差引き全體を通算して前年より一割以上の取引增加となつて居ります、それから相場の歩みを見れば所謂山あり谷ありて今向仕手の策動振りが躍如として窺はれます、これを大勢上より云へば上半期は漸騰を辿り年初には先物三限銀建公定相場に於て大豆六圓八十八錢、高粱四圓三十七錢、豆粕二圓二十八錢五厘、豆油十八圓七十錢でありましたが七月には大豆八圓四十六錢、高粱五圓二十七錢、豆粕二圓六十五錢、豆油二十三圓九十五錢といふ高値に躍進し下半期は落調となつて十二月十八日には大豆六圓二錢、高粱二圓四十[illegible]錢、豆粕一圓八十八錢五厘、豆油十八圓三十錢の安値になりました。只遺憾なるは本年大豆及高粱の現物受渡高の割合が例年に比し稍少なる所がありました是は不景氣やら運賃等の關係にて大連港輸出の減退が一原因と思ひます。

次に錢鈔市場に就いて觀ますれば本年一月休會中各地銀塊相場の崩落したので四日初立會には鈔票は七十五圓四十錢と昨年末の引値より一圓六十錢安に生れ翌日低落を示したので各方面では銀價下落防止策を講ずる氣運が濃厚となり之れを強材料とし一月十一日日本の金解禁實施當日も銀價には何等の影響が無く十三日には米國西部山休業の噂に本年の最高値七十六圓五十錢に急騰しましたが其の後銀塊相場の軟化に低落歩調となり三月一日印度銀塊輸入課稅案可決の報に各地銀塊相場一齊に暴落し鈔票も六十六圓八十錢に落ち次で五月十六日突如南京政府は銀價維持策として金塊の輸出禁止及外國銀貨の輸入禁止を發令即日實施した爲上海市場に大なる衝動を與へ相場の激變を見ましたが結局失敗に終つたのみならず上海市場に於ける從來の標金と爲替との相對關係を破壞し其後は兩者獨特の相場を現はすことゝなり從つて鈔票との密接な關係も失はれ鈔票は寧ろ爲替相場に追從する傾向となり又銀塊新安値の入電と共に相場の動搖甚だしく六月三日の如き最高五十七圓三十五錢最低五十二圓七十錢其値開き實に四圓六十五錢を示し翌四日には新安値五十圓六十錢に陷落しました。其後六、七の兩月は五十圓臺に安定し中國の時局懸念、印度の獨立運動等を材料に強調を辿り八月廿一日の高値六十二圓五十錢を最後として再び軟化し九月に入り日本政局不安（ロンドン條約樞府通過難）を材料に稍硬化し二十九日には五十七圓五十錢に墜落し更に本年度中國農作物の豐饒は銀の需要增加を豫想されましたが世界的經濟界の不況は中國の輸出增加を示さない上に共產黨土匪の蜂起は長江沿岸の貿易を阻害し奧地への銀の流出上海在荷減少の期待は全く望みがなくなり其結果各地銀塊相場の低落を誘致し反對に中國關稅改正に依る見越輸入の增加は爲替相場を硬化し十月二十三日日米爲替金解禁以來の高値四十九弗十六分の十一に上伸し鈔票は五十五圓五十錢に落ち十一月十四日濱口首相狙擊の入電に前日の引値から一圓五十錢暴騰し五十八圓五十錢に寄付いたが首相の經過良好の報に人氣落付き相場も寄値を高値として反落し越えて十二月に入り海外銀塊の落潮急を告げ鈔票も之につれて日々低落し十七日ロンドン銀塊相場は現物先物とも十四ペンス半と有史以來の新安値を報じ上海標金六百五十八兩五の高値に突進し鈔票は五十圓五十錢に陷落し十八日は更に標金六百六十四兩五の新高値を示し鈔票四十九圓五十錢に慘落新記錄を出したのであります。

斯樣に本年は銀塊標金爲替等の海外材料は多く新記錄を示し鈔票も亦市場開始以來の新安値を殘した樣な次第で本年の銀界が如何に多事であつたことを物語つて居ります從つて日本の金解禁後は取引の減少を一般に豫想せられたるに反し却て其取引高も十二月十八日迄に二十二億五十六萬五千圓といふ近年にない成績を示し大正九年の當所最高記錄二十二億三千七百九十萬圓を突破しそうな勢ひであります。

賀正

吉林

吉林總領事　石射猪太郎
吉林副領事　長岡半六
吉林滿鐵公所
吉林滿鐵公所長　濱田有一
吉林總領事館　工藤正次
吉林燐寸株式會社
吉林製軸株式會社
吉林燐寸株式會社　久彌田孫兵衛
滿鮮坑木株式會社吉林支店　前田利則
泰山行　山下峻
合資會社富士號　今村知光
滿洲銀行吉林支店　鈴木良太
博濟醫院　小松徹
吉林木材興業株式會社
高等旅館　名古屋館
高等旅館　日清ホテル

貔子窩

貔子窩市場株式會社　電話二八四番
食料品雜貨　共益購買會　電話二六番
常盤旅館　電話一一五・三三番
貔子窩驛長　石田英隆
夾心子驛長　成田勝仁
李家屯驛長　坂井茂彦
清水河驛長　秋山豐太
杏樹屯驛長　山崎勝治
御料理　松乃家　貔子窩市街　電話三八番
初香旅館　貔子窩市街　電話一六番
活版印刷、藥種雜貨、各新聞取扱　佐藤生々堂　電話三一番

貔子窩警察署長　清水澂　電話一八三番
猪苗代直躬
田上乾吉
渡邊喜兵衛
貔子窩郵便局長　鷲見保承　電話一五〇番
大日本鹽業會社貔子窩出張所　小川鶴吉
貔子窩郵便局長　新豐彌兵衛　電話五〇番
貔子窩金融組合理事　松井廣治　電話一四三番
貔子窩病院　大人榮次郎　電話一九三番
貔子窩公議會　電話一三二番
御料理仕出し　一力食堂　電話一二七番
食料品雜貨　織方商店　電話一三〇番
運送業福泰公司内　香山峻
和洋御菓子　玉木屋商店　電話一九六番
建築請負業　竹原三郎　電話一五九番
食料品雜貨　武藏屋　電話一二九番
和洋御菓子諸雜貨　黑田商店　電話一七五番
藥種賣藥　大和堂藥房　電話一三八番
カフエーマツヤ　電話一三六番
御料理仕出し　小梅　電話一四三番
御料理　喜樂　電話二〇六番
三井蓄音器店
寫眞　光尾又六　電話一八一番
貔子窩旅館　電話一一三番
長谷川春峯　電話二〇九番

スポーツ天國の出現
31年の滿洲運動界は多事多端

林田學

神武天皇御卽位紀元二千五百九十一年を迎へて先づお目出度うと祝意を表する

年々歳々運動競技の普及發達を念頭に置いて唯一直線に進むわれ／＼には相變らず今年は今年はで暮れる事が多い、しかし二千五百九十一年こそは滿洲數年來の希望否全日本の多年の懇望を達し得る第一の快事が目前に迫つて居る、それはスケート選手の歐洲派遣である、滿洲のスケート界はその歴史に於ても最も新らしいがその進歩の程度は他に比類を見ない、しかもそのレコードは今や世界のそれに匹敵するものがある、スケート界では世界のスケート界と滿洲のスケート界との比較を欲し數年來から歐洲選手の招聘を企てた事もあつたが先方の都合で容易に實現出來ず今日に至つたものである滿洲否全日本のスケート界も多少行詰りの觀が無いでもないから滿洲體育協會に於ては一層のこと滿洲選手を日本代表として歐洲へ派遣して歐洲選手權大會及び世界選手權大會へ參加せしめてその實力を試したがよいといふ事で日本で初めての破天荒の事業を計畫していよ／＼派遣することに決定した選手の出發は來る二十日である、われ／＼は滿腔の聲援を派遣選手に寄せてベストを盡して世界の一流選手を向ふに廻して華々しき一戰を交へんことを期待してゐる、滿洲のスケート界はこの歐洲派遣によつて本シーズンを一轉機として異常なる發達を遂げるものと信ずる

新年の劈頭から一般人士がたゞ屠蘇酒のみに醉ひしれず氷上の快味を十二分に滿喫せんことを！

しかして歐洲の天地に活躍するわが代表選手の健鬪を偲ばれんことを！

新らしき年の初めに於て世界相手の大事業に手を染むるわれ／＼はこの年の運動競技はすべての方面に於て活氣を呈するものとの豫感を覺え緊張せずには居られない

去れる年に於て旣に芽生えたる幾多の日華對抗競技は本年度に於ては益々その成長を感ぜられる

北支を代表する東北大學軍の活躍その後に於て馮庸大學軍の挑戰等は日華兩國選手のみならず兩國青年の思想が運動競技を通じて如何に融和し、如何に親密に赴くかを立證して認める結果に外ならない、われ／＼は運動競技はすべての政策を排するものなることを高潮するものであるが、その純眞なる運動競技を通じて兩國青年が互にスポーツ精神に於いて眞の結合が圖り得るとすればそは望外の收益として甚だ結構な事である、われ／＼は外交家にもあらず政治家でも無ければその眞偽は知らざるも、新聞紙上に於て散見するところによれば日華の交渉一つとして圓滿に行かずと聞く、われ／＼の携はる運動競技に於てはすべての交渉すべての問題も兩者間に於ては悉く圓滿に進捗せる事と思ふ時純眞なる者の和合融和は茶飯事であると信ずる

われ／＼はかゝる意味に於ても日華兩國青年の中間に立ちて甚だ交渉の益々澁からん事を望んで居る、しかして世界の視聽の中心たる滿洲の天地に眞のスポーツ天國の現出を望みたい

未と野球

中澤不二雄

＝未の年＝ 昭和六年、一九三一年、三つ並べて見る、昭和六年も一九三一年も共に初めて御目にかゝる年だけれども、未―羊の年だけは十二年振りの再會だ十二年前のヒツジの年は大正八年に當る、昔なつかしヒツジの年を年の初めに回顧して、野球と羊の緣故を調べて見るのも廻り合せたヒツジ年への敬意ばかりでなく野球の選手にも觀衆にも大切な事かも知れない、何故ならば！昭和五年、一九三〇年、呼聲も威勢が好く、そこへウマの年と活躍を象徵するかのやうに思はれた昨年度の滿洲 **＝野球界＝** は、ヒンと跳ねたが三世相ときて初め好く後惡し、六年度第一の目標であつた慶應には滿倶も實業も彼に連勝の榮譽を與へ、黃金時代の奉天も勝を逸し、滿倶は三度大連に渡つた全國都市對抗の大優勝旗を手放すの有樣、こりやウマ年は滿洲野球界に惡いのかと思つたら！殷鑑遠からず、內地の大學リーグ戰も荒れに荒れて遂に多年の、ダーク、ホース（謎の馬？）法政が優勝してしまつた、慶應の腰本、明大の岡田兩君がウマ年は苦手だと言つたかどうか？、但し謎の馬の法政は一躍駿馬となつて今春萬里の波濤を越えてアメリカ遠征に赴くから今春こそ待つていた御兩人が逃がした馬？は大きいとは思つたに違ひない閑話休題、十二年前のヒツジ年大正八年の內地球界を調べて見ると！

＝法政が＝ 正月早々臺灣遠征を試み八勝一敗、その時の選手中、岩田、岩崎、宮永三君がその後大連に就職した、春、早慶は共に明法に全勝（早慶不戰時代）法政は明大に二勝一敗（この時明大は實業の安藤君が主將で當時滿倶の北川君が左翼手）、五月早大は一高に六對四、慶應も一高と戰ひ一對零（この試合私が球審、安藤君が壘審）で勝ち共に前年の雪辱をした、夏、慶應は滿支遠征秋、滿洲倶樂部の內地遠征（共に大連の項で詳述）法政は早慶に連敗、明大は慶に連敗、早に一勝二敗、法に二勝一敗、十一月、當時の社會人野球の最高試合、全關東對全關西との試合は四對二で全關東の勝、（全關東の主將遊擊が私三壘手が現實業の平出君）これは大阪朝日の主催で大變な人氣があつたゝめ大毎が野球部を作る原因となり當時の全關西の中堅所が大毎に入つたので此の催しは此の年を以て中絕してしまつた、更に大連球界を顧みると！

＝滿倶は＝ 八月慶應を招聘して緊張した試合をしてゐる即ち一回戰三對二で勝ち、二回戰は六對一で負け、決勝戰は十一回の延長戰四對三で惜敗、一方實業戰も奮戰し一回戰三對一で勝ち、二回戰は七對四で負け決勝戰は十二對三で負けてゐるけれども、いづれも時の覇者慶應を決勝戰迄追ひつめて緊張戰を示してゐる（此の年實業へ石本投手入部）更に滿倶は十月內地遠征に出發、京城で一勝一敗、釜山は四對零で勝（此の時釜山投手現實業の岩瀬君）、內地に於て、對法政には十三對二で大勝、慶應には六對一敗、明大には四對三で惜敗、一高とは四對一で勝（私が球審）、早大には十對一で敗、同志社とは十對一で勝 **＝全關西＝** とは三對零で敗、即ち五勝五敗であつたけれども滿洲の野球を內地に紹介し事實滿倶の名聲內地球界を風靡するの狀況であつた、爾後星霜十二、廻り來つて、ヒツジ年、十二年前の如く滿洲野球はかゝる滿洲球界の活躍を見てゐるとヒツジ、世は擧げて野球流行、野球狂時代とさへ謂はれてゐる今日、私共は此の十二年振りのヒツジに對して恥かしくないシーズンを迎へたいと思ふ、人、私の理想を問はば、私はかく答へるであらう！「羊頭をかゝげて虎肉を賣るの類」と。

新人躍り出でよ

渡邊諒

▼…立上君が來て新年紙上に何か書けとの仰せである。O君に賴めとすゝめたら貴君の方が名前が通つて居るからとて斷然承知しない。毎年々々同じ野郎が年頭辭を述べるなんてそれ自體無進歩の表徵だ。其時々のメイン、カレントを捉へてゆくのがジャーナリストの本道であるとしたならば立上君の行方はそれで好い、しかし少くともラガーマンとして活躍してゐる立上君であるからには余輩の勸告を一蹴したに就いて惡口を云はれても仕方がない、立上君と云ひO君と云ひ個人を引ッ張り出して誠に相濟まぬ次第だが全滿ラガーマン代表として槍玉に上げたのだから惡しからず御諒恕を賜りたい

▼…さて滿洲のラグビー界を技術と統制の兩面から眺めることにしやう。余輩はこゝでふと昭和五年の新年某紙上で、現在のリーダーシップの窮極の面目は滿洲のラグビーが滿洲育ちのラガーマンによつて支配されるやうに仕向けることである、と陳べたのを思ひ出した、其時から恰度一年經つた、然るに技術の方は遺憾乍ら一向に進歩して居ない、それが證據に今オール滿洲軍を組織するとしたら桂、星名、野口、今泉の諸君を中心にシートを定めねばならないであらう、滿洲プロパーのラガーマンだけでオール滿洲チームの出來上る日が待ち遠い。

▼…技術が發達しない、換言すれば相變らず強くならないと云ふ事の原因は種々ある、シーズンの短い事、現在のリーダー達の不熱心なども數へられる、しかし余輩は滿洲プロパーのラガーマンの主なる母胎たる諸學生ティムの無氣力を最大の原因に擧げる、今年から選手權大會めざして試合數を增す方針をとつた、この方針を最もよく實行したのは大連滿鐵ティムであつた、然るに學生ティムは何うか？近來頻々余輩の耳朶を打つものは、選手權大會を止めた結果、工大や醫大の本科連中が緊張しないから選手權大會を復活して、とかリーグ戰をやつて第一位を決定して欲しいとかいふ聲である。これに對して余輩は學生ティームともあらうものがクラブ、ティームとの爭覇を目標にしなければ眞面目にやれないなんて何たる情ない言葉でと申上げ度い。

▼…本格的に云ふならば醫大は工大のほか相手になるものはない筈、インターカレッヂはその自體が參加諸ティームの最高目標であらねばならぬ、滿鐵や大連クラブなんざあ遊軍に過ぎない、むしろ學生ティームに氣力のないのはラグビーに限つた事でない、これは滿鐵當局の滿鐵中心主義の犧牲になつたもので滿洲のスポーツ界の癌はこの弊の打破にある、併し旣に滿鐵當局の力を直接うけないだけの機構の完成したラグビーは縱橫無盡の發展を遂げて然るべきなのである、工大や醫大にしろ何も綜合對校競技の名に囚はれて無理な試合をする必要はないシーズン酣の絕頂期に滿洲のケンブリッヂ、オックスフォードとして堂々斯界を壓し去る元氣はないか、滿鐵や大連クラブとの試合なんか其練習試合である位の意氣込であつて欲しい。滿洲のニュージランダースは學生諸君ゝ中から生れずして何處にその搖籃を求むべき。

▼…技術の問題に關聯して一言述べて置き度いのは競技規則の解釋と適用の問題である。元來プレイアと云ふものは多く競技規則に無關心である、これは單に我邦のみならず英本國あたりでもそうであるらしく思はれる節がある。併し滿洲のプレイアは無關心を通り越して無知に過ぎる、そして無知の故にゲームを汚くしてゐる、この點は余輩等の責任の重大なるを思ふもので、若し事情が許せば余輩は今冬內地に赴き當代の權威者に就き教へを乞ひ且ゲームの實際を見て知識を廣め歸來後何等かの方法に於て結果を御披露し度い希望を有して居る、これと共に滿洲のラガーマン諸君が本氣になつて吸收して呉れれば效果の甚だ薄きは今更喋々を要せぬ。

▼…翻つて統制の方面から見やう、元來余輩や他の內地渡來のラガーマンは奇體な譬へやうだが本部から派遣された旗本である。ところでこの旗本は本部の指令と自己の經驗とに基いて統制の形式を完成し去つた、本部との連絡の整頓、會員の統率、行事の配置、滿鐵會社の正式承認、專用競技場の目論見などと兎に角曲りなりにも基礎的な機構は出來上つた、この上は何人がこの機構に滿洲プロパーな魂を入れて運轉して行くかの問題が殘る。

▼…然らば旗本か？否々旗本は滿洲プロパーな魂を持ち得るであらうとは思はれない。事實旗本は使命を了へたのだ。彼等には去るべき時が到つたのだ、滿洲で育つたラガーマン達よ、今こそ卿等が蹶起して自ら滿洲の土を耕すべき時が來たのだ、新人躍り出でよ。勿論卿等が自ら手を下して機構の運用に當る時必ずや今まで旗本のやるのを傍觀して感じた如き容易なものでないことを痛切に知るであらう、余輩は卿等を樂な道に乘出させやうとして居るとは思はない、またそれが不都合なことだとも思はない、前途の難關は必然的に來る、その時は朗かな滿洲プロパーな魂を以て征服して呉れ。

▼…船は艤裝を終へて岸を離れんとする。再びいふ新人躍り出でよ。しかして卿等自ら帆をあげ、舵を操れ。余輩は年改まるこの曙に、この船に幸多からんことを祈るのみ

ソッカーに就て

飯澤重一

ソッカー・チームの存在しないのを斷然歎いたものである。

一昨年夏、東都の强豪早大チーム遠征の報を受けた時、實に滿洲にはそれを相手に戰ふべき一の邦人チームも存在しなかつたのである。發生すべき多くの機緣と、發展すべき絕好の環境とを多分に持ちながら、日本のフインランドはそれまで一のソッカー・チームも生れて居なかつたのである、これは極めて不思議な現象であると同時に凡そ淋しい現象でもあつた。

私と朝倉とのチーム編成の下話はそんな狀態を前にして持上つた。出來るならば早大を迎へる前にもと思つたけれどそれも駄目。身の廻りの連中で多少經驗のある選手を中心に形ばかりのチームを作り出して、それでも氣だけは天晴滿洲の邦人代表のつもりで「大連ソッカー・リーグ」を中華、隆華兩チームとの間に組織し、十一月第一回リーグ戰を開いたけれど成績は芳しからず、遂に一度も名を成すことなくして最初のシーズンを終つた。然し、私達はチームの手を流れる氣分の中に斷然來るべき年への飛躍を感じることが出來たのだつた。

日華對抗競技の愈々實現された時は、中國側の自信は何と云つてもソッカーにあつたし、先輩岡部氏の如きも、「若し、全大連チームが五點の差以內に喰ひ込んだなら、何んでも奢つてやる」と云はれた位だつた、事實東北大學のチームも强かつた。由來ソッカーは中國の國技である。曾て極東大會で我が選手がどれだけなやまされて來たことか。フフト・ワークが先天的 異る彼等にはキックの點では全く一籌も二籌も輸せざるを得ない。殘る問題はパスとコンビネーションである。大人のチームの中へ、勇敢にも滑り込んで行く子供の態度である。然し、それが案外功を奏して、東北とは一對一のドロン・ゲーム、馮庸とは二對〇の敗、最初の大試合としては特筆すべき結果をかち得た。

本春は、奉天遠征を計畫して居る。それとも一つは更に多くの邦人チームの發展の計畫である。年末撫順に行つた時に、一友人にもそのことをすゝめておいた。せめて撫順、奉天、大連位に各チームを有して、都市のリーグを開きたいと思ふのである。

ソッカーを國技とする國の中に居る限り練習相手に不足はない。二年や三年の練習では到底勝てないやうなチームが、各都市に二つや三つは必ずある。

スポーツは勿論スポーツ自體の外に本格的な目的は存在し得ない。然し、必然將來し得られる副位的な效果は之を目睹することを非とするものではない。ソッカーが持ち來らすもの、それは私達が默つて居ても自然に了解される。

斯てソッカーは益々發展する。「乞食の子も三歲」今年からの活動こそ見物であらう。私達は、極めて順當な氣持で此年を迎へる。

今頃、東京では、恒例のインターハイのソッカー戰が雪と泥濘の中で行はれて居るとでもあらう。

この地にこそ、このゲームの培はるべきことをしみ／＼思ふ。

賀正

瓦房店

瓦房店地方事務所長 小野寺清雄

庶務係長 吉田庫人
地方係長 有田俊次郎
經理係長 足立三郎
松樹出張所長 藤原藏吉

瓦房店警察署長 佐藤雅助

瓦房店郵便局長 鈴木悅之助

松樹郵便局長 執行兼種

瓦房店機關區長 福田又司

瓦房店驛長 石井忠一

瓦房店電燈株式會社 專務取締役 谷保太郎

蓋復鹽務緝私局長 烏森

瓦房店圖書館 主事 三浦由之助

瓦房店消費組合 主事 鳥海岩藏

瓦房店小學校長 中條幸七

松樹公學堂長 山路猶龍

瓦房店用度事務所 大石清次

大連工事事務所 瓦房店工事係 安藤勝 廣部虎二

瓦房店醫院從事員一同

瓦房店保線區員一同

瓦房店機關區員一同

瓦房店驛員一同

瓦房店常盤街 瓦房店電燈株式會社 電話一七・三一番 支店 熊岳城

盛進堂藥局 高井彌十郎

石炭販賣 共榮號 森田彥三郎 電話一一番

石炭販賣 川上洋行 電話一二三番

瓦房店家庭研究會

御料理 筑紫館 電話一五番

御料理 瓢亭 電話七三番

倶樂部食堂 槇戶喜一郎 電話一〇五番

瓦房店地方委員 石丸幸作 渡邊協 松尾新藏 永島賴 犬塚貫之 脇川省吾 土屋熊三郎 板橋喜久治

松樹地方委員 山路猶龍 森修一 品川重吉

松樹區長 高橋彌一郎

瓦房店工友會

滿洲果樹組合

南滿洲煙草耕作組合

井上組 井上伊七郎 電話七六番

親切丁寧 御旅館 榮旅館 電話六九番

瓦房店實業昭和會

瓦房店公學堂職員一同

瓦房店列車區員一同

普蘭店

普蘭店民政署職員一同

普蘭店警察署職員一同

土木建築請負業 新谷健二 電話四一番

落花生及特產商 大澤商店 電話一〇番

普蘭店商務會 會長 王心純 副會長 薛慧堂 董事一同

普蘭店警察署長 牧田太猪藏

豐島醫院 豐島慶三

赤十字社支部 今泉牛五郎

普蘭店郵便局長 山中數雄

普蘭店小學校長 井神貞一

普蘭店公學堂長 高田九郎

普蘭店驛長 福井十一

普蘭店居住民會 今西修次郎

滿洲銀行支店長 近藤次治

普蘭店金融組合 鹽澤角兵衛

從來の川上農園を分離し青龍園と改稱致候間舊倍の御愛顧を願上候
得利寺驛前 青龍園 池田清 池田三次郎 振替口座大連二四四三

得利寺驛前 果樹及苗木 木幡農場

三十里堡果樹組合

產婆 高橋富代

大連新聞支局 藤沼長吉

滿洲日報社支局 板橋喜久治 武知洋行 松崎林兵衛 橘政一

謹賀新年

奉天

（順次不同）

小倉鐸二
稻葉逸好
林榮
[illegible]
長谷川修
吉川之康
[illegible]
入江正太郎
前波仲尾
宇中清
[illegible]
中野善代一
[illegible]
庵谷忱
岐部與平

賀正　吉京吉
高橋清一
花井脩治
遠藤眞一
椎名義雄
錦織足喜代
香取眞策
手塚安彦
藤田九一郎
原田孝七
中京操
龜山正雄
安田賀道
江原弘
森山邦人

岩元岩次郎
三谷末治郎
辻眞郎
名和長正
安藤基平
明日勝
波田吉太郎
奥田周
鈴木西雄
青木佐一
森下知次郎
高橋由太郎
北村廣德
大野篤雄
野添孝生（忌中に付年始挨拶を缺禮仕候）
神宮敏雄

奉天警察署
領事館警察署
警視　立川俊三郎
警部　中村延四郎
同　平野茂作
同　小坂淑逸
同　澤田岩松
同　松井盛隆
同　河野良一
同　小松統祥
翻譯生　高田仁藏
同　福島潔
同　福山直二

滿洲醫科大學
僚友會員一同

社團法人滿洲土木建築業協會
奉天支部

奉天地方委員
鹽尻彌太郎
萩原昌彦
有川藤吉
藤卷快敎
中田卯吉郎
大西榮吉
井上彦三郎
椎野鋒太郎
坪川與吉
鯉沼忍
赤塚眞清
石井作太郎
安倍袈裟男
佐奈木十郎
山本謙幹
木谷辰巳
尾崎濟
賈連閣

東亞勸業株式會社

合名會社 大倉組奉天出張所

奉天取引所信託株式會社

株式會社 大連機械製作所
奉天支店

株式會社 滿洲取引所

水陸産物委託販賣並に賣買
紀州柑橘同業組合聯合會指定問屋
奉天滿洲市場株式會社
電話(局)二六三六番

奉天金曜會
東洋拓殖株式會社奉天支店
横濱正金銀行奉天支店
正隆銀行奉天支店
滿洲銀行奉天支店
朝鮮銀行奉天支店

滿蒙毛織株式會社
專務取締役　遠藤眞一
常務取締役　椎名義雄
本社　奉天皇姑屯　電話代表(局)五二一一番
營業所　奉天浪速通十七番地　電話(局)三七二八番四四六〇番
直賣所　奉天浪速通十七番地　電話二九六二番　振替口座大連二六一九番
東京事務所　東京麴町區山下町一ノ一東洋ビル内　電話銀座五四七五番　振替口座東京四八二三六番

奉天窯業株式會社

奉天信託株式會社

奉天金融組合

奉天土地建物株式會社

奉天染業組合

奉天旅館組合

奉天新聞販賣同業組合

奉天附屬地料理店組合

奉天三業組合
金龍
金城
菊文
金館
樂亭

森洋行

熊野商會

櫻正宗發賣元
櫻屋商店

那須藥局

賀正
奉天
南滿印刷社
社主　石本力藏

賀正
割烹　玉翠
奉天霞町七
電四五六九

旭洋行

粋山

御料理　千里十里
奉天春日町
おでんわ四一二一

カフェー　三光
電話二一六三番

カフェー　サクラ
電話三二五八番

改良軒
電話二二八一・四〇一九番

東京生そば
和洋御料理
並に仕出し
更科
電話二三六八・四〇七三番

奉天浪速通七
榮屋みやげ店
電話二九八三番

奉天酸素製造公司

奉天春日町
大和屋洋品店
電話二〇九四番

奉天春日町
やまき呉服店
電話三一六九番

奉天春日町六番地
寺尾呉服店
電話二〇三九番

奉天館

春日デパートメントストア

奉天千代田
自動車
電話五四一七番

奉天
寫眞師協會

和登商行
無線電氣部

奉天千代田通
三昌洋行
電話三二〇一・二一七六番

文藝に於ける二元的展開

稲葉亨二

一千九百三十年に於ける藝術の立場を一言にして言ふならばジャーナリズムへの隷屬と言へるだらう。

これは勿論種々な要因によつて導かれたものであつて、藝術史の變革過程から考察すれば極めて瞭然的な樣相とも見えるが、社會乃至經濟的條件との相關々係をコルクシズム的觀點からうかゞへばあまりにも明瞭なことである。

一つには藝術の諸形態そのものが既に社會の變革に落伍して來てゐることも消極的な要因となり得る。

一千九百三十年！その黎明に於ては實にモダーニズムの全貌を遺憾なく發揚し、最も尖鋭に、最もラヂカルに、最も急速さに而して最も聯關的に文化の容貌を表出するかのやうに期待された。事實このことは或程度までその期待を裏切らなかつた。文壇、詩壇、畫壇の諸作を一瞥すれば直に觀取することが出來るのであるが、しかし一般的に見て大衆的な勢力を把握し、聯關的に君臨したものは何であつたらうか。エロチシズム、グロテスク、ナンセンス……それ等の作品の汎濫は本來の藝術の末梢神經的な展開であつて明かにヂャーナリズムへの屈服を意味してゐる。そしてそれは更に社會一般觀念の裏付けによることは言ふまでもない。だが文藝そのものゝの立場に立つて考察するならばこれはあまりにも明瞭に「藝術の貧困」を物語つてゐる。それはたゞ「貧困」であつた。

この間にあつて比較的驚出を試みたものはプロレタリヤ文藝であつた。だが、玆に於ても一つの行き詰りに遭遇した。そしてそれは漸く光をレアリズムの導入によつて發見し、三十一年へと辿りついた。

さて三十年度に於てはすべてに疲勞が行き亘つたか？否たゞ評壇のみはその行動を恣にした。たしかサッカレーであつたか文藝の衰退すると時代は評論が繁盛すると言つた。それは昨年度の文藝壇に於ても決して妥當を失つてはゐない。

以上述べ來つた諸現象は果して何を物語つてゐるか。ファン・ドシエクルから次のシエクルへ推移する時既に次のシークルにて發生すべき諸現象の胚芽をその中に保持してゐる。この點社會の變革過程も文藝思潮の變革過程もその軌を一にするものである。

然らば一千九百三十一年度に於て展開さるべき文藝の樣相は如何なるものであるか。私の見解をもつてするならば二元的な姿に於て顯はれるのではないかと思ふ。即ち一はプロレタリアレアリズムのものであり、他は新しき理想主義のものである。前者は既に昨年中各方面から強調されプロレタリア文壇並に畫壇に異常な緊張を以て迎へられた。たゞ後者に至つては少しく説明を要するであらう。

現代の社會が全般的に經濟狀勢に關心を持つ度合が恐ろしく敏感化して來た。即ち現實に對する關心はたとひ表面的であるにしても一般の事實である。この現實に對する關心乃至認識は當然レアリズムを文藝の上に反映する。だが又反動的にこの關心、この認識を礎石として新しい理想の文學、建築が築造される筈である。勿論それは在來の粗放な理想主義的なものではなく飽くまで科學の裏付けをもつたものであらうことも豫想される。而してこの新しい理想主義的作品はその内包する思想のみばかりでなく意味に於て發揚するであらうかくての理想乃至イデオロギーなどを之に克服せしめるであらう。

その社會並に人生批判の鋭刄はネオ・サムボリックに表出され、メカニッシエな語句の躍動、スピーディーな形容詞の連續、鋭敏な觀音に富む表現等……。それ等はどの程度まで發揚されるか。玆に於てネオサムボリズム――この語は一昨年末加藤、古川兩氏の詩集出版記念會の席上私の發表せし言葉であるが――に付いて一言しなくてはならない。

在來の個々の作乃至詩に於ては――但しプロレタリヤ文藝を除く――多少とも之を包有してゐた。即ち新感覺派又は超現實派の諸作に於て、しかしそれは尚未熟であり何か架空なそして吾々の感情に緊密に實的に顯へるものに缺けてゐた。社會や、生活や自然、又その動態に於ける樣相に對し新たな視角よりする認識を現代人の感性に實的に顯へるやうに効果的に發現して行く。此處にネオサムボリズムの意義がある。

かくして新しき理想主義の作品はどこまでも科學に裏書され即ち現實に即し、その表現は恐ろしくネオサムボリックな姿で生れて來はしないだらうか。

勿論これは文藝全般に亘る動向として觀出する譯ではない。プロレタリアリアリズムと對立して來る層にそうした作品が發生して來ないであらうか。

今一千九百三十一年の曙―文壇は何れにしても何かを生むべき動勢にある。

「光景移動」と童話文學

石森延男

個々のImageが思想的統一によつてForm完成されゆく過程を藝術的理性のはたらきとするならば藝術作品はつれに、移動の世界であるとかんがへることができる。

ふと空を見あげる、青い深い空である、白い雲の群が流れてゐる。それが羊の群に見える、音もなく歩いてゆく羊の姿に見える。青い空は、草原だ。

一つの風景は、たゞちに一つの風景に移つてゆく。憧憬と希望をのせて、次から次へと風景は生きくと移つてゆく。

さらに分けて考へると、白い雲は、白い色彩をもち、淡い陰影をもち、高い位置をもち、浮動をもつてゐる「白い雲群」そのものは、すでにいくたのImageの連がりであり情緒の觀念的統一であるとすることができる。

この分析の究極は「我」の相にいたるのであるが、この「我」は一たびもの感じ、ひらめくと無限に波動する。

◇

映畫において、このうごきをみる。たとへば、ニーナ・ペトロプナの最後の場面である。時計が大寫しになつて、それが上にあがると、浴場の水槽がうつてゐる、美しい床がすべつて、隣りの室にいく、そこは寢室だ。華美をつくした大きな寢臺を中心に、ぐるりと迴はりに動いて、廊下にでる。廊下の壁をどくりくとうつゝながら次の室、客間にとどく、籐椅子、など椅脚を示して、最後にベランダにゐる。ベランダには花の鉢がある。ここで主人公のペトロプナが後向きに佇んでゐるのである。

ここまでのカメラの進行は、單なる室、器物の大きさのみであるそれが不思議に藝術的な劇の表現であるのに氣がつく、一つの場面から次の場面にうつる間に少しのゆるみがないのである。しかも、このあいだに、主人公ペトロプナの生活態がまざくと描寫されることになる。これを他の一面からいへば音樂的な推移ともいはれる。時計の大寫しの時間から水槽にうつる時間的速度、輪廓を中心にあたかも舞踏するが如き經過、ベランダにいたつて靜止する時間これらの綜合經過はいかにも音樂的境地である。これは撮影監督とカメラマンとの共同製作には違ひないが、そこに流動する形象は觀客にとつては一路の印象である。

◇

「光景移動」そのものがたゞちに藝術作品にはならない、全體統一の完き一が求められねばならぬ。音樂美學上からいへば主題のDevelopment のうごきは、樂想の湧くまゝに自由、奔放は許される。しかし全體的具象は、明らかに備へねばならぬのである。あたかもVariation において、おく要音を逸しないやうな變律である。能樂の「序破急の事」もこれに類する形式とみることができやう「序と申すは、をのづからの姿、破は又それを和して注する釋の義也、急と申すはさらに三はんめより能は、こまかに手を入て物まれのあらん風ていなるべし。その日の感用の能なるべし。かくて四五はん來ては破の分なれば、色々をつくして事をなすべし。急と申すはあけくの義也。その日の名殘なればかぎりの風なり破と申すは序をやぶりてこまやけて色々をつくすすがた也。急と申すは又その破をつくす所の名殘の一ていゝ也」これは、世阿彌十六部集の言である。

ソナタアレグロ形式から、輪舞形式にうつり、ロンド形式にいたるソナタの移動は似てはゐないか

×

俳諧詩は、この「移動のおもしろさ」である。

「猿蓑」より

堤より田の青やぎていさぎよき
加茂のやしろは能き社なり
物うつりの尻聲高く名乘すて
雨のやどりの無常迅速
雲れぶる青鷺の身のたふとさよ
しよろ／＼水に闇のそよぐらん
未練顏いつぱいに向にけり
將は三月曙のそら

これは、凡兆、芭蕉、野水、去來の四人によつてなされた俳諧の一節である。

田の青くいさぎよき風景が、加茂の秋の背景に成長し、物うりが、加茂の社の近くにひびく。加茂の社は、大寫しにされた感じである。物うりの聲のまだ耳にのこつてゐるうちに、雨が降つてくるとして、雨やどりの情景に廻轉する「無常の感じは、背景につゞく無常な青鷺が片足でねむつてゐるその下を水が流れる。水の岸に櫻が咲いてゐる。

そして、のどかな彌生の曙と結んだ。いかにも東洋風な賑かな移動である。

三十六句の俳諧詩には、まさまつた論理展開は存在しないが、情緒的一貫は、おのづからそなはつてゐる。ここに芭蕉は、他の三人の心境を見ぬきながら、自分を加へていつた。その意味から俳諧は鑑賞と、創作とをいつしょにした「道」であつた。

私は童話文學の新鮮さも、この「光景移動」に暗示されはしないかとも思ふ。

明燒よ。
咲けよ　すもゝよ。
鶴は
草に下りるよ。
雨がすぐ
すぐにふりそだ
青馬車よ
かけろ　その路
お姉さま
さよ　さよなら

白秋氏の童謠である。澄んだ流動である。

「讀む童話」の深さは、その場面の象徴にある。全體の構想を考へるとゝもに、一つの光景から、他の光景にうつる雰圍氣の描寫がもつと考慮されるべきである。子供の詩想は、つけもなくその移動をたくみに跳躍するであらう。

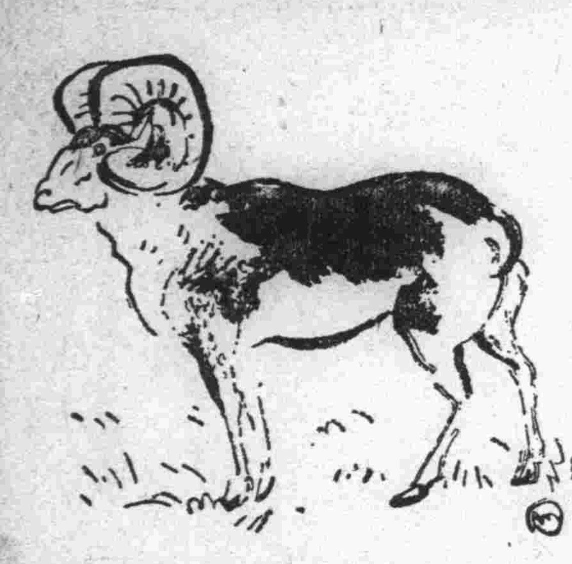
童詩　霧のまち

松本俊雄

静かにあける霧のまち
あの家この家まだねてる
空ゆく鳥のなく頃に
禮拜堂の鐘が鳴る

朝日がけぶる霧のまち
かげ繪のかたちに浮く中に
禮拜堂の十字架が
ひさきは高くうきでてる

霧のまちはうつくしい
あの家この家ゆめのやう
大風小かぜ吹く頃は
街にあかるいひるが來る



「緬羊」　谷山知生氏筆

春を喰はぬ群

―小説を焦點とせるレンズ―

横澤宏

一九三〇年は、ヂャアナリズムによつて猥雑に花咲かされたエロとグロとナンセンスを絞つて其の歳を閉ぢた。

嘗て！諸君は識つてゐるだらう大連驛附近、舗道に終日うづくまつてゐる異邦人の「浮浪者」を。彼等は兩脚を失つてゐる、彼の前には破れた帽子が何日も規則正しく置かれてゐる、が、嘗て其のなかに光澤ある貨幣をみた事が――恐らく僕はない。

「浮浪者」――この恰も都會の病菌に似た種族……僕は此の種族に對して近代種族の物語的な空想をある樣になつた

ヂャアナリズムが時代の上層にエロとグロとナンセンスの線系を交流させてゐる時、時代の下層に跡うした「淪落」と「悲慘」と、そうして「罪」とが底流してゐるのである。

これは興味ある一つの隠蔽劑ではないか。

僕は此の興味にひきづられて最近研究した浮浪者に就ての文獻を二、三讀んでみた。

草間八十雄氏の言ふ處によればこれ等浮浪者の職業は實に多種多樣である。

（一）金品の惠與による生存
（二）勞務による生存

前者に屬する者に「ヅケ」「ダイガラ」とか「ケンタ」「ツブ」等と言ふものがあると言ふ事である、が大連に於ける異邦人の浮浪者は「ツブ」即ちあの路に跪き並つて門づけをする草間氏の所謂「動的行爲による乞食」が大半を占めてゐる。

夜深く、諸君が靜まらうとする盛り場浪速町を、軽い酒の匂ひを發散させながら歩いて見給へ。露店商人の荷車が潮のように干いて行つた跡のしつとりと濕つた路上に、りと眼を走らしてゐる男を見るだらう、被等のような不幸な人々には惜しく落ちて物などはあるまいが、それでも活動寫眞のパンフレット殊に露西亞の惟もかつた夜なぞは萬が一に素朴な收穫がないとも限らない――此の深更の街をだんく眺め廻して歩く「空想家」を俗に「ジミ」と稱するさうである。

彼等は正に空想家と言ふべきだらう。

僕は彼等が如何なる道程を辿つて斯うした浮浪者となつたか？その原因に先づ小説的な收穫が秘められてゐないとは限らない。

昨年、僕は大連驛の附近でよく見掛けたロシア人のパン賣りを取材して一篇の小説を物しやうとした事がある、ロシア人――恐らくも大連に移住してゐる彼等の背後に「革命」といふ大きな背景があるされてあるだけに扱方によつては非常に面白い、と考へたからである。

勿論、未だに完成してゐない始末ではあるが……。

草間氏の調べた處によると東京淺草を縄張とする此の浮浪者の活躍は實に勇ましいものだ相である殊に興味あるのは女性の浮浪者だ。

齢僅に十四歳で天晴れ金箔を身につけた浮浪者となつてゐる少女が居るかと思ふと、吉原の廓づとめが轉落のきつかけで流轉の末は淺草になぐれ「おいらん」の異名をとり前科二十餘犯を看板に五十二といふ今日まで漂泊の日を喰つてゐる女も居るといふ事だ。

驚くよりも先づ眼を閉ぢたい。

幸ひ――か、大連には女の浮浪者を餘り見掛けない、僕からみると恐い言ひ方ではあるが、これが些か寂寥を覺えさせる。

尤も兒溝方面の苦力の生活の裏を覗いてみると――喰ふために自分の女房に鬼業を營ましてゐる者も居るといふ話はある。

エロだ
グロだ
ナンセンスだ――と讃樂のお孃さんや狐を首に飼つて置く有閑婦人の識らない世間――僕は此所に興味を持つのだ、僕はお孃さんや有閑婦人達の識つてゐる世間に就いては既に「我等が」や或はそれ以前の作家による文章によつて殆ど識り盡して了つた、と言つても過言ではない。

僕は、であるが故に――

淪落と
悲慘と
罪悪と――この「浮浪者の群」が喘ぐ、も喘ぐ、受難の世間に「一九三一年」らしく新しい興味を持つのである。

恐らく「春を喰はぬ」この浮浪者たちに今年の僕の小説作業のフォーカスを持つて行かうと意圖する所以である。

賀正

奉天　四平街　本溪湖

奉天醫師會
池田醫院　回生病院　山本醫院　大橋醫院　永井醫院　井上耳鼻咽喉科醫院　西田婦人科病院　藤巻醫院　岩竹醫院　松岡醫院　長田醫院　同仁醫院　白十字醫院

奉天材木商
組合員一同

奉天温泉倶樂部

滿洲煖房衛生同業組合
奉天支部
今近河　井藤村　平　主治頼

中澤正治　釋河野龍丸　先川喜代治　森公平　八木壽治　久保田伊平　中村政市　上木仁三郎　樋口畩吉　皆川秀孝　鳥井讓吉　山本晴雄

滿洲日報奉天支社
前田盛藏　粂本正一　藤原尙

警察署長 警視 瀧慶藏
取引所長 宮内虎雄
醫院長 三井修策
東信洋行 木藤品治郎
地方事務所長 三浦秀次
四洮鐵路局 宇佐美喬爾
四洮鐵路局 鈴木長明
四洮鐵路局 足立長三
信託專務 茶谷榮治郎
信託次席 木藤格之
輪組理事 桂馨三
料理店組合
驛前 植半旅館 電三〇
日華特産商聯合組合 電一二八
輸入組合 電二二〇
驛前 小松屋旅館 電一一六
驛長 川上一
機關區長 岩永唯一
保線區長 城崎民四郎

金融組合組合長 山添倚江
理事 原田還之助
地方委員 議長 竹本二丸
田中佐重郎　竹村石次郎　鶴見次世　佐藤龜記
櫻井敎輔
中村煉瓦工場 中村濤吉 電一七〇
伊藤新人
信和洋行 電一一九
松昌公司 電九
山本興行部 いさむ號 電五一三
濟生醫院 京專醫學士 崔鳳孫 産婦人科の設備あり
滿洲日報 大阪毎日 販賣店 雜貨 菊池洋行 電三一一

本溪湖煤鐵有限公司

板津直純　鮫島宗平　梶山又吉　日高長次郎　粟谷秀夫　植田德次　尾崎重樹　大橋芳彦　野尻虎　岡山武治　荒木秀太郎

一（次第不同）

外國へ飛電 おめでたう制度

大連郵便局長　和多野健藏

一、創始は大正十五年末から

「千代經たる松のみどりの色變て朝日まばゆく年明けわたる」なる新年の何さなく祥雲靉靆、鳳凰和鳴の瑞象がほのみゆるほどうれしきものはない、遠く海外殊域に在る友と坐ながらにして、元旦早々新年祝賀を交換するは何よりの愉快である、遞信省も茲に見る所ありてか、大正十五年十二月遞信省令第五十四號を以て「クリスマス」及新年祝賀特別外國電報規則なるものを制定、同月十五日より施行せられた、當初歐文電報のみ取扱ふことゝせし爲めか、將又未だ一般に周知せざる爲か、其取扱ひの僅少なるは如何にも遺憾に思ふ。

二、地域擴張、外國和文も取扱ふ

昭和五年十二月十三日遞信省告示第二千八百三十四號を以て、本祝賀電報を發受すべき地域を擴張し、中華民國をも加ふることゝした、而して中華民國に宛つる祝賀電報の受付は一般祝賀電報の例に依らず、十二月十五日より三十一日迄とした、但し上海に發着する和文祝賀電報のみは一般通り十二月十五日より一月五日迄である、之は本邦人に對しては何よりの福音とも云ふべきか在上海の知人と僅かに七十五錢にて祝賀電報を交換し得ることゝなつたのである、素より青島、四方及滄口にも和文祝賀電報を發受することを得る、之は其期間が前敍の通り中華民國に宛つるもの中に包含せらるゝことは止むを得ない、其の料金は青島は十語分一圓五錢、四方及滄口は一圓七錢の低廉である、之は何れも通常電報料十語分の四分の一の料金を課せらるゝことに定められてあるからである、尤も其十語分の中には「マカム」と云ふ祝賀電報なることを表示すべき課金指定事項の字數に算入せられ、又名宛を一語と計算せらるゝことは勿論である。

三、歐文祝賀電報の指定「XLT」と及料金

「XLT」とは「クリスマス」及歐文新年祝賀電報たることを表示する指定事項である、和文祝賀電報の「マカム」に相當するものである、卽ち「XLT」が一語として料金に計算せらるゝは止むを得ない、而して本歐文電報に用ひらるゝ文字は日本語（ローマ綴）イギリス語、フランス語、その他發信國又は着信國の國語の一箇又は數箇にして、關係主管廳が指定したる普通語を以て記入することになつてゐる、其の料金は和文と同樣通常料金の四分の一である、尤も一通の電報の語數十語に滿たざる場合と雖も、十語分の料金を課せらるゝことも和文と同樣に規定されてある、例へば英、獨、佛、伊等へ宛つるものは通常電報料金一語分一圓三十八錢で、其十語分十三圓八十錢、其の四分の一に當る三圓四十五錢が祝賀電報の十語分の料金である、又ニューヨーク サンフランシスコ等に宛つるものは前者は通常料金一語一圓六十八錢、其の十語分十六圓八十錢、其の四分の一に當る四圓二十錢。後者は通常料金一語分一圓三十八錢其十語分十三圓八十錢、其の四分の一に當る三圓四十五錢が祝賀電報十語分の料金である、而して本電報は通例受付時刻より四十八時間以上を經過したる後、此の電報を受信したる着信局より、普通郵便を以て受信人に送達せらるゝ規定である、乃ち發信の際此の餘裕を見込んで置かれば、元旦後に送達せらるゝことゝなる慮がある、此の點は大に注意を要すと思ふ。

四、本電報の發受地域

亞細亞地方にては中華民國亞丁、ビルマ、セーロン、香港、印度、イラーク國、ペルム、海峡殖民地（「ケランタン」を除く「フイリツピン」群島、暹羅國、蘭領東印度アメリカ地方にてはカナダ、アルベータ、ブリテイシ•コラムビア、ケープ•ブレトン、マニトバ、ニユー•ブランスウイツク、ニユー•フアンドランド、ノヴア•スヲシア、オンタリオ、クエベツク、サスカチユワン「メキシコ」國、アメリカ合衆國（「アラスカ」を除く）ヨーロツパ地方にてはベルギー國「チエフコ、スロヴアキア」國、デンマーク國、ドイツ國、ノールエー國、和蘭國、瑞典國、奧地利國、「タンチツヒ」自由市、佛蘭西國、英吉利國「ルクセンブルグ」國、瑞西國、ハンガリー、ラトヴイア、波蘭國、伊太利國、ジブローター「モルタ」島、太洋洲地方にては濠太剌利、英領北「ボルネオ」ニユー•ジーランド、サラワク、ホノルル、阿弗利加地方にてはアツセンシヨン、カムビア、ゴールド、コースト「ケンヤ」及「ユガンダ」モーリシアス、ニセリア、ニアツサランド、北「ローデジア」セイシエル、シーラ•レオネ、南阿聯邦、南「ローデジヤ」南西アフリカ、セント•ヘレナ、タンガニーカ地方、ザンジバール等は本祝賀電報を發受し得る地名である、漸次地域の擴張せられつゝあるは斯業上喜ぶべきことである。

五、經由線路

之等電報は如何なる線路を經過するかと云ふと、アジア地方、太洋洲地方及アフリカ地方行は香港線を、ヨーロツパ地方行は名古屋ベルリン間無線、名古屋パリー間無線、名古屋ワルソウ間無線、東京無線、香港線、滬崎線、又は滬崎線「キアクタ」線等をアメリカ地方行は東京無線、小笠原線及香港線滬崎線又は「キヤクタ」線及ヨーロツパ「コマアシヤル、ケーブル」會社線等を經由して送信せらるゝことになつてゐる、尙當地より通常電報として歐洲及米國に發送する場合は大連芝罘線及支那奉天陸線等を經由するは云ふ迄もない、余は新年祝賀電報が大に利用せられ、之等線路を經由、萬里同風なる新らしき年を迎ふる祝賀の意義が徹底せんことを衷心翹足して俟つものである。

西部大連の發展と經濟展望

西部大連通信部　川島富丸

西部大連とは大連民政署管内の西南部に位し、東は回春街、聖德街、白菊町を經て大連本市に接續し西南は鮫子山嶺及び横山の山頂を境とし、南は海に臨し、北は三春柳に至る廣袤東西五里、南北四里を包含する總稱である、其市街地は元來大連市郊外の一寒村に過ぎなかつたが、明治四十四年滿鐵沙河口工場開設以來、逐年來住者多きを加へ遂に一大市街地を形成するに至り、大正十三年七月市街地を大連市に編入せらるゝに及び諸施設漸次充實し、道路の改修、電車賃の均一、沙河口驛の開設等により交通至便となり、隣接大連本市に比し比較的家賃低廉、生活安易である關係から住宅地に適し而も最近大連市の膨脹の餘地はこの方面以外には老虎灘方面の一部に過ぎないから、絶好の遊覽地たる星ケ浦を控ゆる西部大連が住宅地として目覺ましい發展を遂げつゝあるのである、更に同地は大連市西部における二大工場地區の所在地であつて滿鐵鐵道工場、大連機械製作所、昌光硝子工場、滿電發電所を初め日支人の經營に係る百數十ケ所の大小工場が散在してゐるので邦人居住者の四十四パーセントは之等工場の從業員であり更に滿鐵宿舍地帶を有してゐるので大連本市に通勤する社員約二〇パーセントを占め其他は一般俸給生活者並に商人である、華人は約二十五パーセントで工場勞働者の外各種商業に從事する者が多い、之等大小工場製産額は年額三千萬圓と稱せられてゐる、西部大連の人口は現在約十萬一千餘名で之れを大正十年の四萬七千餘名に比較すると二倍以上の增加となり市街地における邦人居住者も既に二萬二千を超へその逐年增加率は滿洲第一と稱されてゐる

更に同地方金融機關を概觀すると大正七年滿洲銀行支店開設に次ぎ共濟信託會社、翌年滿洲貯金沙河口支店開設され、所謂沙河口方面建設時代を經過したが、前三者の閉鎖に前後して正隆銀行出張所輸入組合支部、金融組合等の設置を見るに至り將來相當の業態を持續しつゝある

商業へつて日用品配給狀況をみるに滿鐵消費組合は同方面に五ケ所の配給所を有し年額約一百十萬圓關東廳購買組合は約四十萬圓の賣上をなし、二百五十餘店舖の邦商小賣商人は前記兩組合並に華商の間に介在し而も大連中心商業地區の商店と競爭を餘儀なくせられ、稍もすれば混亂狀態に陷らんとする傾向もあつたが輸入組合の成立後商業上の統制に重きを置き、仕入資金の供給と共に專ら商店經營に關する改善に努めその自覺を促した結果、或は仕入において又は取引の改善に於て極めて好轉し商品の大部分を直接原産地に需め大連本市の商品と何等の遜色なき迄に充實するに至つた、殊に公設市場を中心とする商店街の發展は目覺ましきものあり殷盛たる殷盛振りを示してゐる。要するに土地全體が新興氣分横溢してゐる反面新開地らしい村氣分漲ひ從つて商民に一致團結の念が強いのがこの土地の特色とされてゐる。西へ西へと伸び行く大連の膨脹力はますますこの土地を繁榮せしむることにならう。恐らく住宅地としては伏見臺より白菊町、聖德街を距りて風光明媚な星ケ浦を連絡する一大市街が數年ならずして實現するであらう、更に馬欄河溪谷一帶の工場地區と沙河口より周水子を連絡せんとする二大工場地區の發展は將來における西部大連の發展と殷盛が如何に素晴らしいものであるかを約束するものであらう。

追ひ羽子

謹賀新年

安東

井上信義
池上常太郎
井上芳雄
石井保吉
橋本秀人
原田市松
大津峻
大木延邑
大里幸作
北畠利松
吉田良陸
吉家敬造
高尾亨
高山勝司
高橋包三
[illegible]

梅田嘉四郎
于國翰
來栖健助
山縣寅吉
柳田宗章
藤平泰一
猪田總
福原十九一郎
小河潤肇
近藤勘助
有吉晙作
金虎贊
[illegible]
代永勝三
新義州警察署員一同
新義州電氣株式會社

株式會社 安東取引所
南滿洲電氣株式會社 安東支店 支店長 田村忠一
安東縣銀行集會所
日支兩國政府合辦 鴨綠江採木公司
鴨綠江製材無限公司
國際運輸株式會社 安東支店 支店長 白石寅治
滿鮮坑木株式會社
安東取引所取引人組合
滿洲鑛山藥株式會社
安東競馬倶樂部
御料理 由良之助
日之出製材所
日之出製軸匣所 和田賢太郎
御料理 卜一
櫻正宗、鶴標一手販賣 三巴商店
藥種貿易商 一木藥舖
和洋菓子商 横濱堂
[illegible] 須田商會 須田武夫
北田榮太郎商店

毛皮、煙草、食料雜貨 金子商店
安東窯業株式會社
安東料理店組合
安東炭友會
土木建築請負業 大村組工務所 大村寛藏
安東驛前 安東ホテル 經營主 秋吉次郎
國際通運株式會社 安東支店 支店長 麻生種藏
滿洲土木建築協會 安東支部
鴨綠江製紙株式會社
柞蠶糸輸出商 福原茂平治商店
安東挽材株式會社

鳳凰城之部

郵便局長 渡邊力
驛長 宮城調明
保線主任 岡口德松
柞蠶試作場主任 太田瑞穗

鷄冠山之部

守備隊長 藏重康美
機關區長 藤山米太郎
地方出張所主任 松永平一
警察官派出所主任 後藤力
地方委員議長 吉竹爲次郎
地方委員 石川翠
地方委員 中山善七
地方委員 馬淵善兵衛
草葉强太郎
安義支局 安田三郎

新作 羊異變草紙（ひつじゐへんきらし）

香川春夫
大石哲路畫

(一)

凍てついたやうな路面に、乾き切つた日和下駄の齒を噛み鳴らせながら急いで來る一人の女、何か餘程の急ぎ事でもあると見え、前かゞみに倒れんばかりに、半ば駈出さんず勢ひである。

月の光りがやけに白々しい師走の夜である。何處かで按摩の吹き鳴らす笛の音が、甲高く、妙に心を焦らゝかせるやうに響き渡る。兩國橋を渡つて淺草橋、やけに風が冷たく身を切るやうだ。淺草橋際の四ッ角である。

恰度其の時雷門の方から急いで來た町人風の男、手拭で顔をおほうてゐたから、どんな人相か判らぬが、つと行きずりにお高祖頭巾の、急ぎ足の女の身體にごんとぶつかつたと思つたら

「あッ!やりやあがつたなッ」

と叫ぶと、脾腹を抱へて地上によろめき倒れた。倒れながらも手に握つた捕繩は放さなかつた。繩の一端は、女の手首にしつかり喰ひ入つてゐる。一瞬、ぱつと繩がまんと張られたと見ると、ぷつつり!女の短劍が繩を切り放してゐた。男ははずみを喰つて地べたへ激しく放り出された。

だが、それつきりである。脇腹にさほされた一刺が致命傷であつたか、そつ儘息絶えた樣子、餘りにも呆氣ない末路だ。と其處へ今女が來た兩國橋の方から、多分女を追ひ込んで來たものであらう、これは一見、捕吏と覺しき數人、淺草橋際の四つ角で危ふく、今倒れた男の骸につまづかうとして辛くもよけた。が、小才の利いたのが、素早く倒れた男の顔を覗き込んだが、

「ゝッ!馬道の親方だッ!」

「何!馬道の親方だ?」

倒れかゝらんばかりに、倒れた男の顔を覗き込む。

「おや、此處にこんなものが落ちてらあ」

少し、間が抜けてはゐるが、氣の置けない間抜けの太吉、略した仲間の頭だつた一人が頓狂な聲を出したのに、抜け太が振り向けば、抜け太の手に光つてゐる銀の細工もの、素早く手に取つて見るより

「おゝッ!これはキリシタンの十字架だ」

「ぢやあやつぱりあの女の仕業だ」

「憎い女、隼のお蝶」

數人の捕吏は一樣に銀の十字架に憤怒の眼を注ぐ。

(二)

隼お蝶——その頃と云つても天明年間の事、例の田沼意次父子が專横の限りを盡してゐた頃の事である。隼お蝶は江戸に評判の女賊であつた。その名の如く、身のこなしの素早い上に變幻出沒、恰も鬼神の如く、今日江戸にあるかと思へば明日は京、大阪と、到底その所在を攫むことの出來ぬ程である。

隼お蝶が、京に現はれたさうなそんな噂が人々の口の端にのぼる頃には、お蝶は何時か江戸に舞戻つてゐた。しかも、その變装の巧なる、ある時は粋な下町の内儀風にやつしてゐるかと見れば、御殿女中に、二八の花をあざむく小娘に、かと思ふと小姓姿もいぢらしい男に、と云つた工合、全く千變限りなしであつた。

が、お蝶 何の故か、大名とか旗本でも兎角の噂ある内福ものとか、町人でも、人々から膏血をしぼりとつて肥つたと云つた者をのみ襲ふてゐた。而も配下の者は小手の利いた者が常に三人、影のやうに添つてゐる。が、嘗て、人を殺めた事のないお蝶、それが、故意か偶然か、途上で捕繩をかけた早繩の名人、馬道の親方が通つてゐる馬道の仙藏を殺害してしまつたのである。それは路上に落ちてゐた銀の十字架でお蝶であると知ることが出來た。といふのは、隼お蝶は襲ふた後には必ず、隼お蝶の名札と、銀の十字架を殘して行くのだ。

(三)

お蝶の本據は何處か、お蝶の目的とするは何か、そんな事の詮議をする前に、作者は此處に、今一つの新しい事件を報じなければならぬ。

神田の甲賀屋敷といふから、今の主婦の友社あたりか、其の邊はお茶の水からだらだら下りの傾斜地になつてゐて、雜木が生ひ茂つてゐた。その藪蔭に古びた家が一軒、だいぶ住み荒したと見られるその家に、一月ほど前から移り住んでゐる異樣な人物が一人。

人々は呼んで筑波山の仙人ぢやと云つてゐた。齢の頃は八十にもならうか、髪も胸まで垂れ下つてゐる美髯も悉く銀白である。赭ら顔に、眼は一入鋭く、その鋭光に向ひ對し得るものはあるまいと思はれる程である。

誰が云ひふらしたものか、筑波山の仙人は非凡な神通力を有し、殊に女の願ひ事なれば、何事でも必ず叶へて呉れると云ふのだ。思ふ男とたとへ一夜でもよ、添ふてみたいと思ふ願ひさへも立所に叶へてくれるといふのだ。その噂を傳へ聞いてか、甲賀屋敷續きの仙人への住居を秘かに訪れる淫奔娘や、閨淋しい後家などがなかなか尠くない樣子。

恰度、その噂が盛んの頃、町娘や後家さんや、人妻でも兎角の噂を立てられさうな女が、毎日一人二人づゝ行方不明になつて行つた。始めのうちこそ、あの浮氣娘め、いゝ男をこしらへて何處かへ駈落ちでもしたのであらうとか、後家さんも淋しさに耐へ兼れて若い燕とお前とならば何處までもとしやれ込んだに違ひなからう、と云つた想像で片づけられてゐたが、それが、毎日のやうに續くとなると、別の噂が、人々の好奇心をそゝり立てるのである。が、何よりも、そんな物騒な、いや事實を聞かされては、當路の役人は其の儘捨て置く譯には行かなかつた。全市の捕方役人は總動員されて女の行方探索に當る事になつた。

師走は押し詰る師走の風の音と共に愈々ひどくなつて行つた。娘はかどわかされたのか、殺されたのか、殺されたとしたら其の死骸の始末は、かどわかされたら其の處分先は、近郷のそれらしい色街にもずつと役人が出張されたけれども、只の一人の行方も知れなかつた。

十二月も押つまつた二十七日の曉け方であつた。最初に行方不明になつた神田岩本町の質屋萬吉の娘お露が、失神したやうな魂の抜けがらそのまゝの姿で、飄然とおのが家の前に歸つて來たのを始め、翌々日二十九日の曉け方までには行方不明になつた全部の者が歸つて來た。そして何れも云ひ合せたやうに魂の抜け殻で、何を云つても訊いても通じなかつた。只、何れも云ひ合せたやうに、夢見るやうなまなざしで、淫らな、嬉しい思ひを忘れ兼れたやうに、ぢつと空間を見詰めたまゝ、ニタリと胸の底からこそぐり上げられるやうな笑ひを漏らすのであつた。

(四)

日は過ぎて行つた。何時かその年も暮れて、明けて目出度い新玉の年となつて早くも十日は過ぎた。其の頃、一番最初に歸つて來た質屋萬吉の娘お露が、何うやら正氣づいたやうであつた。

午下りであつた。お露は庭に向いた縁側に日向ぼッこをしてゐた。庭に鶏が餌をあさつてゐた。靜かな風景である。

鶏が突然、刻を造つた。朗かな澄とほつた啼き聲が二聲、三聲繰り返された。

と其の時である。今まで無心に鶏のあそんでゐるのを眺めてゐたお露が、

「あれえッ!助けてッ!」

突然、平和な空氣を震はせて叫んだのだ。叫びに驚いて駈つけた家のもの。其の中に父親の萬吉の姿を見つけると、お露は子供のやうにしがみついたのである。そして身體を震はせて泣き出してしまつた。

「これ〳〵お露、何うしたのか、泣かないで話しておくれ」

それでも娘の姿に異狀がなかつたので、ほつと胸なで下した萬吉は、やさしくかう訊ねた。娘は失神狀態から、その時漸く正氣に立ち返つたのであつた。そして娘の話に依ると、娘はその日(行方不明になつた日)こつそりと家を抜け出して、程遠からぬ甲賀屋敷の仙人の家を訪れたのであつた。お露は胸に思ふ男(手代の清吉でなかなかの美男である)と添ひ遂げたいばつかりに、筑波山の仙人を訪れたのであるが、仙人はお露の願ひ通り、其の場へ清吉を呼び寄せて、二人に樂しい語らひと嬉しい契りとを結ばせてくれたのであつたが、その儘お露は氣が遠くなつて、今まで無意識、漸く鶏の聲に夢から呼び覺まされたのであつたといふのだ。其處で早速清吉を呼んでその事を訊れて見ると、清吉は夢にもそんな事は知らぬといふ。愈々怪しいのは筑波山の仙人といふ事になり、すぐ樣その事を番所へ訴へて出た。

すはッといふので捕方は、甲賀屋敷の荒れ家に筑波山の仙人を襲うたが、すでに風を喰つてもぬけのから、隈なく捜して手に入れたのは、銀の十字架が一個に隼お蝶の名札が一葉。

偖はお蝶一味のキリシタンの爲せる業か!だとすると此の家に何等かの仕掛けがあるかも知れぬといふので、再び、家搜し、漸くの事で地下室のある事を知り、胸躍らせて地下室へ飛び込んだのが、例の馬道の仙藏の倅仙吉だ。仙吉は地下室で意外な發見をした。

地下室は地上の荒れに比し比ぶべくもなく壯麗なるものであつた目にふれるもの悉くが珍奇な南蠻渡來の重寶揃ひである。

その室へ踏み込んだ刹那、仙吉は思はず「アッ!」と叫んで佇立してしまつた。

其處には、豫て噂に聞いた筑波山の仙 が紅に染まつてたふれてゐるではないか。と思つたのは、仙吉の眼、誤りであつた。なほも傍近く寄つて見た仙吉は再び驚聲をあげなければならなかつた。仙吉が仙人と見たのは、なるほど衣裳こそ人間の着るものをつけてゐたが、それは銀色の毛に包まれた羊であつたのだ。仙吉に續いて地下室へなだれ込んだ多くの捕方も、これを見ては唖然たるばかりであつた。

筑波山の仙人と名乘つたのは、實は此の羊の化身であつたらうか?而 て、此の家に殘された銀の十字架と隼お蝶の名札に何を物語らうとしてゐるのか。

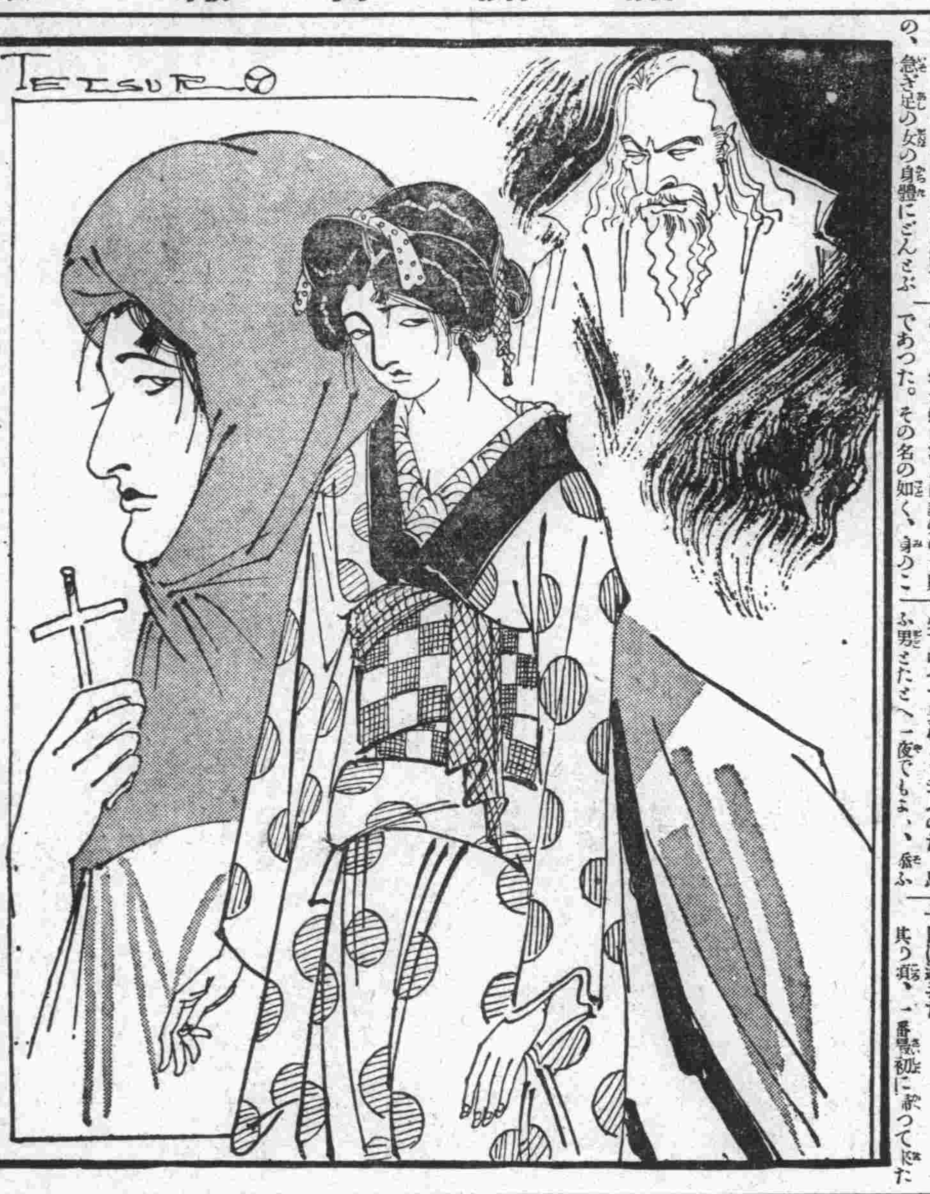
(五)

これ等にまつはる奇怪なる物語の詳述は何れ稿を改めて書くとして、作者は此處で結末へと急がう。

隼お蝶は、天明年間に江戸市中を荒し廻つた女賊であるが、彼女は彼の天草の亂で有名な天草四郎の血を いたものである。彼女は徳川幕府へ楯突くために、同志を語らつて惡事の限りを盡したが、數ある同志の主領格の松本左右馬が、數の女を甲賀屋敷の密室へ呼び入れるのを見て、豫て左右馬を愛してゐたお蝶は怒つて、これを責めた。

左右馬は三十がらみの偉丈夫であつたが、常に銀髪の老人を装うてゐたのだ。愛を裏切られたと思つたお蝶は左右馬を殺した。が、それはお蝶が左右馬に計られたので、左右馬は得意の妖術で羊を身代りとして逃れたのであつた。

神の使徒である罪なき羊を殺したことから、彼等は神の罪にふれ、遂に捕縛されてしまふのであるが、それが天明七年秋風身にしむ十一月半、然も未年であつたといふのも、因縁と云へば奇しき因縁である(完)



賀正

不動産管理處分
株式會社 鴻業公司
大連市山縣通大倉ビルディング内
電話(七三九五番 七七四八番)

土木建築請負
東亞土木企業株式會社
大連市山縣通り
電話三六九八番

埠頭荷繰作業一切
福昌華工株式會社
大連埠頭構内
電話代表四五一〇番

營業科目
◎油布、雨覆、日覆、天幕、洋服、多年足袋、運動靴、室内装飾、家具
◎洋服類各種、其他各種諸材料並
以上業務に附隨する各種營業
大連工業株式會社
大連市橋立町
電話代表 四一六一番 八二三八番

金銀兩替錢鈔取引
公債社債株式賣買
株式會社 德泰公司
電話(錢鈔部代表六一六四番 證券部 四五四一番)
振替口座(大連八五番)
受信略號(カブトク)

株式會社 南昌洋行大連支店
大連市山縣通八八
電話(三七四四番

大連信濃町市場組合
電話四七六三番

和洋酒菓子食料品
三星洋行
大連連鎖街常盤通
電話代表五一六一番

家具裝飾、内外敷物、漆器類
渡邊洋行
大連市信濃町市場前
電話八八三七番

文房具、運動具、度量衡
滿書堂文具店
大連市濱速町三丁目
電話(四三〇六番 九九四番)

營業目 内外諸魚油、燈房装置、各種放熱器、病院用蒸氣装置、蒸汽消毒装置、蒸汽炊事装置、衛生的装置
輸入、製造、販賣、設計並工事請負
株式會社 齋藤製作所
大連出張所
大連市眞弓町三
電話(三〇二四番

大連取引所
錢鈔取引人組合
組合長 赤塚彌太郎
副組合長 任洲仙劉召南

大連市敷島町四十九番地
大連株式商品取引所
商品取引人組合
商品現物取引組合

和洋菓子パン製造
木村屋本店
大連市信濃町一三五
電話七〇八七番

東郷旅館
大連市東郷町七三
電話代表八一六十番

和洋食料品商
外海洋行
大連市磐城町三一
電話四二二九・六九〇〇番

船具金物機械諸油塗料
岸洋行
大連市監部通二七
電話四三七六・六四二〇番

鮮魚、蒲鉾
羽月商店
大連市信濃町市場
電話七二九六・四五四三番
本店 西通一〇四番地

和洋食器、世帶道具
船塚洋行
大連市濱速町三丁目
電話(四三七九・七五四三番 二二四八一)

蓄音器並レコード
榮商會
大連市伊勢町五二(濱速町通)
電話八三九〇番

和洋雜貨
野崎洋品店
大連市濱速町三丁目
電話三二七九番

西田内科醫院
大連市若狹町三五
電話七五七五番

家具裝飾
合資會社 滿蒙工業
大連市伊勢町六二
電話七九六八番

田中屋呉服店
大連市磐城町
電話四八五三番

夏木瀨印刷所
大連市岩代町四三
電話六三三七番

活版、石版印刷 紙 文房具
小林又七支店
大連市大山通
電話代表六一六一番

河島小兒科醫院
大連市西公園町三
電話四五八九番

柳本呉服店
大連市連鎖街銀座本町角
電話 二二四八番 五八五八

ニチロパン製造販賣
日露洋行
大連市濱速町四一
電話六六六〇番

昭和六年の思想界
政治的對峙の階級色

或る社會の成生は、一定の經濟的構成を基礎としその上に政治的の、社會的の、思想的の各過程が、これに照應して形成されて行くものなることは周知のところであるが、一度形成された一定の社會は、やがて又他の社會組織にその席を讓つて行く。この社會的發展、變動の場合には、今度は先づ上部から卽ち思想的、社會的過程に變動が生じ、政治的過程に、最後に經濟的過程——社會の經濟的基礎構成に變動が生じて、此處に新たなる社會組織の形成をみるのである。從來所謂思想界に於て喧しく論議されてゐた階級鬪爭と科學——殊に社會科學の問題、科學の階級性の問題、唯心論、唯物論、辯證法等の問題、カントよりフオイエルバツハ、ヘーゲルを環る哲學的論爭等々も漸次下火となり、昭和五年度にあつてはこれ等は批評界、思想界の主流から遠に隔たつてしまひ、これによつて代つたものは、思想的と云はんよりはより實際的——實踐的な傾向である。卽ち日本資本主義の當面せる重大問題である金解禁を中心として、新平價解禁、金輸出再禁止、或は産業合理化のための諸方策、世界恐慌等々の問題が論議の中心となつてゐる。

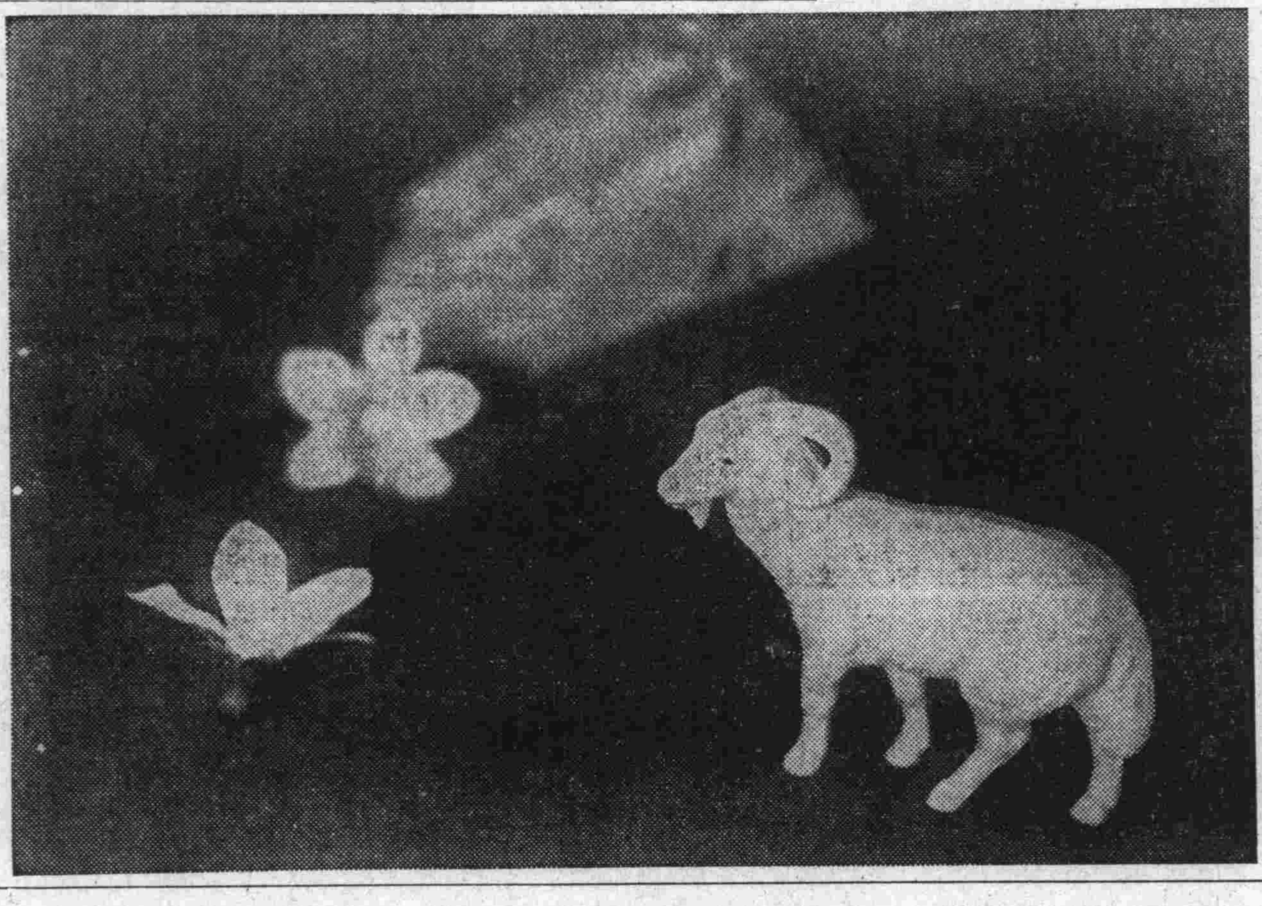
かゝる傾向は何を意味するか？從來の階級鬪爭と科學、科學の階級性といつた問題が古くさくなつたとでも云ふのか？唯心論、唯物論の問題が既に解決され盡して了つたとでも云ふのか？これに對する答へは然り、であり又否である。世界恐慌、失業對策、産業合理化等の問題が強く全面に現はれて來たといふことは、社會發展がそれ等の論議を必要としたからに外ならぬ。この意味からすれば發展とか云ふことは、事實上の社會的發展そのものによつて立證されたといふ事が出來る。それは科學の階級性とか社會の辯證法的現實的には解決濟みとなつたと云ひ得るが、思想なり、論議なりがそれ自體として抽象して考へた時は毫も解決濟の問題ではない。といふ意味は、我が國に於ては單にそれ等が先進資本主義諸國に於けるが如く大規模に、徹底的に論議されなかつたと云ふ意味からばかりでなく、一の思想の妥當性——兩立、對立せる思想の何れが正當であるかといふ事は、實に社會的實踐な過程する事によつて初めて立證せられるものである。といふ見地から云ひ得るのである、昭和五年度は、この所謂抽象的純理論的思惟と實際との統一といふ原則的昭和五年度の大問題たる金解禁を中心とした實際的論議が花々しく展開された。かゝる傾向は今後、昭和六年度以降に於ては、益々發展し行くであらう。何故か？如何なる基準から然う云ふか？

一九二九年の後半にアメリカ合衆國を襲つた、經濟恐慌の嵐は、忽ち全世界を蔽ひ、ロシアを除く世界各國を未曾有の恐慌の渦中に投じた。勿論日本もこの波瀾を免れる事は出來なかつた。昭和四年度末頃から五年にかけて、中小商工業者の破産、中小工場の閉鎖、操業短縮、賃銀値下、馘首、賃銀不拂等が如何に増大したことか！この恐慌は世界大戰以降初めての恐慌であり、且つ工業恐慌と農業恐慌とが投合し合つて居り、世界經濟の中心を形成して居るアメリカ合衆國が、この恐慌の源泉であるといふ諸點からも、資本主義に周期的な、單なる恐慌でなくして、戰後資本主義安定の第二期を經過して、内包せる諸矛盾を露呈し初めて來た、所謂第二期資本主義の恐慌である。現實は逼迫してゐる恐慌を中心としての諸方策——金解禁是非、不景氣、失業、産業合理化等々の問題が中心となつたのは當然であり、今後もさうなるのが必然である。資本主義の根幹を動搖さす恐慌。大量的失業群の加速度的増大。再び云ふ。現實は逼迫してゐるのだ！かくて所謂思想問題は、單なる思想問題の範圍を越えて政治的色彩を色濃く帶びて來る。社會的發展、變動の過程は純粹思想的過程を離れて漸く政治過程に入つてくる。從來分散的であつて、所謂思想的問題が、悉く政治的意味を持つて以て來る。凡ゆる問題が政治的となつて來る。「思想に對するには思想を以てせよ」式態度が漸次社會の表面から消え失せて行く。一例を示せば、青年學生の讀書の自由さへも制限をうける。潑剌たる學生は姿を消して、羊の如き學生が增して行く文部省はさきに學生主事を設置して、學生思想善導のために積極的に乘り出したが、五年度に入つては更に反マルクス主義に關する外國諸學者の説を飜譯出版せしめ全國學校を少くとも反進步的な教授を以て統一的に組織せんとしてゐるもの、如くである。五年度の曆を繰つてみよ。日大、早大、女子醫專、明大、三高等々、所謂學校騷動のなかつた月があるか。

學生騷動なるもの、内容をみよ。常に當局、官憲、學生對立といふ純粹な政治的形態を採つてゐる。かゝる傾向は更に激化をみるであらう。

凡ゆる社會現象は總々政治的色彩に依つて染め出されて行くであらう。性的頽廢を誘ふ「エロ」といひ、變態的興味を逐ふ「グロ」といひ、さては意味もない現實逃避にのみ役立つ「ナンセンス」といふも、すべて疲勞し切つた勤勞大衆、生活から離れた遊閑階級をしてより現實の生活から分離させ現實の苦惱を思惟の、或は感能の麻痺陶醉によつて忘れさせようとする立派な社會的意圖、從つて政治的意欲を反映する意外の何物でもない。最近殊に著るしくなつて來た何々海戰何周年記念日、何々制定記念日等の各種の催しの如き年毎に政治的色彩に色どられて行く。年毎に組織化されて行く實狀

記念日の如きはその好例であらう。かくて、現在の日本は思想的對立の政治鬪爭への移行、政治過程に於ける強化の時期と云ふを得るであらう「第三期資本主義」の恐慌の波に依つて、昭和六年度は更に一段とこの過程に於ける思想的對立の激化が示され、それと共に凡ゆる社會事象は、濃い政治的色彩に染められ、やがて眞紅と漆黑とに純政治的に相對峙した階級色を以て染め出され行くに至るであらう



俳句
『社頭雪』　島田青峯選

入賞

天　大連　中山草の笠
神垣や深雪に赤き藪柑子

地　ウラル丸　丸山　靑瓢
雪晴の湖心の宮へ渡舟かな

人　營口　王利　荒城
山裾に一の鳥居や雪晴るゝ

佳作

大連　園部　紅花
境内に鳩飛ぶ雪の木立かな
獻燈の光に雪の木立かな
朝の日に輝く雪の鳥居かな

旅順　石井未成庵
獻燈の埋れて雪の眞白かな
夕陽に社頭の雪の光りかな

大連　醉牛
雪原の初日に立ちし社頭かな
初日影雪凍りたる社頭かな
初鴉や社頭ほのかに雪明り
初日仰いで深雪に立ちし社頭哉

遼陽　粟谷川杜陵
初詣で深雪の日ざし伏し拜む

大連　柴田みさを
鳴の雪ふかぶかと社頭かな
明けそむる社頭の雪に鳥鳴けり

京城　寺田　光春
雪ばれや社頭に響く鈴の音
消殘るみ社の灯や今朝の雪

大連　佐藤　葉峰
拍手の響く社頭や雪明り
昇る旭に映ゆき雪の鳥居かな

大連　猪才　慶洲
御社の雪鮮かや初日影
天津日や雪の輝き大鳥居

小倉　深蛙
雪白し鎭守の社の初鳥

撫順　松尾　天巢
初日さす社頭の雪や耀けり
ぬかづけば社頭の雪の明るけれ
ほのぼのと社頭の雪や明け初む
玉砂利に社頭の雪のありにけり

ウラル丸　丸山　靑瓢
あかつきにほのぼのとある雪の宮

營口　王利　荒城
曉つひに見えず社頭の深雪かな

大連　中山草の笠
朝日さす社頭の雪やおろがみぬ
初空や深雪に鎭む宮柱
初空やほのかに雪の庭燎

神戸　石川　井蛙
初日影神のみ山の雪景色
並擬く華表幾つや春の雪

大連　筧　鳴茶
元日の雪晴れ高き鳥居かな

金州　森花　溪月
雪晴れの社頭の馬車や初詣
大雪の晴れし宮居や朝ぼらけ

長春　遠山　偲
御手植の松や社頭の雪に映ゆ

大連　小松　乙英
神殿の燈ゆらぎ雪明けし
山社雪に埋れて灯り居し

哈爾濱　玉川馬鼓洞
豐年を祈りて雪の初詣
奮居て鶏居て雪の社頭かな
雪宮のかゞやき出でし初日かな

大連　石河　羊二
雪踏みて一番がけた詣でけり
湧き出づる雪の御手洗滾々と
おろがむや御鈴の雪ふり冠り

大連　福井　豐久
禰宜出でゝやたら雪掻初めけり
御社に雪の歇みたる靜かな
雪深し宮居の森も沈むかな

旅順　昔　蘇堂
輝しや雪の宮居に日當る
輕く踏む社頭の雪や初日影

瓦房店　三浦　泉美
御舞のかゞやく雪や初詣
雪晴れて初日輝く社頭かな

大連　高木　春陵
元朝や吹雪の宮の大篝
初明り社頭の雪の白々と
初雪や社務所の前の大篝
雪晴れて鳩群れ飛べる社頭かな

金州　松本　二里
神苑の雪に照り映ふ初日かな

大連　名村天河水
雪に靜もる鎭守の森や初からす
初日影雪にきらめく千木高し
雪掃ふみたらし清し初もうで

大連　木内　硏佛
東雲や雪に籠れる山の宮
雪を踏むかそけき音や初詣

大連　永井　象月
篝火の雪に映ゆるや初詣
雪晴や石の鳥居の高々と
御洗水に雪散り込むや初詣
雪積もる華表ゝ見えて初詣
初鶏や雪の社頭の大篝
初空や雪深々と華表先
新年や社頭の松に雪の瑞

大連　北斗
初雪や社頭かゞやく朝日影

大連　早坂　北仙
野續きに社頭の雪やはれわたり
着膨れて雪の社に詣でけり
靜けさや雪の社頭の初明り
靜けさにあるや社頭の雪明り

三紀
みあかりにかゞやく雪や鈴の音

撫順　日高　秋峰
廣前の雪を汚しぬ初詣
初日影まはゆき雪の鳥居かな
御降の雪となりたる社頭かな
元旦の靜けき雪の社頭かな

遼陽　宮本　芙岳
雪晴れの社頭眩しき初日かな
社頭既に人あり雪の初明り
初日さす社頭へ雪の一路かな
雪深う靜もりませる神の庭
拜殿に羽子つく子等や雪晴るゝ

金州　福田　指月
笠脱ぎて額く雪の社頭かな

沼田つる子
初詣り雪の鳥居をくゞりけり
群鳩のさびて雪散る社頭かな

大連　阿部　天潮
輝ける社頭の雪の初日かな
雪晴れの社頭の雪に神の鳩

大連　和田　鳥峰
降りしきる社頭に雪に額きぬ
雪の道ほそぼそとある古社

佐世保　吉原蕉雨亭
縱横に寶前の雪みぞれけり
雪晴や拍手ひびく濱社

大連　川戸　國男
大雪の松の下なる祠かな
境内の深雪明りに詣でけり
いち早く詣でし人や今朝の雪
大雪に埋れはてたる宮居かな

普蘭店　長風
雪折れに鳥飛び立つ鎭守かな
雪白き荒磯の巖の宮居かな

大連　蒲城
御社の松につもりし今朝の雪

鄭家屯　須藤　胡笛
初雪やすでに人ある大社
大雪やいとも靜もり神おはす

大連　小松　乙英
雪中に元朝の灯や奥の院
神杉の雪をこぼしぬ初鴉
雪晴れの鳥居明るく潜りけり

橋頭　堀口　丘乢
雪の社和やかに晴れ初日哉
元朝の雪に靜けき社頭かな

旅順　杉田小天狗
大雪の鳥居くゞるや初詣
初詣雪の鳥居をくゞりけり
大雪ゝ一筋道や初詣

大連　細谷　芳流
雪晴れて社頭に映ゆる松の月
學童の雪踏み詣づ社頭かな

撫順　溝口　輝哉
廣前の雪踏みしめて初詣で
御社は初日に晴れて松の雪

大連　田村　甲村
映鮮杉に初日の影や千木の雪
初日麗社頭の雪の解けかゝる

京城　石橋　令邑
神苑の鶴高啼けり雪の朝
雪の路ふみ散らしたる社頭かな
深雪ふる社頭の奥の太鼓かな

大連　吉本　汀雨
神燈の灯れる澤や牡丹雪
松の雪風にこぼるゝ社頭かな
雪のふる社頭に動く物の影
神寂びし社頭の雪や明の春
野の宮や雪に埋もれし黒鳥居

賀正

朝鮮總督府鐵道局　大村卓一

朝鮮總督府鐵道局　戸田直温

朝鮮總督府鐵道局　大塚惠三郎

朝鮮總督府鐵道局　佐藤作郎

朝鮮總督府鐵道局　[illegible]

朝鮮總督府鐵道局　星野[illegible]

朝鮮總督府鐵道局　吉田浩

朝鮮運送株式會社　河合治三郎

朝鮮運送株式會社釜山支店　白垣善四郎

國際通運株式會社朝鮮支部　竹井三郎

朝鮮總督府警務局　立田清辰

朝鮮煙草元賣捌株式會社　井上清

朝鮮總督府外事課　穗積眞六郎

朝鮮京東鐵道株式會社

朝鮮鎭南浦龍井町八番地　西崎鶴太郎

京城府黃金町二丁目　花園佐吉

朝鮮鎭南浦　大日商會　河村國助

朝鮮平壤府　大同運輸株式會社　社長　福井武次郎

平壤府船橋里　大日本製糖株式會社朝鮮支店

京城府漢江通十一番地　合資會社　間組朝鮮支店

京城生命保險同業會

京城府南大門通一丁目　三國商會　土井誠一

京城府漢江通　龍山工作會社　田川常次郎

大邱　山十製糸會社

京城府蓬萊町一丁目　南滿洲鐵道株式會社　京城販賣事務所　大藤義夫

京城銀行集會所倶樂部會社團
東洋拓殖株式會社
京城電氣株式會社
三井物産株式會社
朝鮮鐵道株式會社
朝鮮郵船株式會社
金剛山電氣鐵道株式會社
京城株式現物取引市場
朝鮮火災海上保險株式會社
不二興業株式會社
朝鮮土地改良株式會社
朝鮮煙草元賣捌株式會社

朝鮮運送株式會社

朝鮮土木建築協會　京城府旭町一丁目

京城

大連市磐城町八九(西通筋)　博多屋本店　電話四四五三番

大連市浪速町　横山呉服店　電話五二三五番

鐵材商　畑中佐太吉商店　大連市吉野町四一　電話長七二七二番

度量衡　水上洋行　大連市惠比須町五三　電話六九四一番

大連市岩代町三七　寶館　電話三七五八番

大連市西廣場　演藝館　電話五三〇七番

大連市信濃町三三　帝國館　電話六九五四番

大日活　大連市磐城町　電話二三〇〇番

大連劇場　大連市若狹町　電話三九三八番

大連